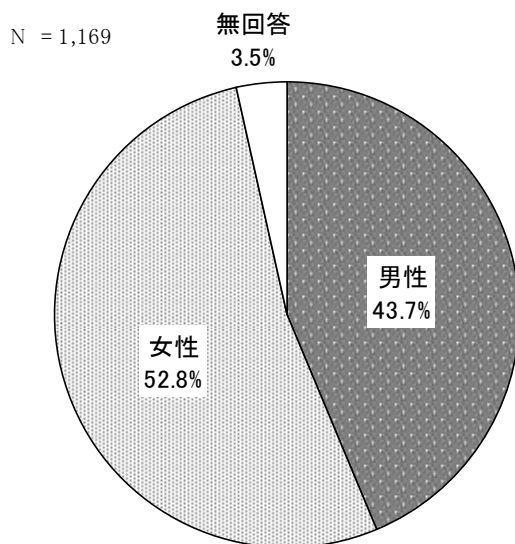


II 調査結果

1 回答者属性

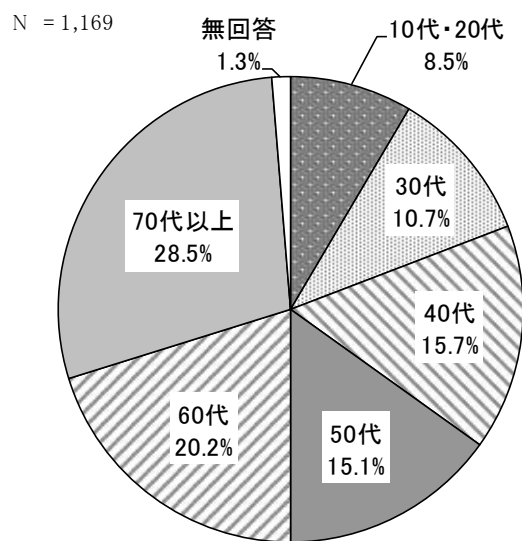
F 1 性別

「男性」の割合が43.7%、「女性」の割合が52.8%となっています。



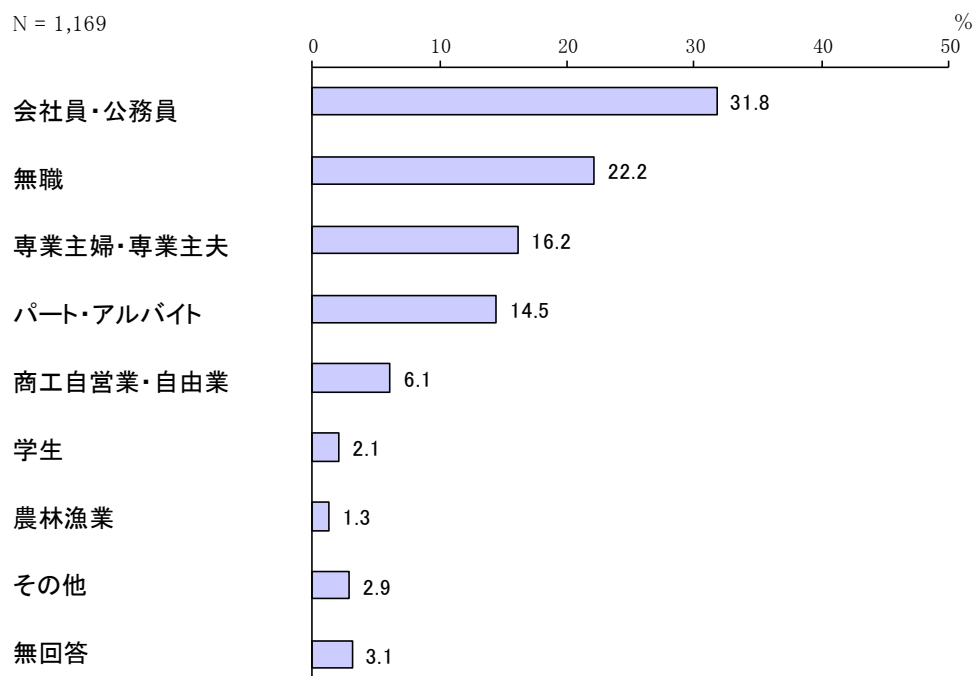
F 2 年齢

「70代以上」の割合が28.5%と最も高く、次いで「60代」の割合が20.2%、「40代」の割合が15.7%となっています。



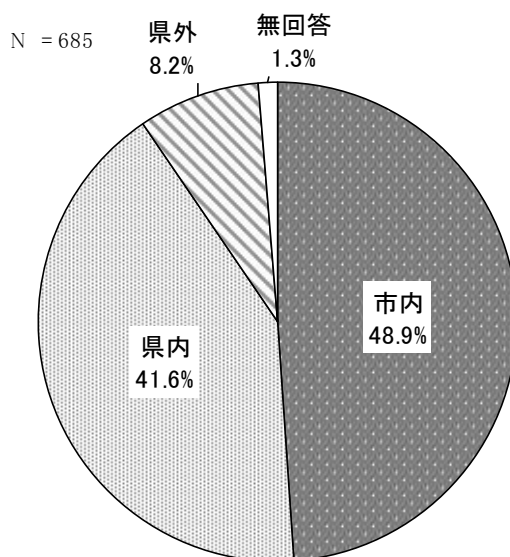
F 3 職業

「会社員・公務員」の割合が31.8%と最も高く、次いで「無職」の割合が22.2%、「専業主婦・専業主夫」の割合が16.2%となっています。



F 4 職場(通学地)の所在地(無職、専業主婦・専業主夫を除く)

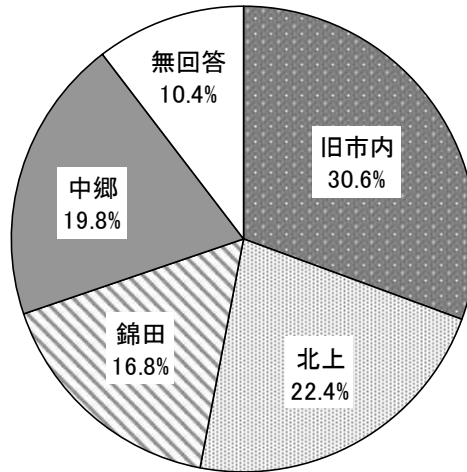
「市内」の割合が48.9%と最も高く、次いで「県内」の割合が41.6%となっています。



F 5 お住まいの町名（居住地区）

「旧市内」の割合が30.6%と最も高く、次いで「北上」の割合が22.4%、「中郷」の割合が19.8%となっています。

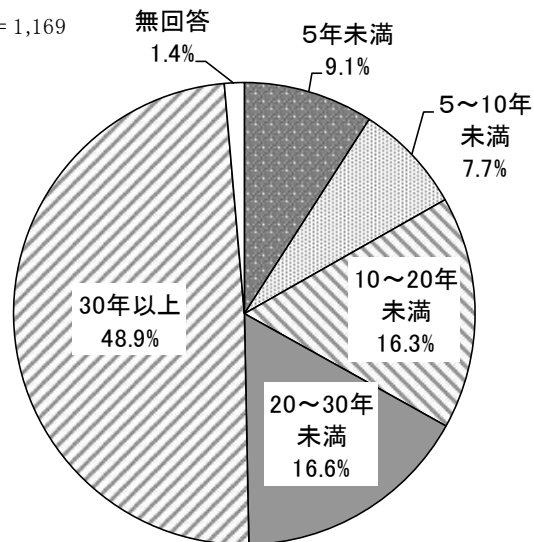
N = 1,169



F 6 三島市在住歴

「30年以上」の割合が48.9%と最も高く、次いで「20～30年未満」の割合が16.6%、「10～20年未満」の割合が16.3%となっています。

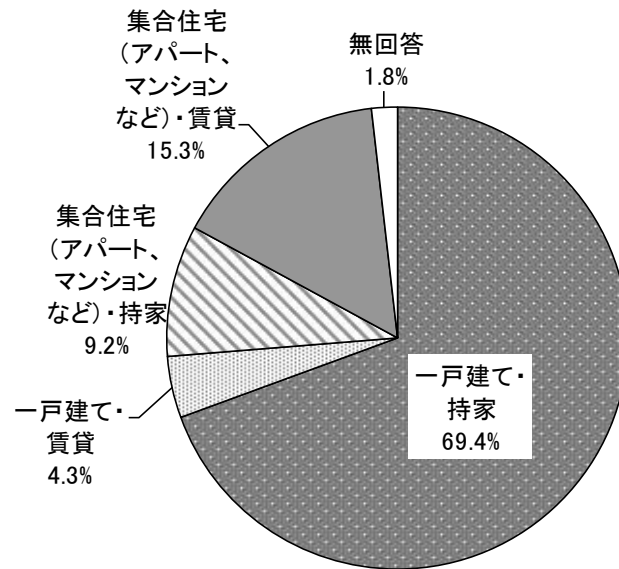
N = 1,169



F 7 お住まいの住宅

「一戸建て・持家」の割合が69.4%と最も高く、次いで「集合住宅（アパート、マンションなど）・賃貸」の割合が15.3%となっています。

N = 1,169

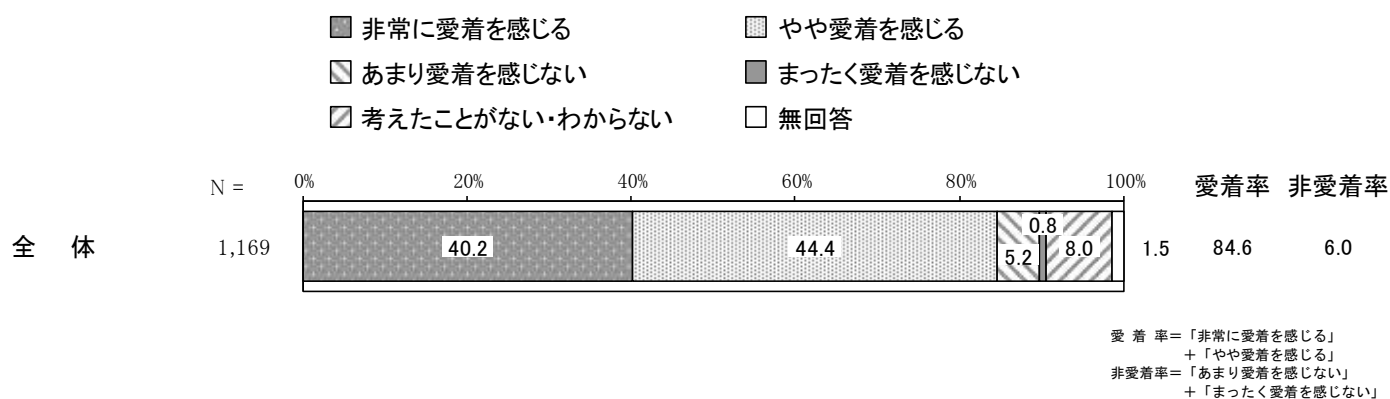


2 『居住環境』について

問1 あなたは、三島市に愛着を感じますか。(○は一つ)

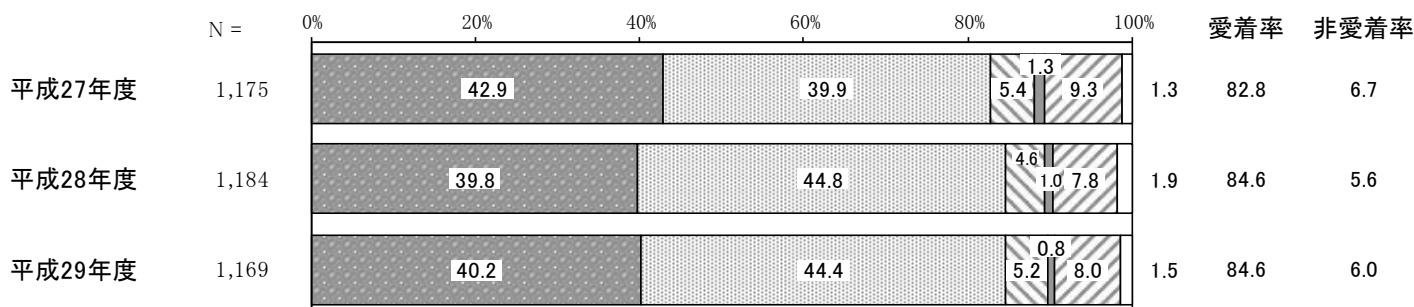
—三島市への“愛着率”は84.6%—

「非常に愛着を感じる」と「やや愛着を感じる」を合わせた“愛着率”は84.6%でした。
「あまり愛着を感じない」と「まったく愛着を感じない」を合わせた“非愛着率”は6.0%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられず、“愛着率”は8割半ばとなっています。



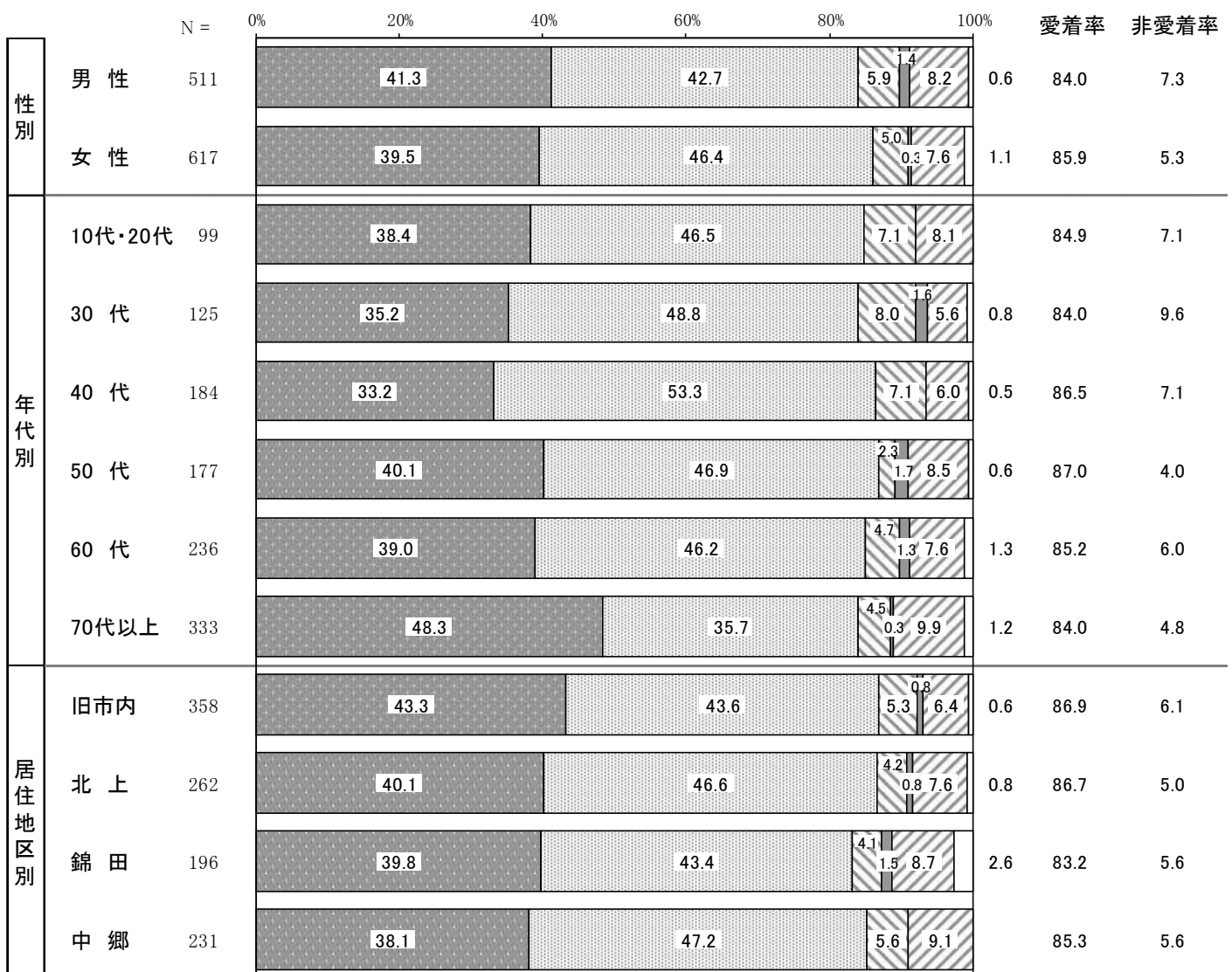
【属性別比較】

性別でみると、“愛着率”（男性 84.0%、女性 85.9%）では、大きな差はみられず、男性、女性とも8割半ばとなっています。

年代別でみると、“愛着率”はすべての年代で高く、8割を超えています。また、「非常に愛着を感じる」が70代以上（48.3%）で高くなっています。

居住地区別でみると、“愛着率”では、居住地区による大きな差はみられず、いずれの居住地区でも8割を超えています。

- 非常に愛着を感じる
- やや愛着を感じる
- あまり愛着を感じない
- まったく愛着を感じない
- 考えたことがない・わからない
- 無回答

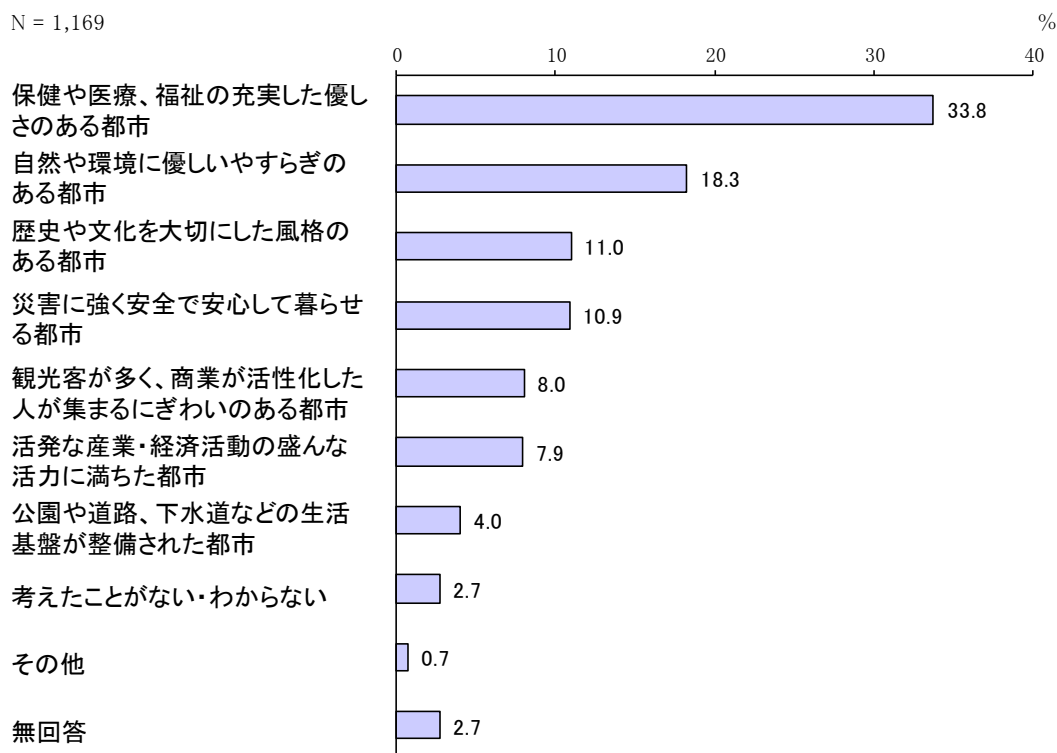


問2 あなたは、三島市が将来どのような町になったらよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(〇は一つ)

—将来の都市像は「保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市」が33.8%—

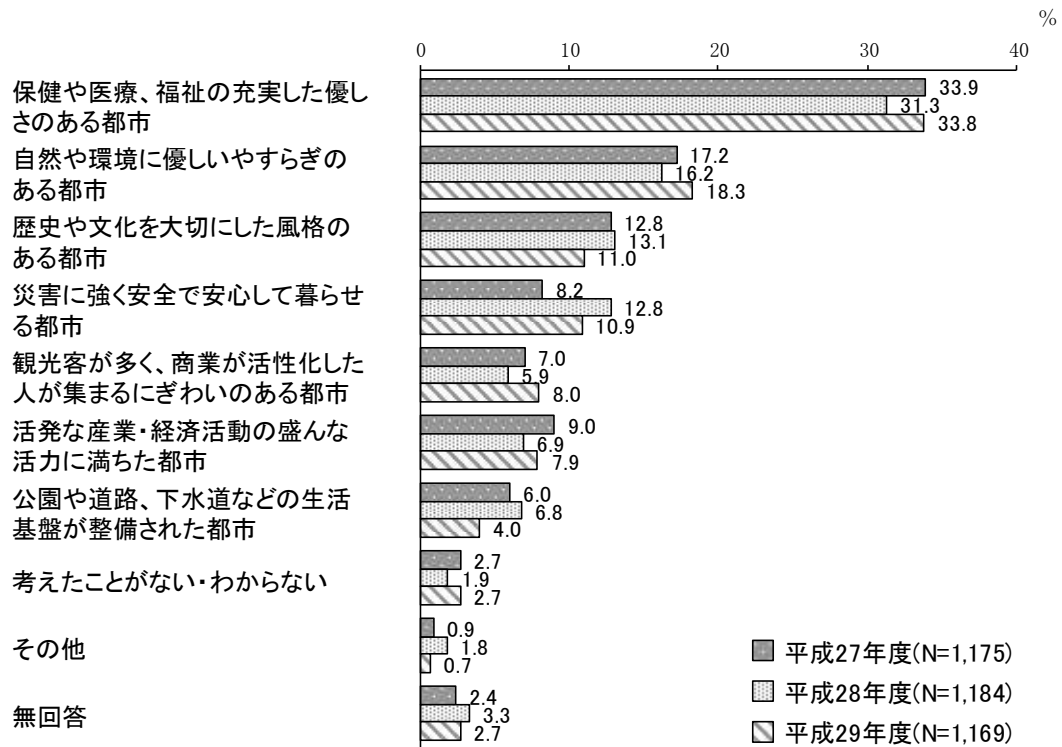
「保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市」の割合が33.8%と最も高く、次いで「自然や環境に優しいやすらぎのある都市」の割合が18.3%、「歴史や文化を大切にした風格のある都市」の割合が11.0%となっています。

N = 1,169



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。



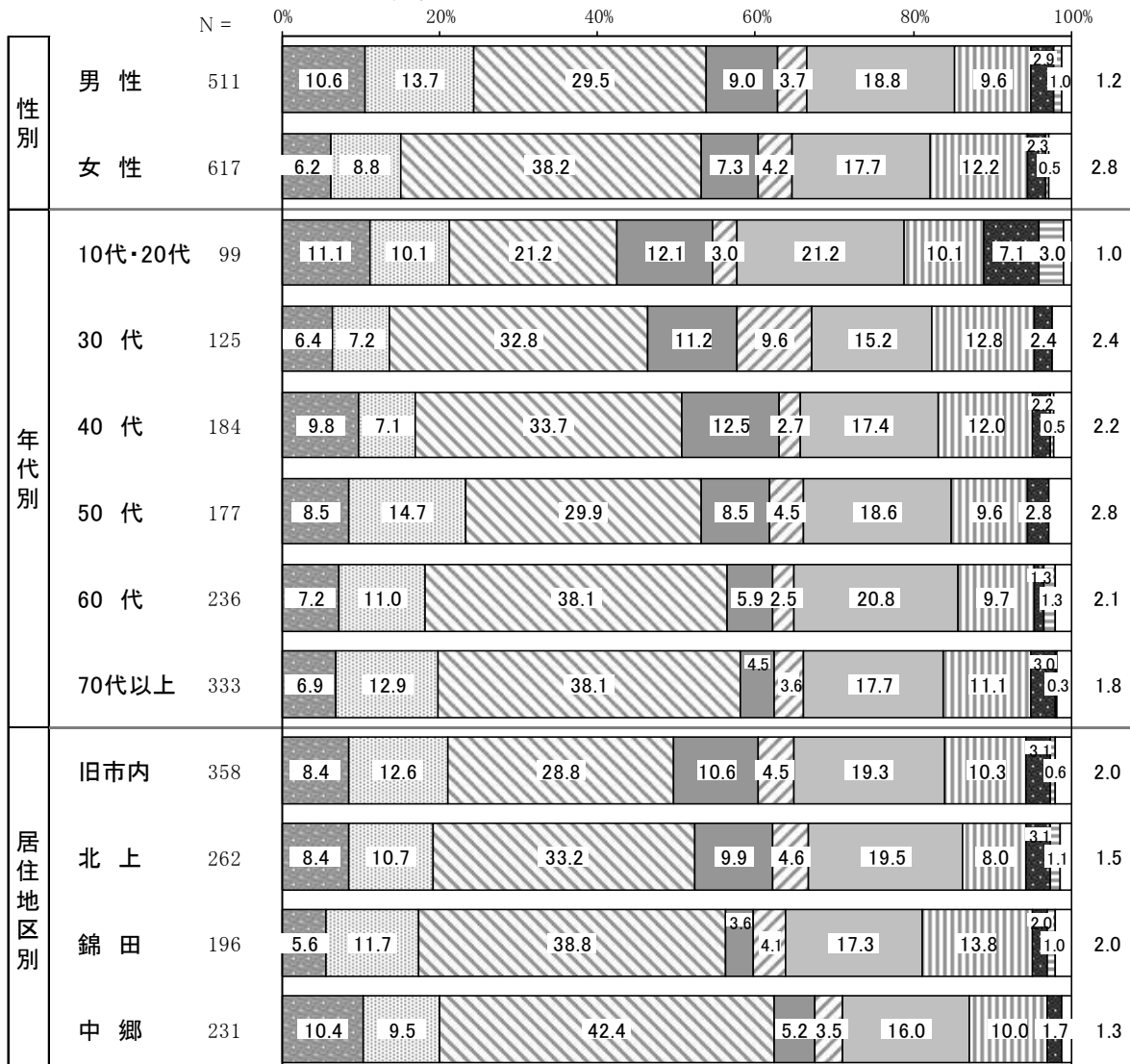
【属性別比較】

性別でみると、男性・女性ともに「保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市」（男性 29.5%、女性 38.2%）が最も高くなっています。また、「歴史や文化を大切にした風格のある都市」が男性（13.7%）で3位であるのに対し、「災害に強く安全で安心して暮らせる都市」が女性（12.2%）で3位となっています。

年代別でみると、すべての年代で「保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市」が最も高く、10代・20代では「自然や環境に優しいやすらぎのある都市」も同率となっています。

居住地区別でみると、いずれの居住地区でも「保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市」が最も高くなっているものの、旧市内（28.8%）で3割未満となっています。

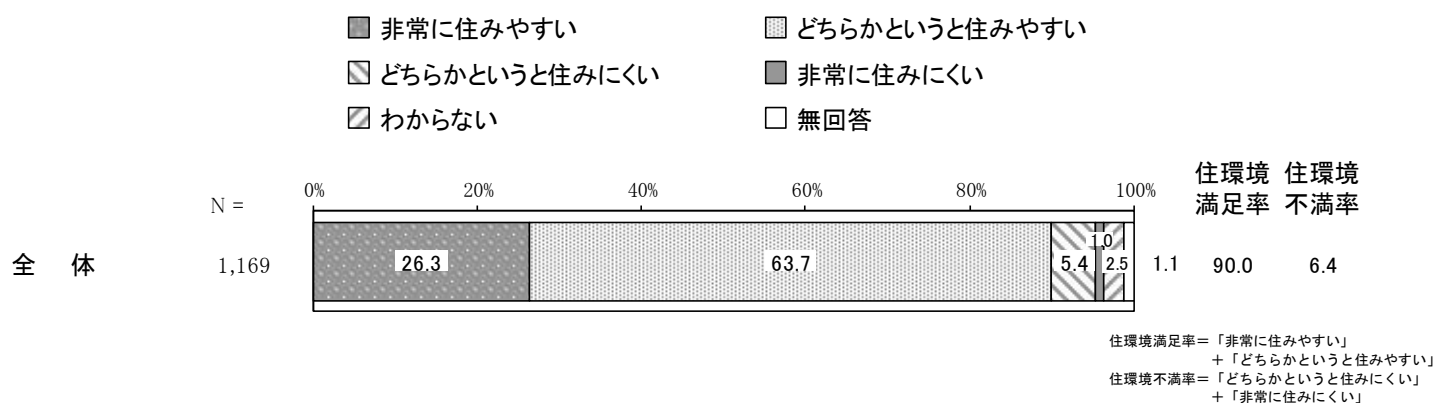
- 活発な産業・経済活動の盛んな活気に満ちた都市
- ▨ 歴史や文化を大切にした風格のある都市
- ▩ 保健や医療、福祉の充実した優しさのある都市
- 観光客が多く、商業が活性化した人が集まるにぎわいのある都市
- ▨ 公園や道路、下水道などの生活基盤が整備された都市
- 自然や環境に優しいやすらぎのある都市
- ▩ 災害に強く安全で安心して暮らせる都市
- 考えたことがない・わからない
- ▨ その他
- 無回答



問3 あなたは、三島市が住みやすいところだと思いますか。(〇は一つ)

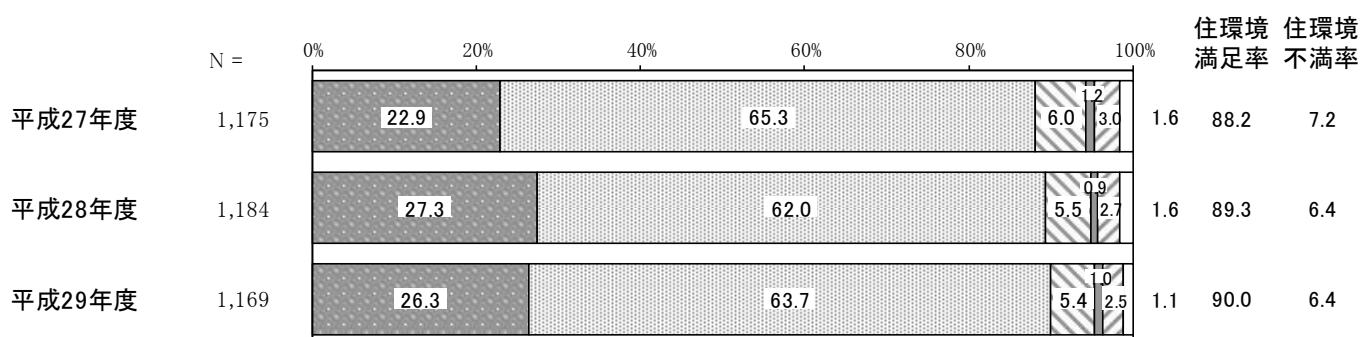
—三島市が“住みやすい”と感じる人は90.0%—

「非常に住みやすい」(26.3%)、「どちらかというに住みやすい」(63.7%)を合わせた“住環境満足率”は90.0%となっています。一方、「どちらかというに住みにくい」(5.4%)、「非常に住みにくい」(1.0%)を合わせた“住環境不満率”は6.4%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられず、“住環境満足率”は約9割となっています。

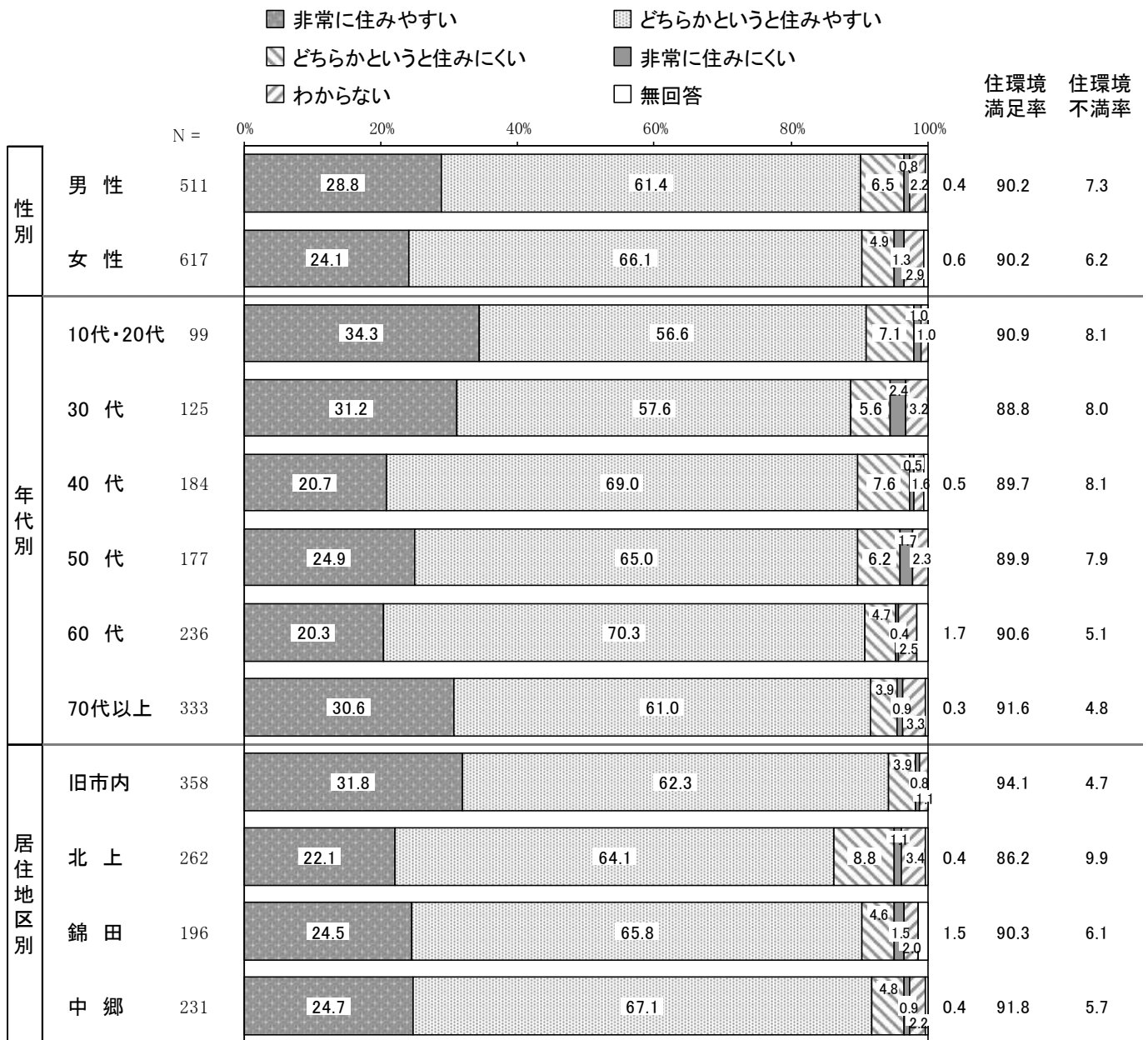


【属性別比較】

性別でみると、「住環境満足率」（男性 90.2%、女性 90.2%）は同率で、男性・女性とも約9割となっています。

年代別でみると、「住環境満足率」は、いずれの年代でも約9割を占めています。また、「非常に住みやすい」は、10代・20代（34.3%）が高く、40代（20.7%）、60代（20.3%）が低くなっています。

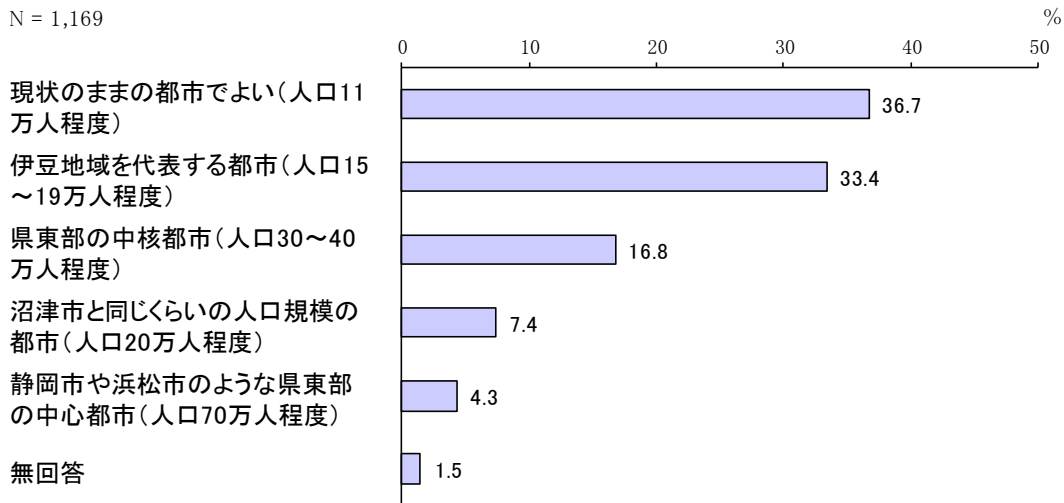
居住地区別でみると、「住環境満足率」は、旧市内（94.1%）、錦田（90.3%）、中郷（91.8%）で9割を超えています。一方、北上（86.2%）では9割未満となっています。



問4 あなたは、三島市を含むこの地域が将来どのような都市になることが望ましいとお考えですか。(〇は一つ)

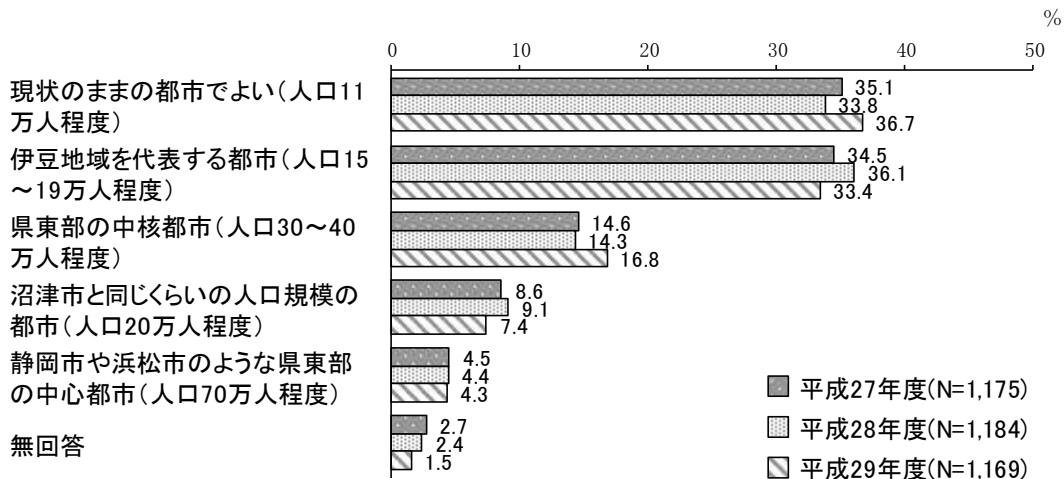
—将来の都市規模は「現状のままの都市でよい(人口11万人程度)」が36.7%—

「現状のままの都市でよい(人口11万人程度)」の割合が36.7%と最も高く、次いで「伊豆地域を代表する都市(人口15~19万人程度)」の割合が33.4%、「県東部の中核都市(人口30~40万人程度)」の割合が16.8%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、平成28年度では「伊豆地域を代表する都市(人口15~19万人程度)」(36.1%)の割合が最も高かったものの、平成29年度では「現状のままの都市でよい(人口11万人程度)」(36.7%)の割合が最も高くなっています。

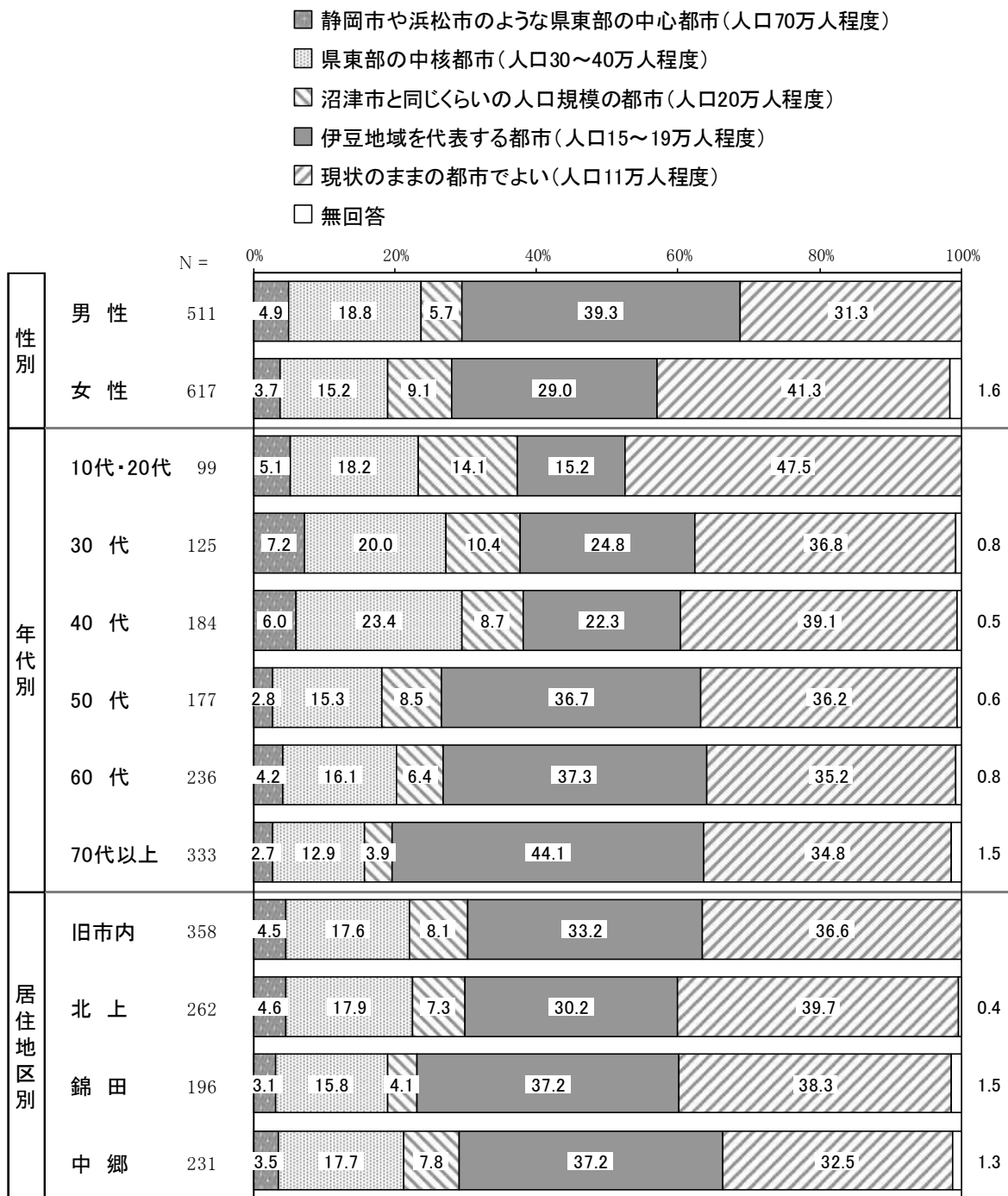


【属性別比較】

性別でみると、「伊豆地域を代表する都市（人口15～19万人程度）」が男性（39.3%）で最も高く、「現状のままの都市でよい（人口11万人程度）」が女性（41.3%）で最も高くなっています。

年代別でみると、10代・20代から40代では「現状のままの都市でよい（人口11万人程度）」が最も高く、50代以上では「伊豆地域を代表する都市（人口15～19万人程度）」が最も高くなっています。

居住地区別でみると、「現状のままの都市でよい（人口11万人程度）」が旧市内（36.6%）、北上（39.7%）、錦田（38.3%）では最も高くなっています。



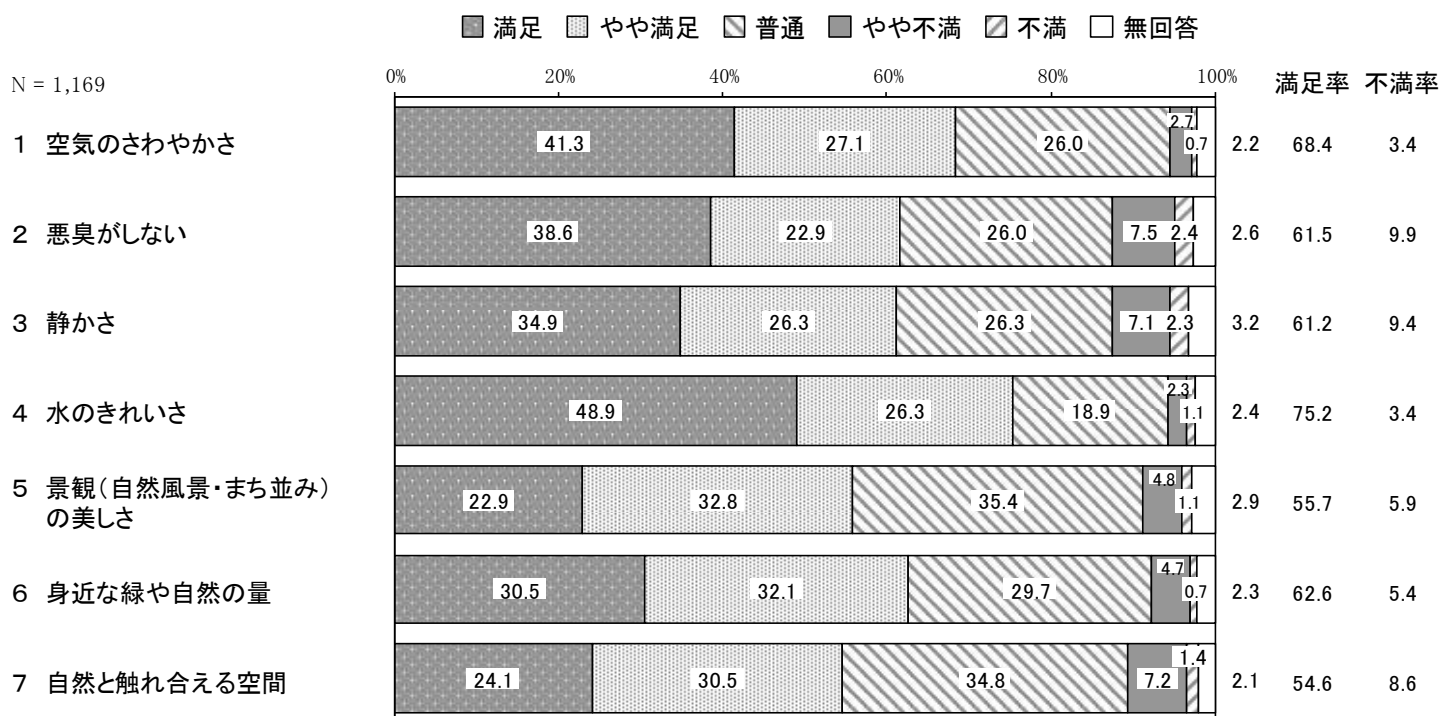
問5 あなたが住む地域の生活環境の満足度についてお答えください。
1～7の項目ごとに該当する番号を選んでください。

—生活環境の満足率は『水のきれいさ』で75.2%—

生活環境の満足度について聞いたところ、いずれの項目でも「満足」と「やや満足」を合わせた“満足率”が「やや不満」と「不満」を合わせた“不満率”を上回っています。

“満足率”は、『4 水のきれいさ』(75.2%)で約7割となっています。また、「満足」は、『1 空気のさわやかさ』(41.3%)、『4 水のきれいさ』(48.9%)が高く、『5 景観(自然風景・まち並み)の美しさ』(22.9%)では約2割となっています。

一方、“不満率”は『2 悪臭がしない』(9.9%)、『7 自然と触れ合える空間』(8.6%)、『3 静かさ』(9.4%)で約1割となっています。

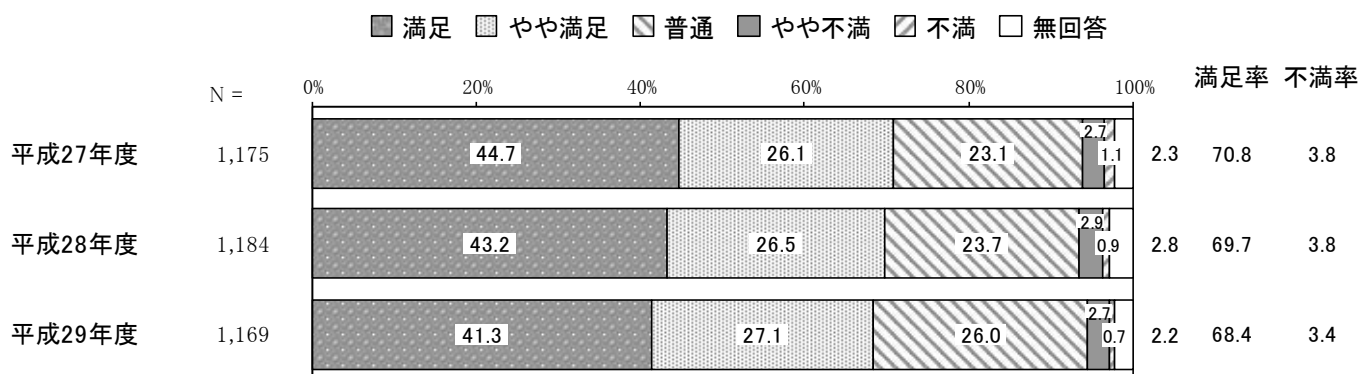


満足率 = 「満足」 + 「やや満足」
不満率 = 「やや不満」 + 「不満」

①空気のさわやかさ

【時系列比較】

時系列でみると、平成 27 年度以降、“満足率”がやや減少しており、平成 29 年度では7割以下となっています。



【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性 70.2%、女性 67.7%）で、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも約7割となっています。

年代別でみると、“満足率”は10代・20代が最も高く、7割を超えています。一方、「満足」は、30代から50代で低く、3割台となっています。

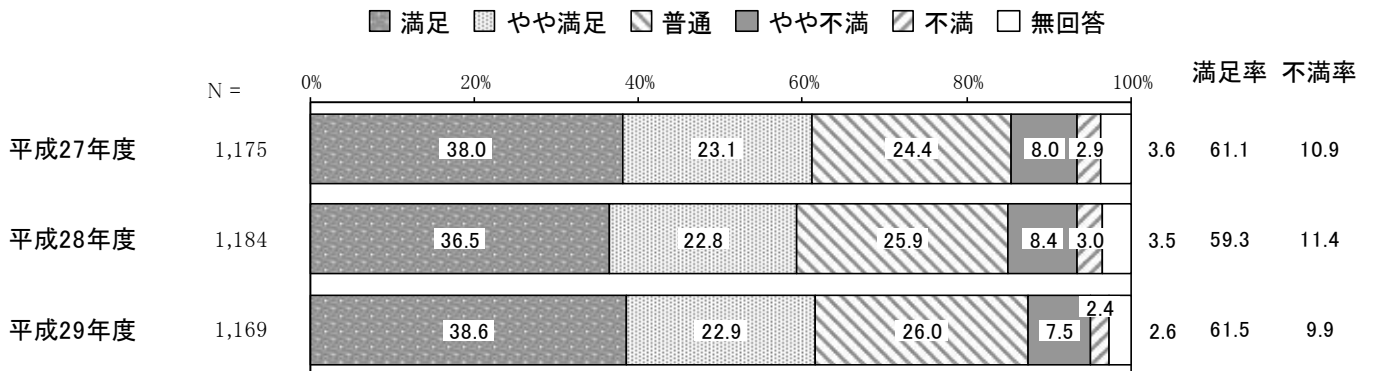
居住地区別でみると、“満足率”は北上（74.4%）で最も高く、「満足」も北上（47.3%）で約5割となっています。



②悪臭がしない

【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はなく、“満足率”は約6割となっています。

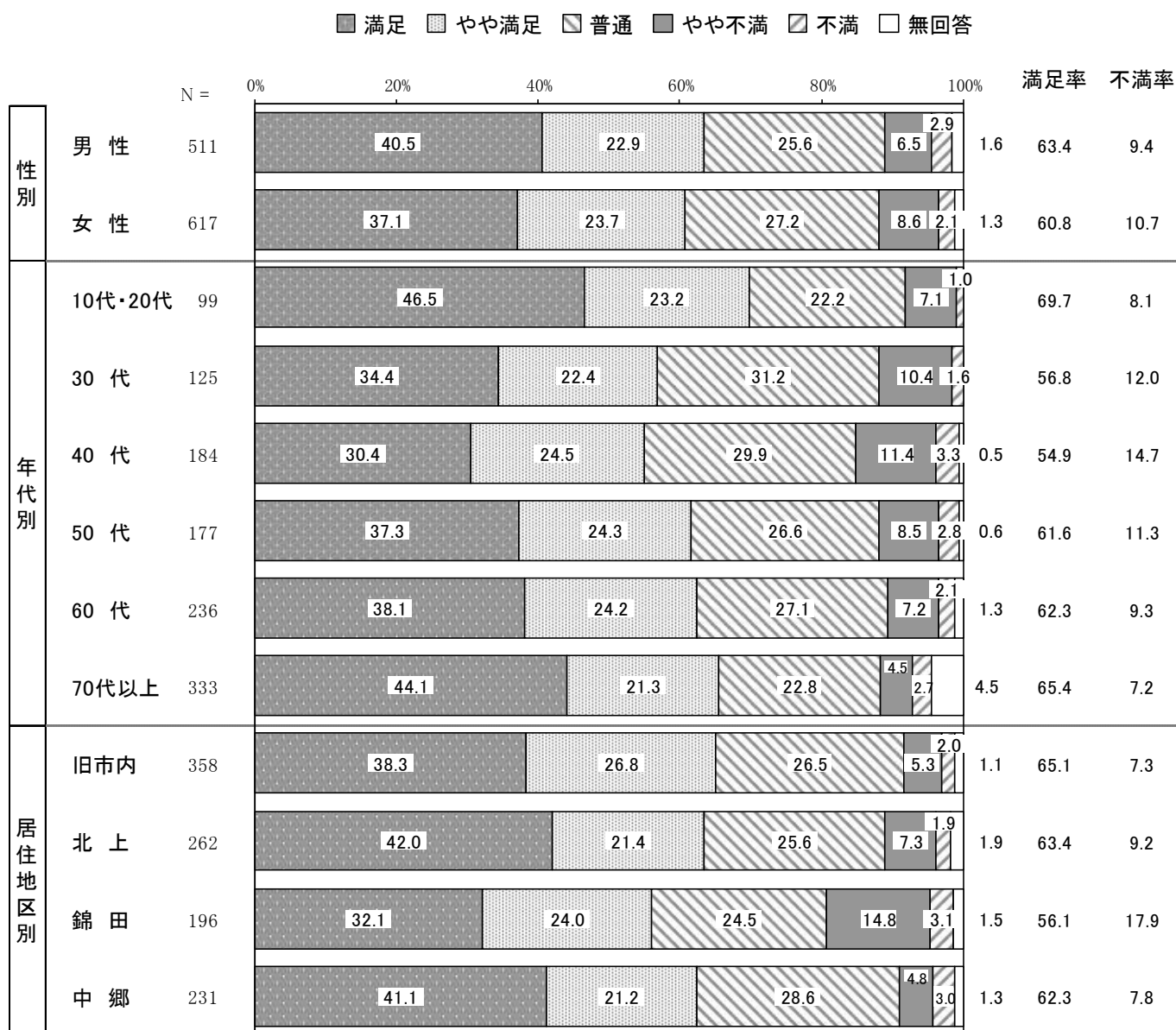


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性 63.4%、女性 60.8%）で、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも約6割となっています。

年代別でみると、“満足率”は10代・20代（69.7%）が最も高く、次いで70代以上（65.4%）、60代（62.3%）となっていますが、30代（56.8%）、40代（54.9%）では5割半ばと低くなっています。

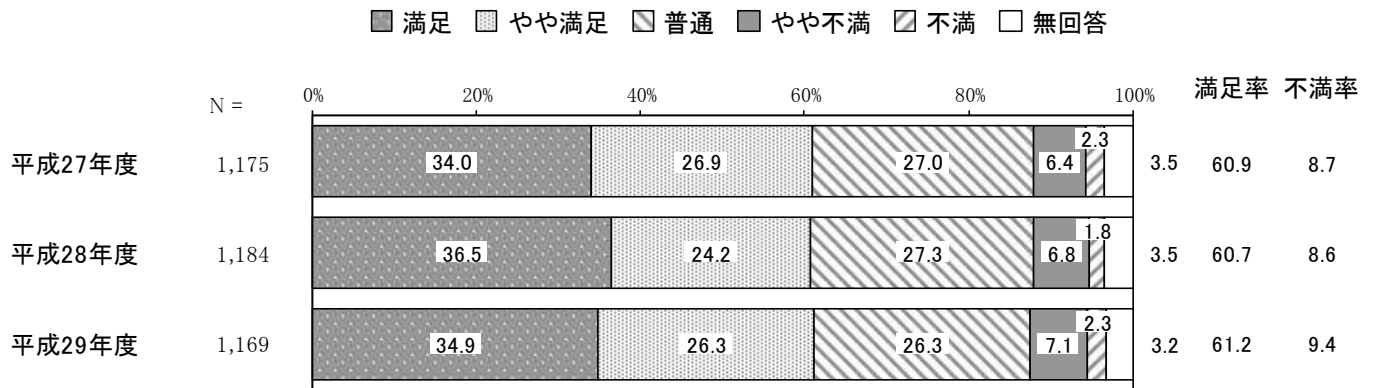
居住地区別でみると、“満足率”は旧市内（65.1%）で最も高く、次いで北上（63.4%）、中郷（62.3%）と、6割を超えています。



③静かさ

【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はなく、“満足率”は約6割となっています。



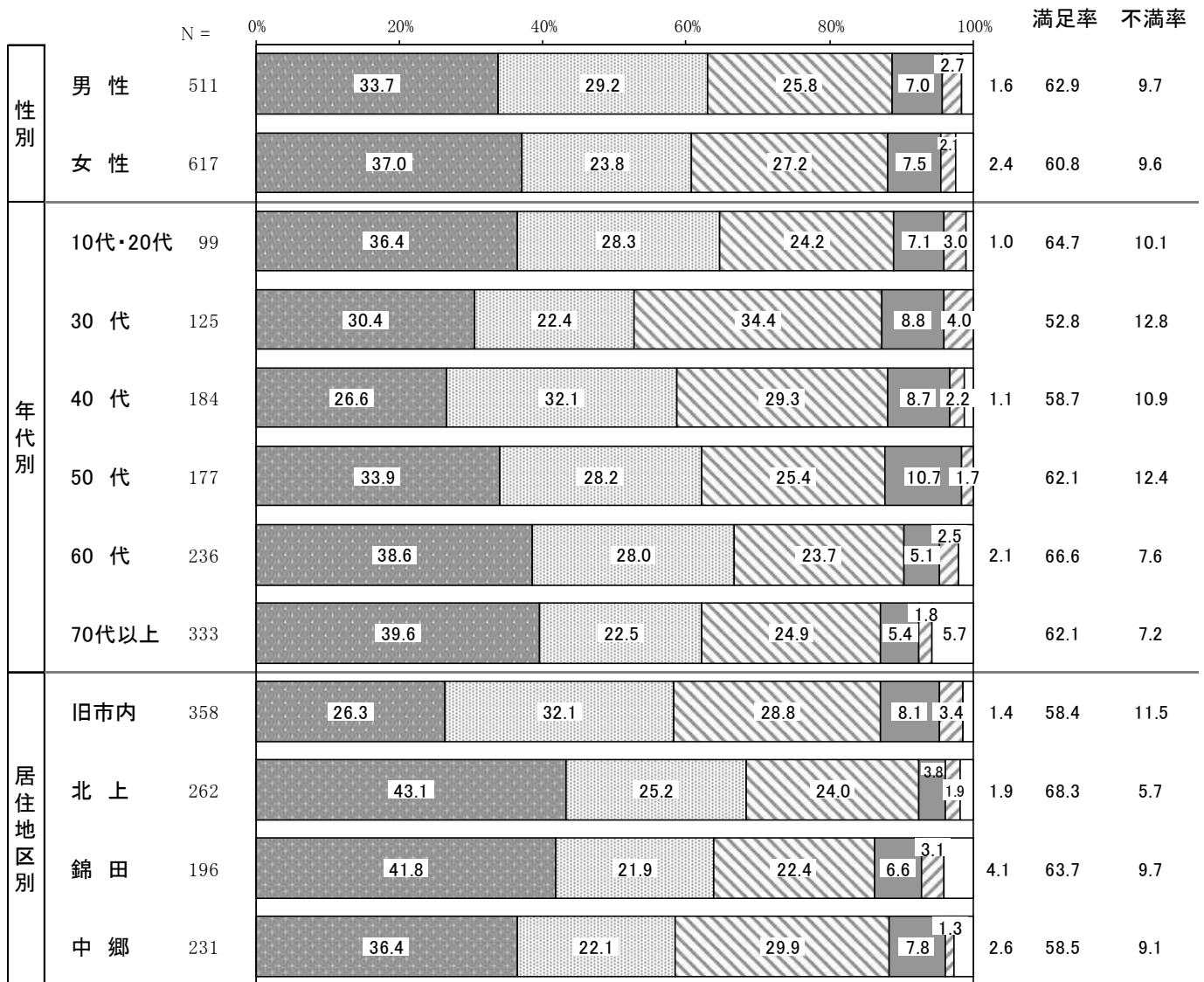
【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性 62.9%、女性 60.8%）で、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも約6割となっています。

年代別でみると、“満足率”は10代・20代、50代、60代、70代以上で高く、6割を超えています。一方、30代（52.8%）で低くなっています。

居住地区別でみると、“満足率”は北上（68.3%）で最も高く、約7割となっています。一方、“不満率”は旧市内（11.5%）で高く、1割を超えています。

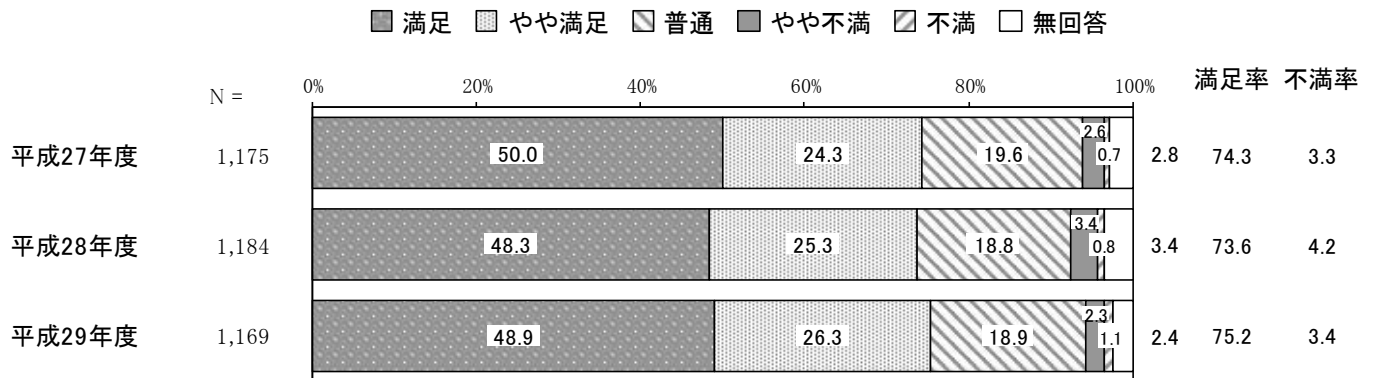
■ 満足 ■ やや満足 ▨ 普通 ■ やや不満 ▨ 不満 □ 無回答



④水のきれいさ

【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はなく、“満足率”は7割半ばとなっています。

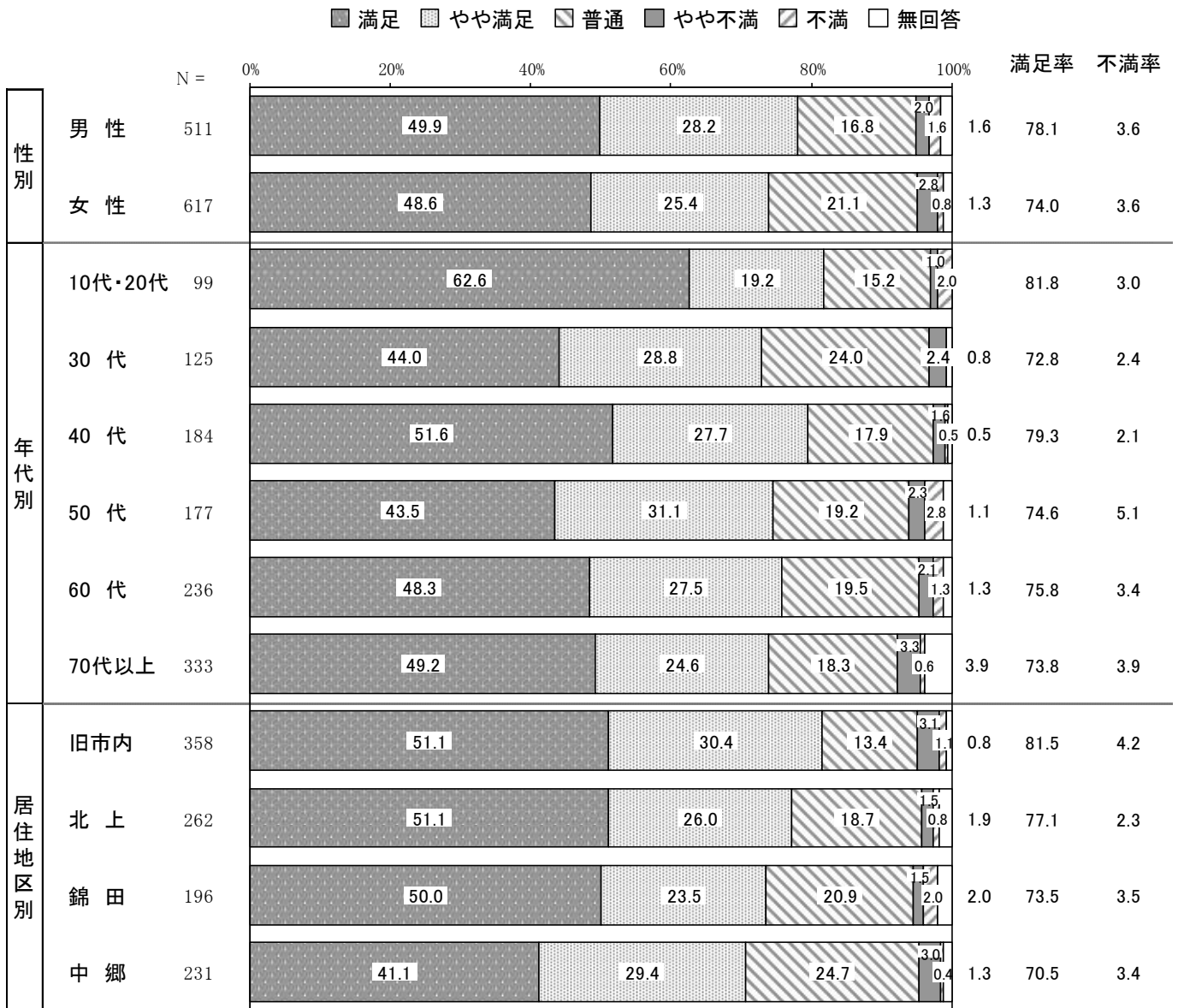


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性 78.1%、女性 74.0%）で、性別による大きな差はみられず、男性は8割近く、女性は7割半ばとなっています。

年代別でみると、“満足率”は10代・20代（81.8%）で最も高く、次いで40代（79.3%）で、約8割となっています。

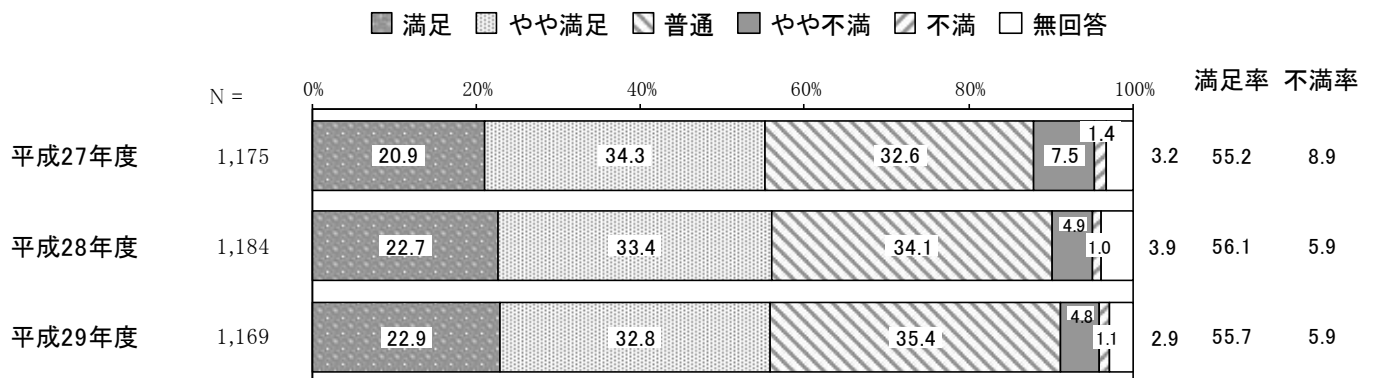
居住地区別でみると、“満足率”は旧市内（81.5%）で最も高くなっています。



⑤景観（自然風景・まち並み）の美しさ

【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はなく、“満足率”は5割半ばとなっています。

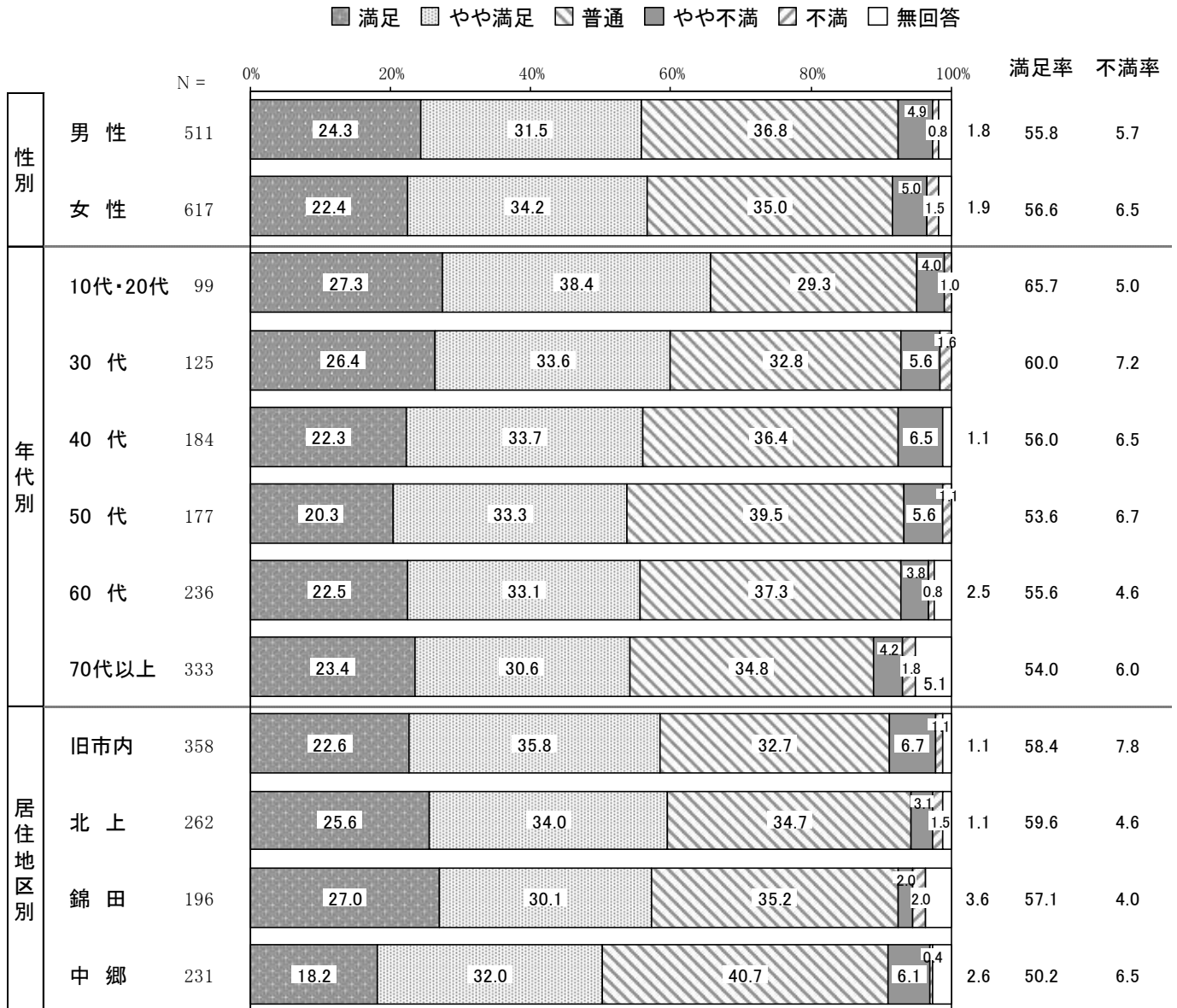


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性 55.8%、女性 56.6%）で、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも5割半ばとなっています。

年代別でみると、“満足率”は10代・20代（65.7%）が最も高く、次いで30代（60.0%）が高く、6割以上となっています。

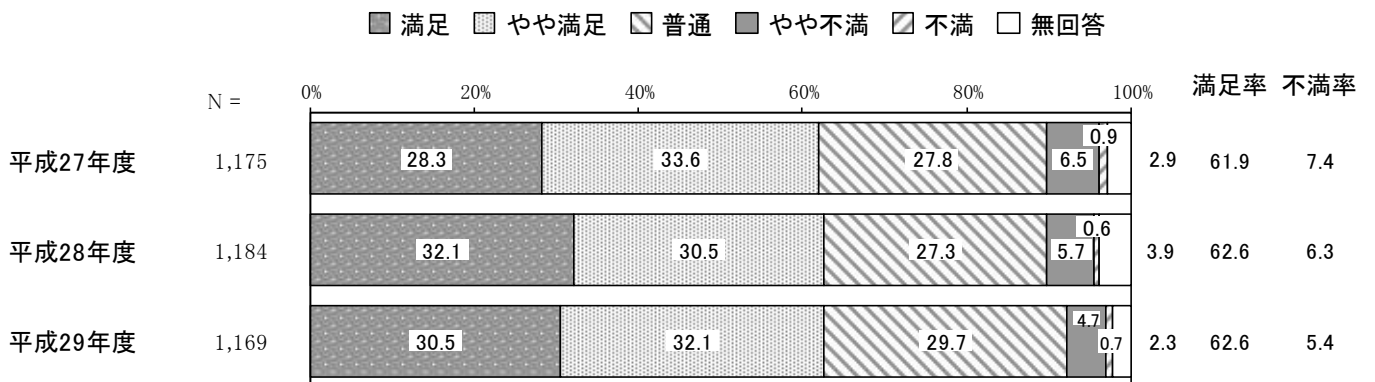
居住地区別でみると、“満足率”は北上（59.6%）で最も高く、次いで旧市内（58.4%）、錦田（57.1%）と約6割となっています。



⑥身近な緑や自然の量

【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はなく、“満足率”は6割を超えています。

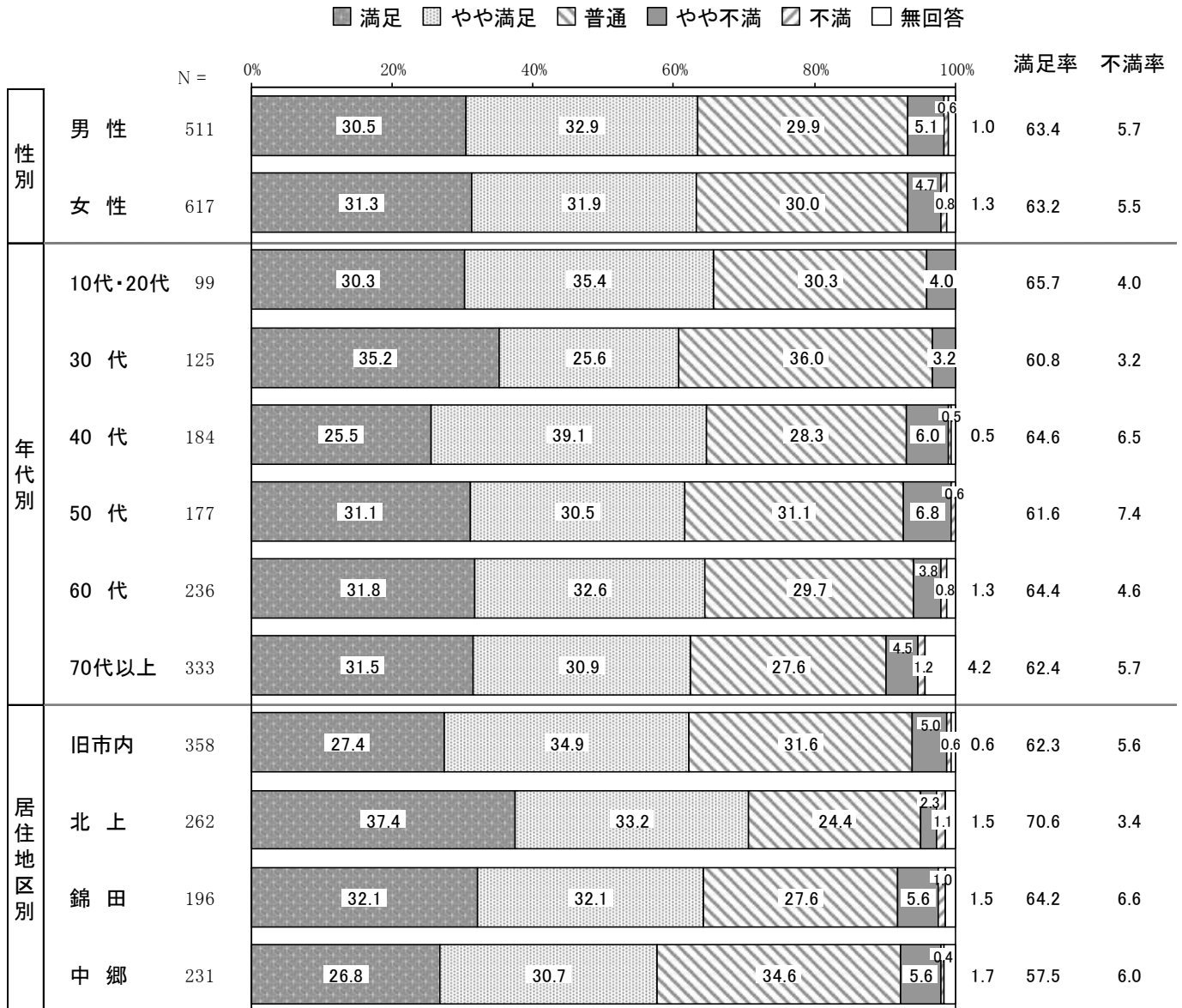


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性 63.4%、女性 63.2%）で、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも6割を超えています。

年代別でみると、“満足率”は10代・20代（65.7%）で高く、次いで40代（64.6%）、60代（64.4%）で、6割半ばとなっています。

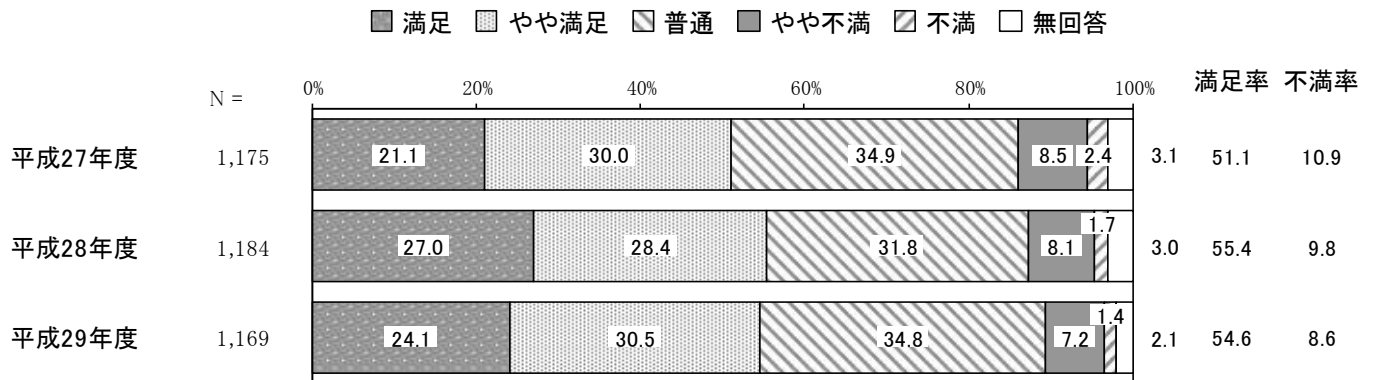
居住地区別でみると、“満足率”は北上（70.6%）で最も高く、約7割となっています。一方、中郷（57.5%）では6割未満となっています。



⑦自然と触れ合える空間

【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はなく、“満足率”は5割半ばとなっています。また、“不満率”はわずかに減少しています。

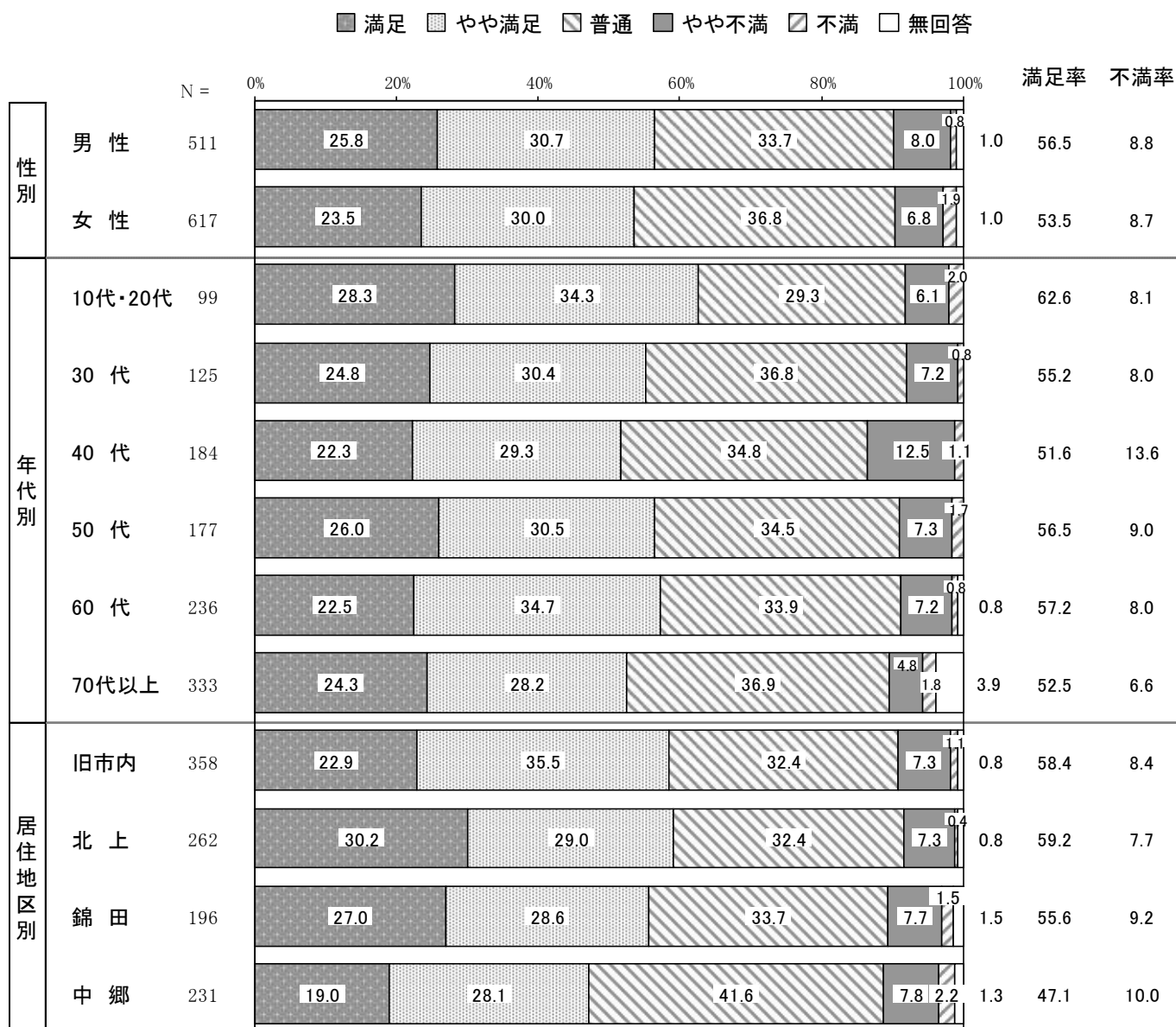


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性 56.5%、女性 53.5%）で、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも5割を超えています。

年代別でみると、“満足率”は10代・20代（62.6%）で最も高く、一方、40代（51.6%）、70代以上（52.5%）で低くなっています。

居住地区別でみると、“満足率”は北上（59.2%）で最も高く、次いで旧市内（58.4%）と約6割となっています。一方、中郷（47.1%）では5割未満と低くなっています。



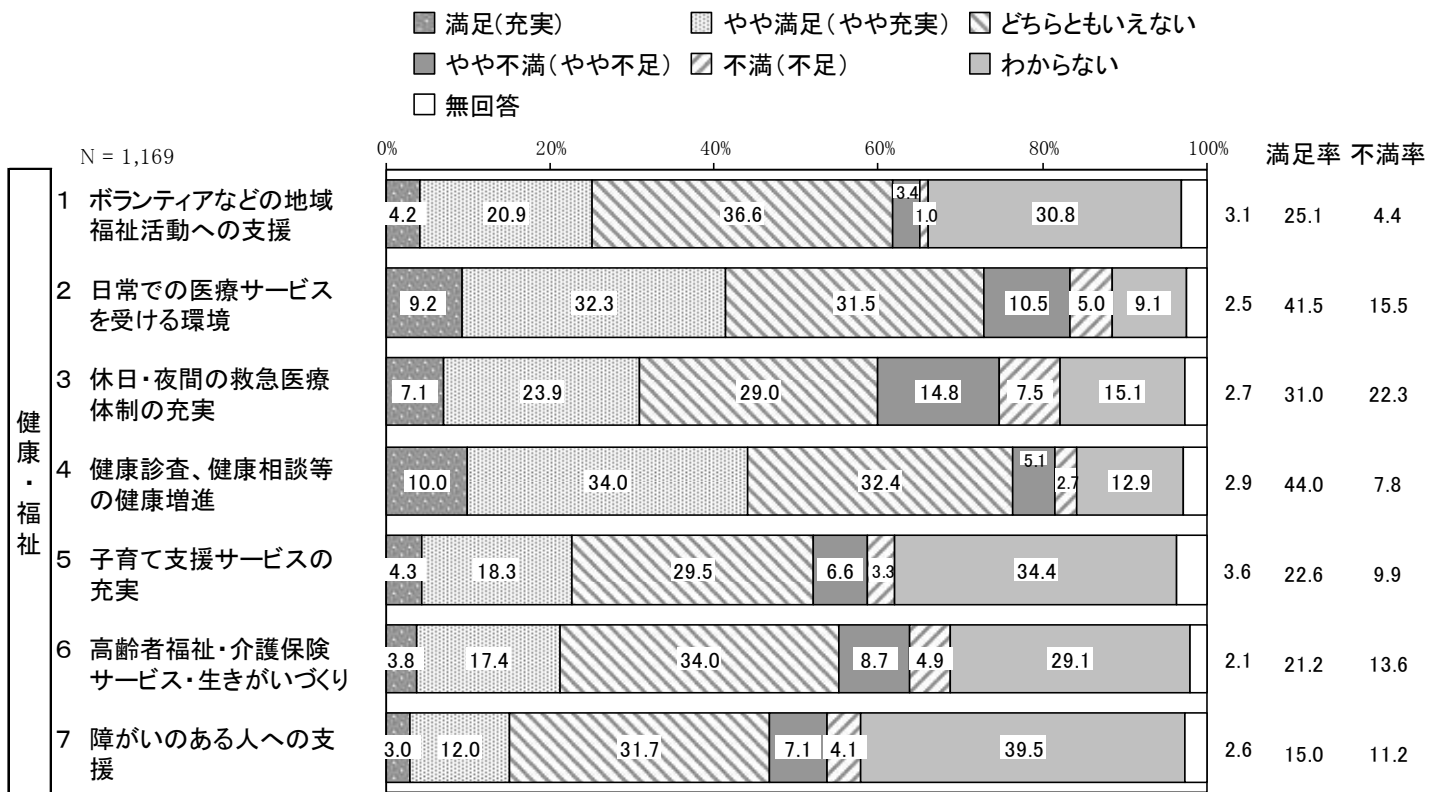
3 『市の取り組みの満足度』について

問6 毎日の暮らしを通じて、市が行なっている施策に対する満足（充実）度についてお答えください。1～4 2の項目ごとに該当する番号を選んでください。（それぞれ○は一つ）

—三島市の施策の満足率は『せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』が71.2% 不満率は『歩道の整備』で39.8%—

三島市の施策に対する満足（充実）度について聞いたところ、“満足率”は、健康・福祉に関する項目では『4 健康診査、健康相談等の健康増進』（44.0%）、市民生活に関する項目では『9 消防・救急体制の確保』（35.4%）、産業振興に関する項目では『14 観光・イベントの振興』（40.1%）、都市基盤に関する項目では『25 せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』（71.2%）、環境保全に関する項目では『29 公園・水辺空間の整備』（49.1%）、教育文化に関する項目では『34 文化・芸術活動の振興』（26.5%）、協働行財政に関する項目では『42 「広報みしま」による市政情報の提供』（57.7%）が最も高くなっています。

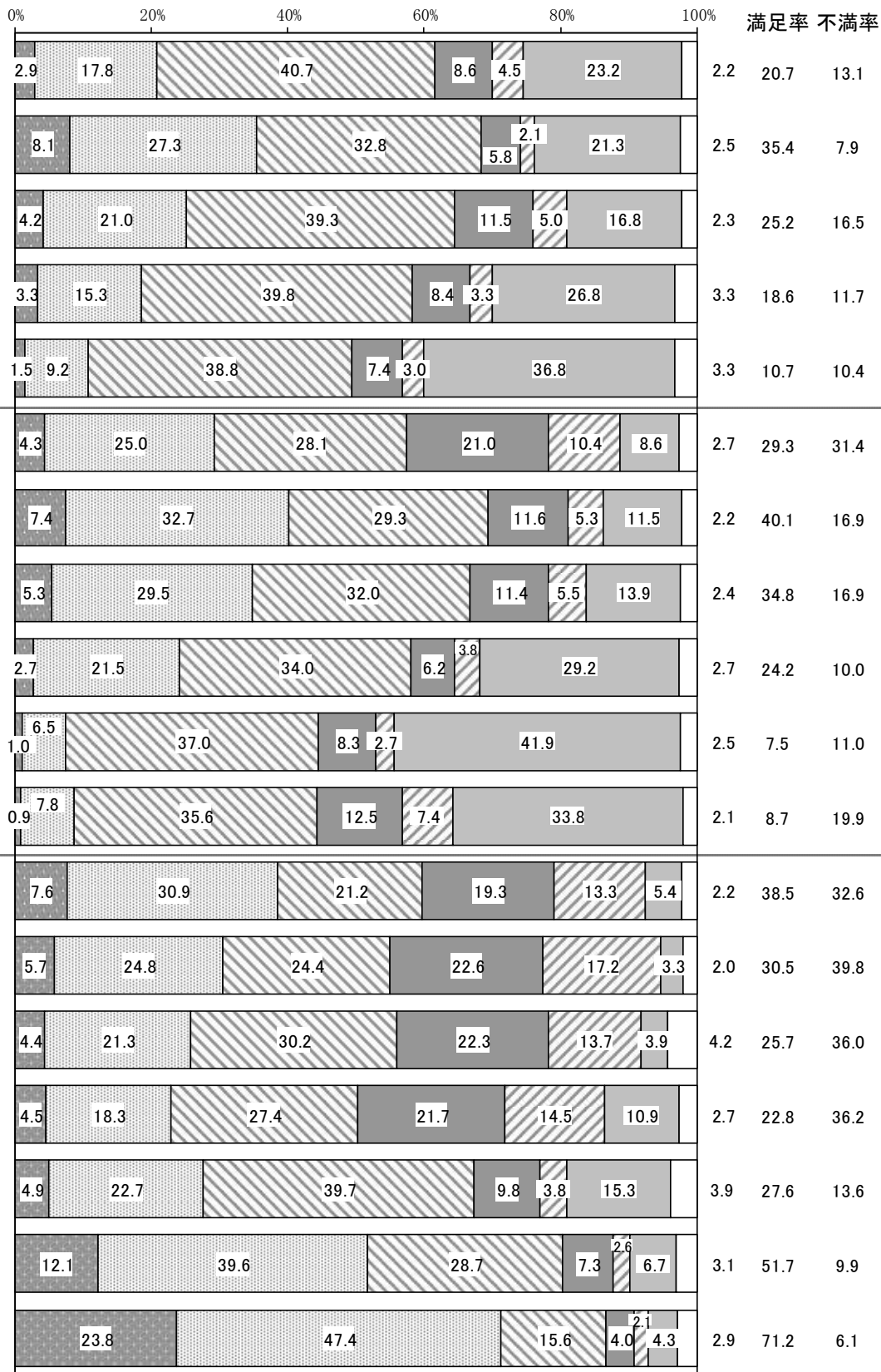
“不満率”は、健康福祉に関する項目では『3 休日・夜間の救急医療体制の充実』（22.3%）、市民生活に関する項目では『10 交通安全の対策』（16.5%）、産業振興に関する項目では『13 にぎわいある商業・商店街づくり』（31.4%）、都市基盤に関する項目では『20 歩道の整備』（39.8%）、環境保全に関する項目では『27 ごみ・リサイクル対策』（23.6%）、教育文化に関する項目では『31 幼児・学校教育の充実』、『34 文化・芸術活動の振興』（9.5%）、協働行財政に関する項目では『40 市民意見を聞く機会の充実』（13.5%）がそれぞれ最も高くなっています。



満足率 = 「満足」 + 「やや満足」
 不満率 = 「やや不満」 + 「不満」

■ 満足(充実) ■ やや満足(やや充実) ■ どちらともいえない
 ■ やや不満(やや不足) ■ 不満(不足) ■ わからない
 □ 無回答

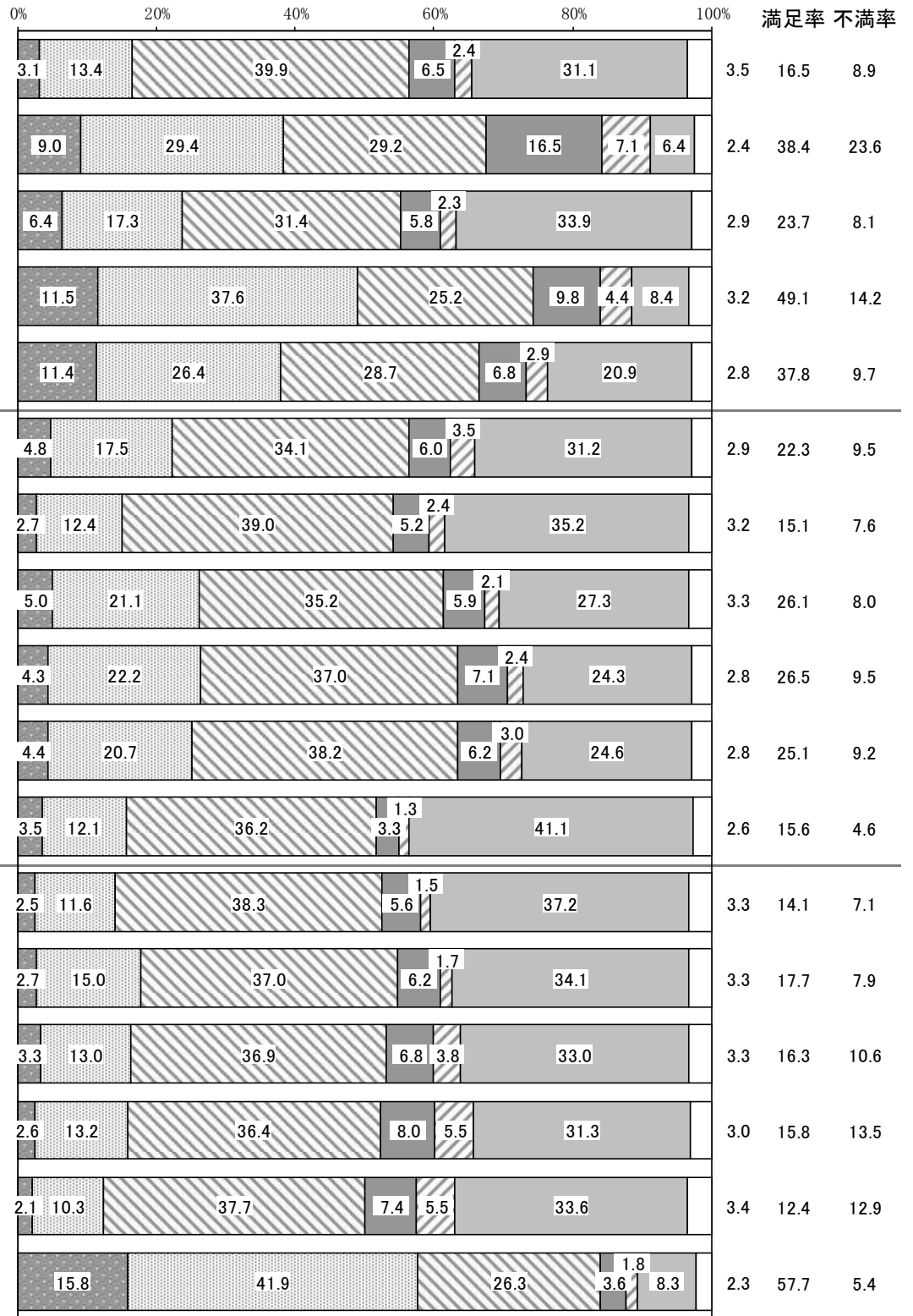
N = 1,169



満足率 = 「満足」 + 「やや満足」
 不満率 = 「やや不満」 + 「不満」

■ 満足(充実) ■ やや満足(やや充実) ■ どちらともいえない
 ■ やや不満(やや不足) ■ 不満(不足) ■ わからない
 □ 無回答

N = 1,169



満足率=「満足」+「やや満足」
 不満率=「やや不満」+「不満」

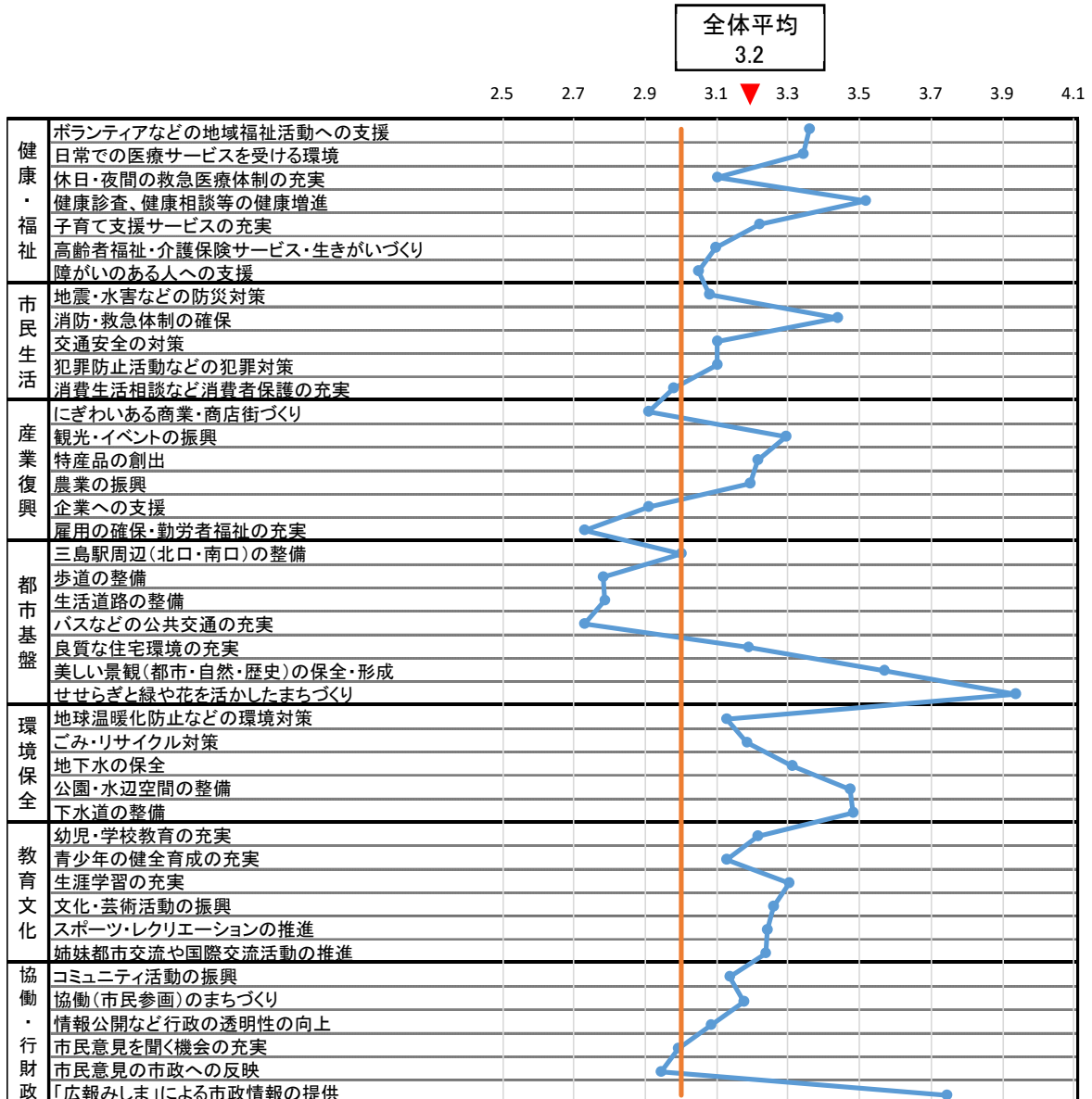
【ウェイトづけによる満足度比較】

42 項目の質問項目について、「満足度」を5つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

満足度	得点	得点の算出式
満足(充実)	5点	$ \begin{aligned} &(5点 \times \text{「満足(充実)」の回答数} \\ &+ 4点 \times \text{「やや満足(やや充実)」の回答数} \\ &+ 3点 \times \text{「どちらともいえない」の回答数} \\ &+ 2点 \times \text{「やや不満(やや不足)」の回答数} \\ &+ 1点 \times \text{「不満(不足)」の回答数} \\ &\div \text{「無回答」「わからない」を除く回答数} \end{aligned} $
やや満足(やや充実)	4点	
どちらともいえない	3点	
やや不満(やや不足)	2点	
不満(不足)	1点	
無回答・わからない	計算対象外	

「せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり」と「広報みしま」による市政情報の提供」が高く
なっており、自然との共存や市政情報の共有が強みとなっています。

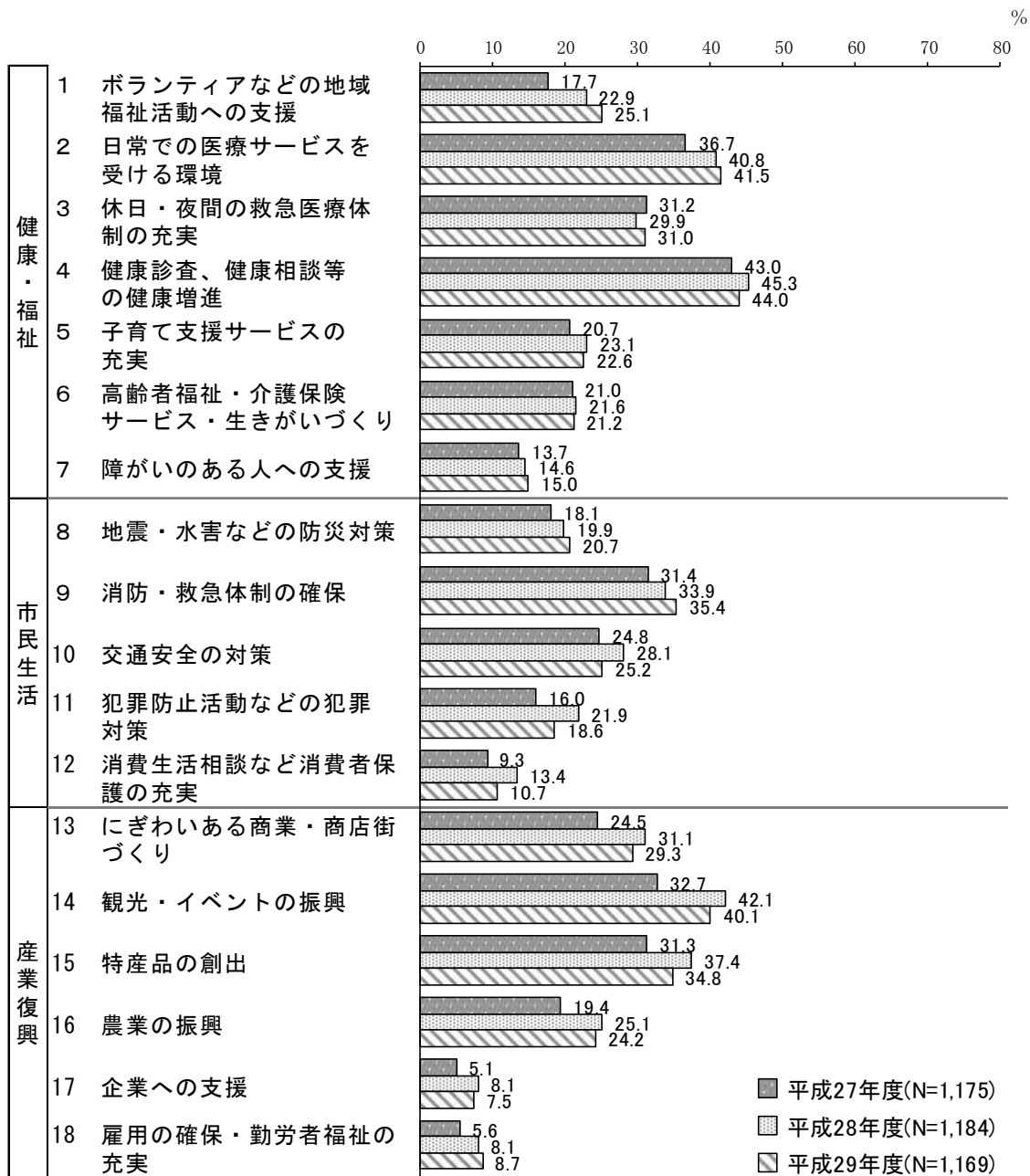
一方、「バスなどの公共交通の充実」、「歩道の整備」、「生活道路の整備」、が低くなっており、
都市基盤の整備が求められます。

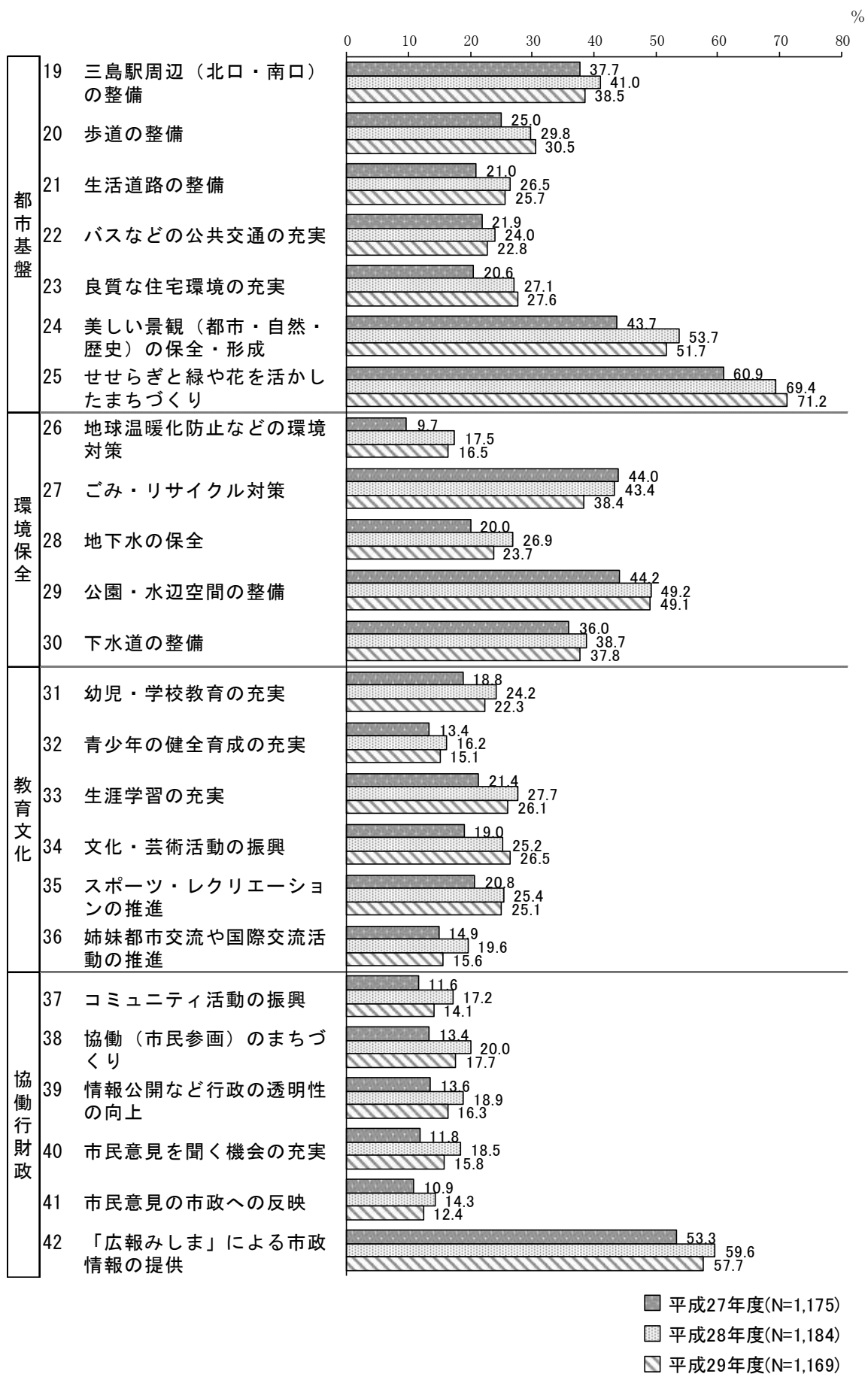


【時系列比較】

①満足率

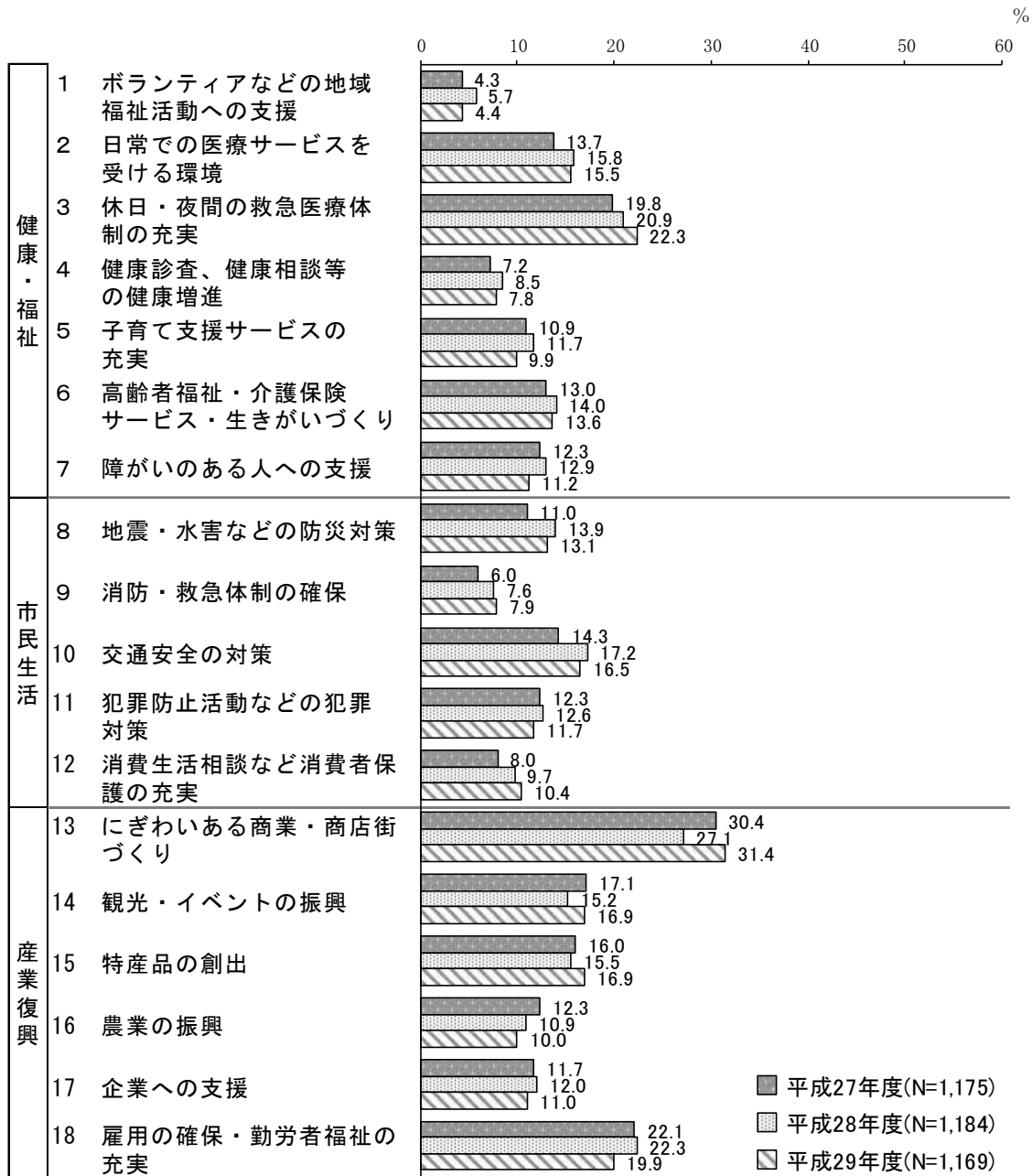
時系列でみると、平成27年度からの3年間で“満足率”が増加傾向にあるのは、健康・福祉に関する項目では「1 ボランティアなどの地域福祉活動への支援」「2 日常での医療サービスを受ける環境」「7 障がいのある人への支援」、市民生活に関する項目では「8 地震・水害などの防災対策」「9 消防・救急体制の確保」、産業復興に関する項目では「18 雇用の確保・勤労者福祉の充実」となっています。また、都市基盤に関する項目では「20 歩道の整備」「23 良質な住宅環境の充実」「25 せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり」、教育文化に関する項目では「34 文化・芸術活動の振興」となっています。

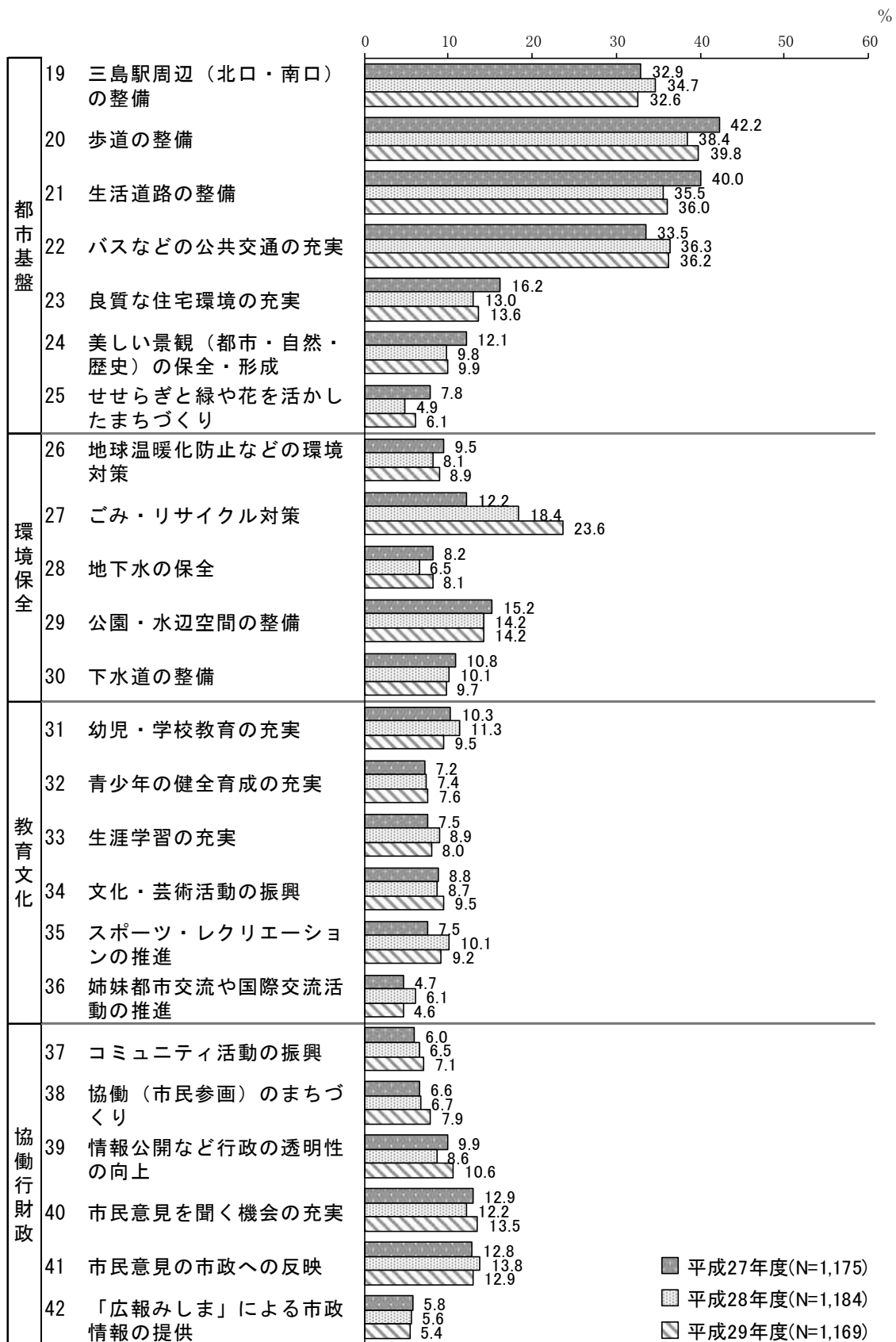




②不満率

時系列でみると、平成27年度からの3年間で“不満率”が増加傾向にあるのは、健康・福祉に関する項目では「3 休日・夜間の救急医療体制の充実」、市民生活に関する項目では「9 消防・救急体制の確保」「12 消費生活相談など消費者保護の充実」となっています。また、環境保全に関する項目では「27 ごみ・リサイクル対策」、教育文化に関する項目では「32 青少年の健全育成の充実」、協働行財政に関する項目では「37 コミュニティ活動の振興」「38 協働（市民参画）のまちづくり」となっています。



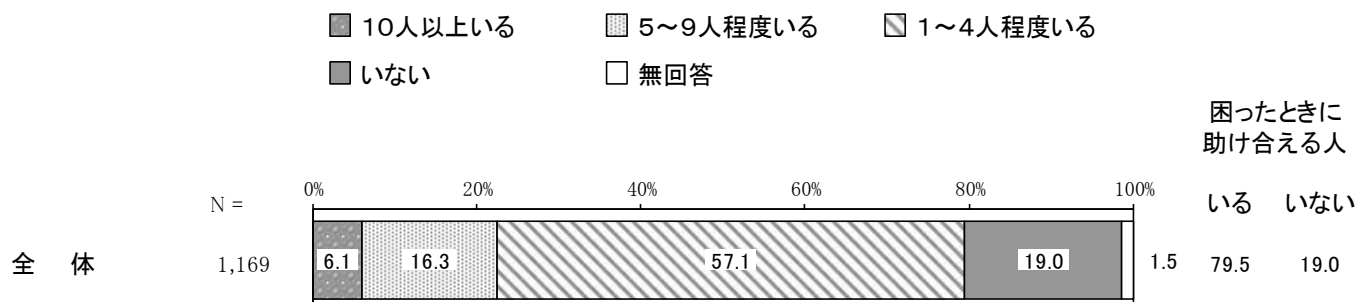


4 『総合計画の指標に関する項目』について

問7 困ったときに助け合うことができる人が近所にいますか。(〇は一つ)

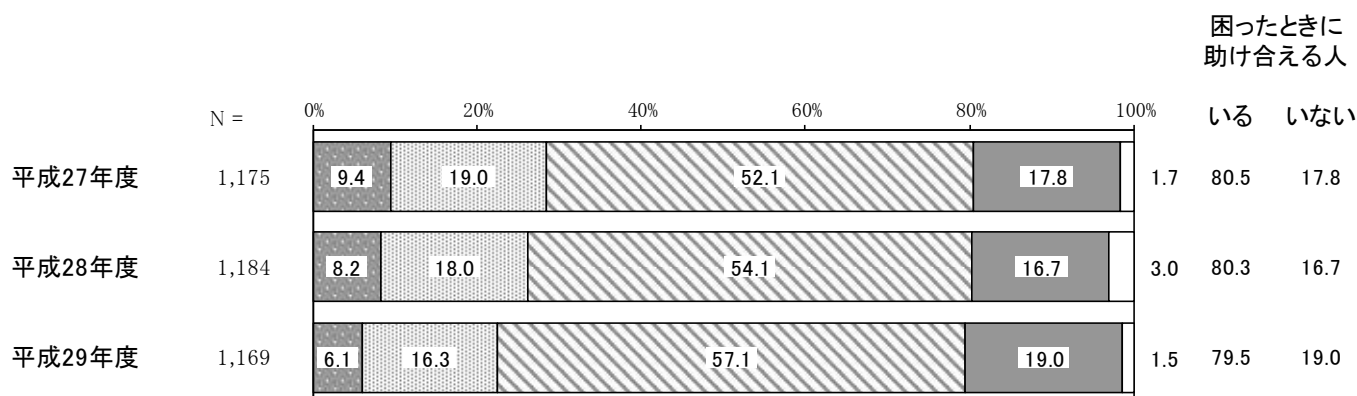
—困った時に助け合える人が“いる”人は79.5%—

「10人以上いる」(6.1%)、「5～9人程度いる」(16.3%)、「1～4人程度いる」(57.1%)を合わせた“いる”は79.5%、“いない”の割合が19.0%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、“いる”割合はゆるやかに減少し、平成29年度では8割を下回っています。

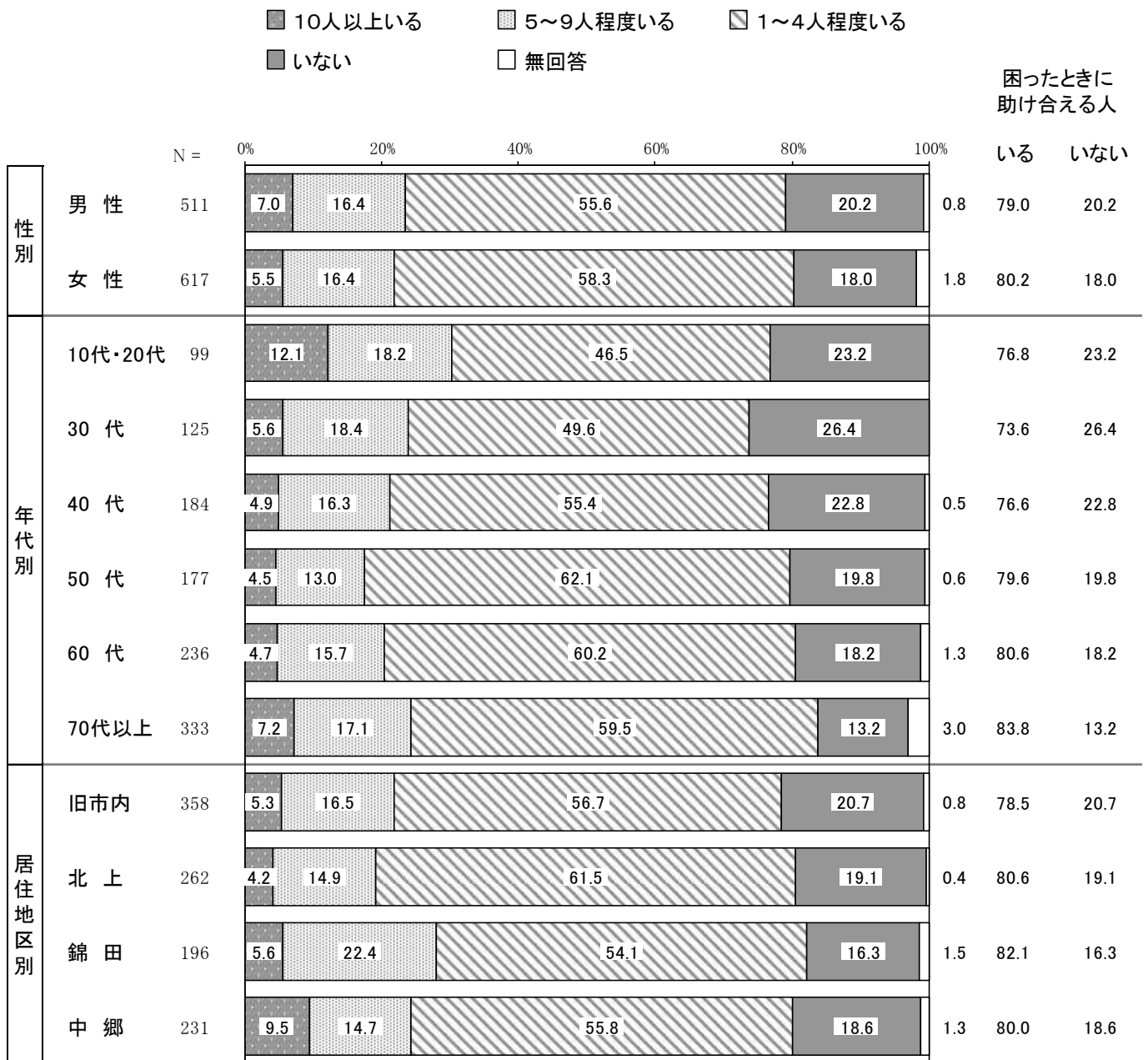


【属性別比較】

性別でみると、困った時に助け合える人が“いる”（男性 79.0%、女性 80.2%）で、男性・女性とも約8割となっています。

年代別でみると、困った時に助け合える人が“いる”は、70代以上（83.8%）が最も高くなっています。一方、困った時に助け合える人が“いない”は、30代（26.4%）が高くなっています。また、「10人以上いる」は、10代・20代（12.1%）で最も高くなっています。

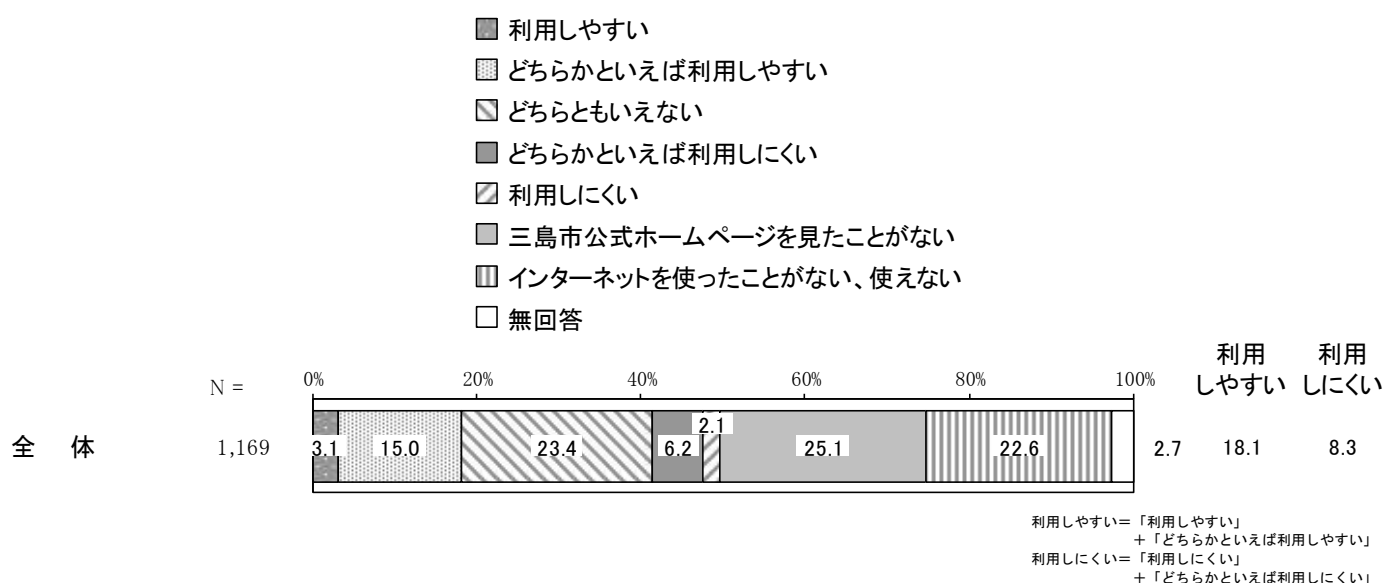
居住地区別でみると、困った時に助け合える人が“いる”は、すべての地区で約8割となっています。また、「5～9人程度いる」は錦田（22.4%）で高く、約2割となっています。



問8 三島市公式ホームページは利用しやすいですか。(〇は一つ)

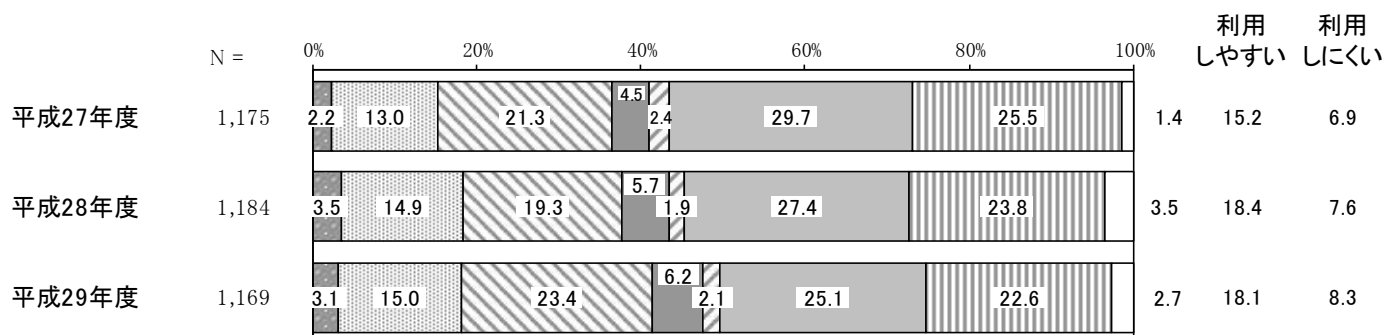
—三島市の公式ホームページの“利用者”は49.8%、“利用しやすい”は18.1%—

「三島市公式ホームページを見たことがない」の割合が25.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が23.4%、「インターネットを使ったことがない、使えない」の割合が22.6%となっています。「利用しやすい」(3.1%)、「どちらかといえば利用しやすい」(15.0%)を合わせた“利用しやすい”は18.1%となっています。「どちらかといえば利用しにくい」(6.2%)、「利用しにくい」(2.1%)と合わせた“利用しにくい”は8.3%となっています。これらを合わせた“利用者”は49.8%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、平成29年度に“利用しやすい”(18.1%)が平成28年度とほぼ同様になっています。



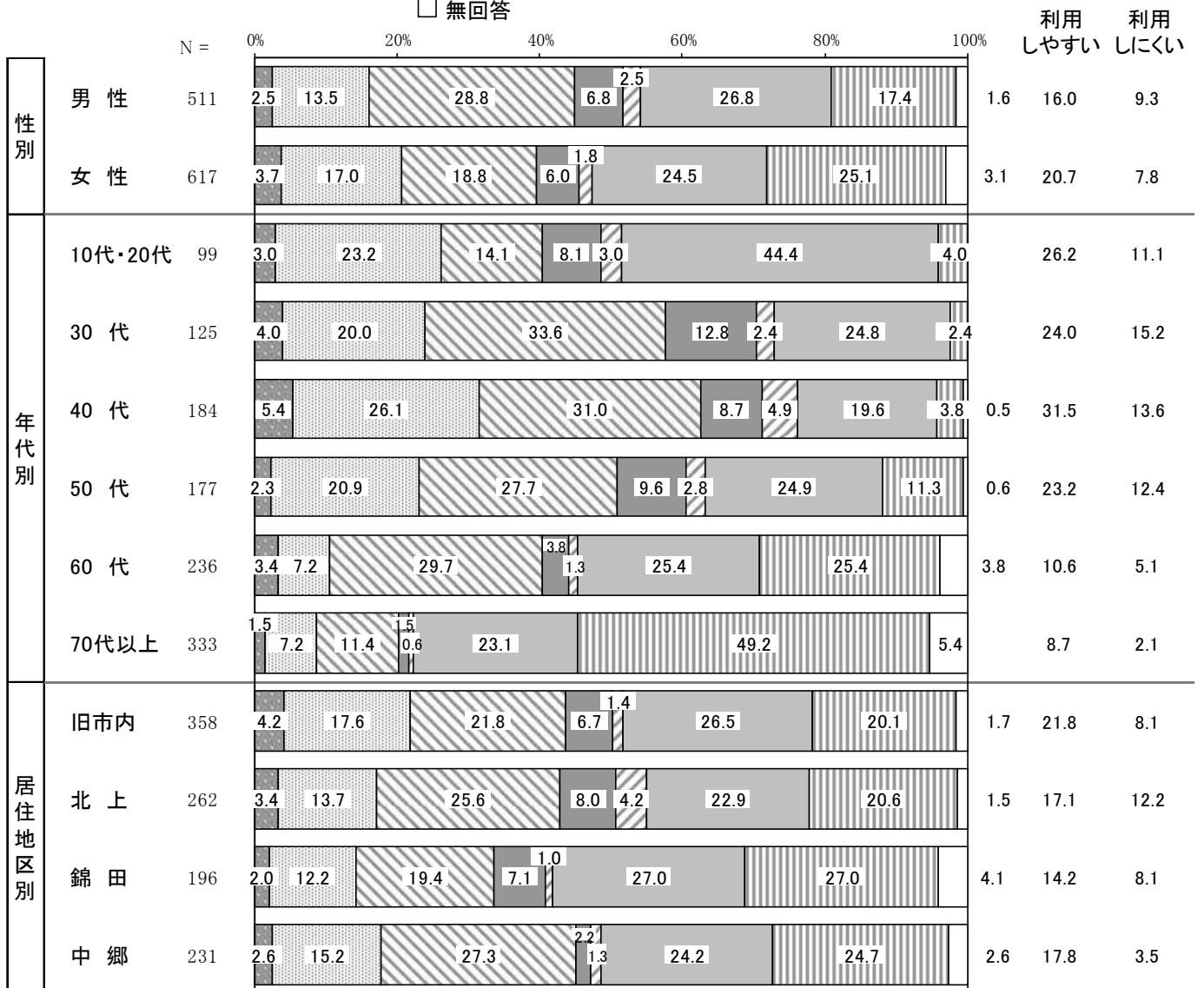
【属性別比較】

性別でみると、“利用しやすい”（男性 16.0%、女性 20.7%）で、性別による大きな差はみられず、男性は1割半ば、女性は約2割となっています。「インターネットを使ったことがない、使えない」は、女性（25.1%）で2割半ばと高くなっています。

年代別でみると、“利用しやすい”は、40代(31.5%)で最も高く、次いで10代・20代(26.2%)となっています。一方、70代以上（8.7%）では1割未満となっています。「三島市公式ホームページを見たことがない」は、10代・20代（44.4%）で約5割となっています。また、「インターネットを使ったことがない、使えない」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、70代以上（49.2%）では約5割となっています。

居住地区別でみると、“利用しやすい”は、旧市内（21.8%）で高くなっています。

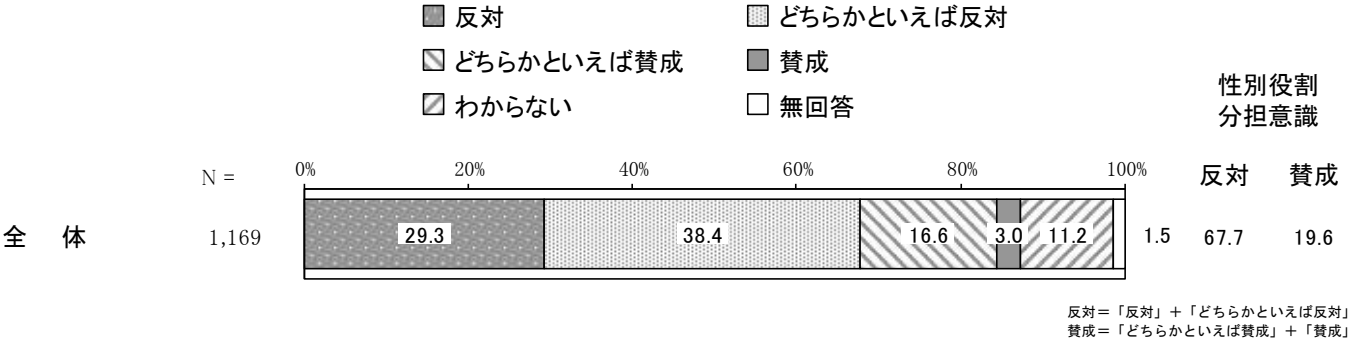
- 利用しやすい
- ▨ どちらかといえば利用しやすい
- ▧ どちらともいえない
- どちらかといえば利用しにくい
- ▩ 利用しにくい
- 三島市公式ホームページを見たことがない
- ▨ インターネットを使ったことがない、使えない
- 無回答



問9 「男性は仕事、女性は家庭」というような男女の役割を固定的に考えることについてどう思いますか。(〇は一つ)

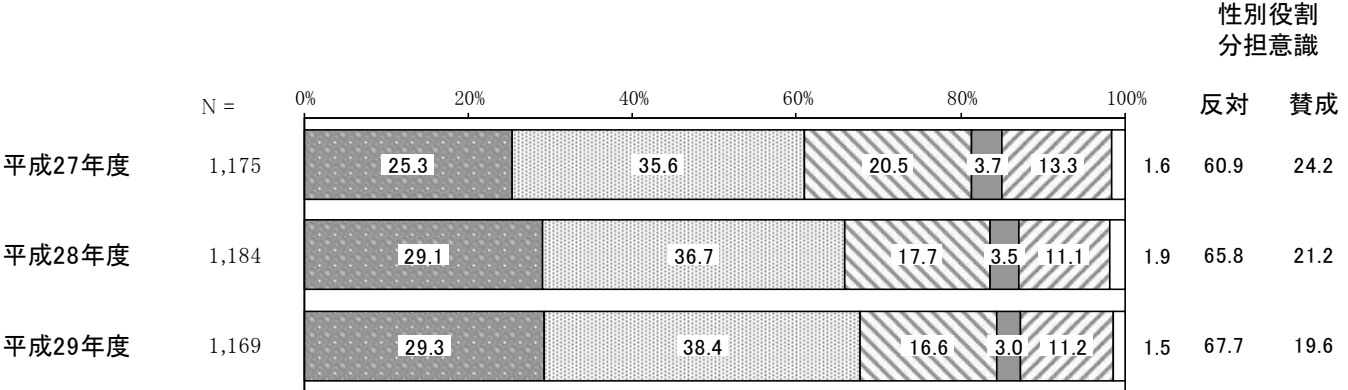
—性別役割分担意識に、“反対”は67.7%—

「反対」(29.3%)と「どちらかといえば反対」(38.4%)を合わせた“反対”は67.7%、「どちらかといえば賛成」(16.6%)と「賛成」(3.0%)を合わせた“賛成”は19.6%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、“反対”の割合は増加しており、平成29年度では7割近くとなっています。

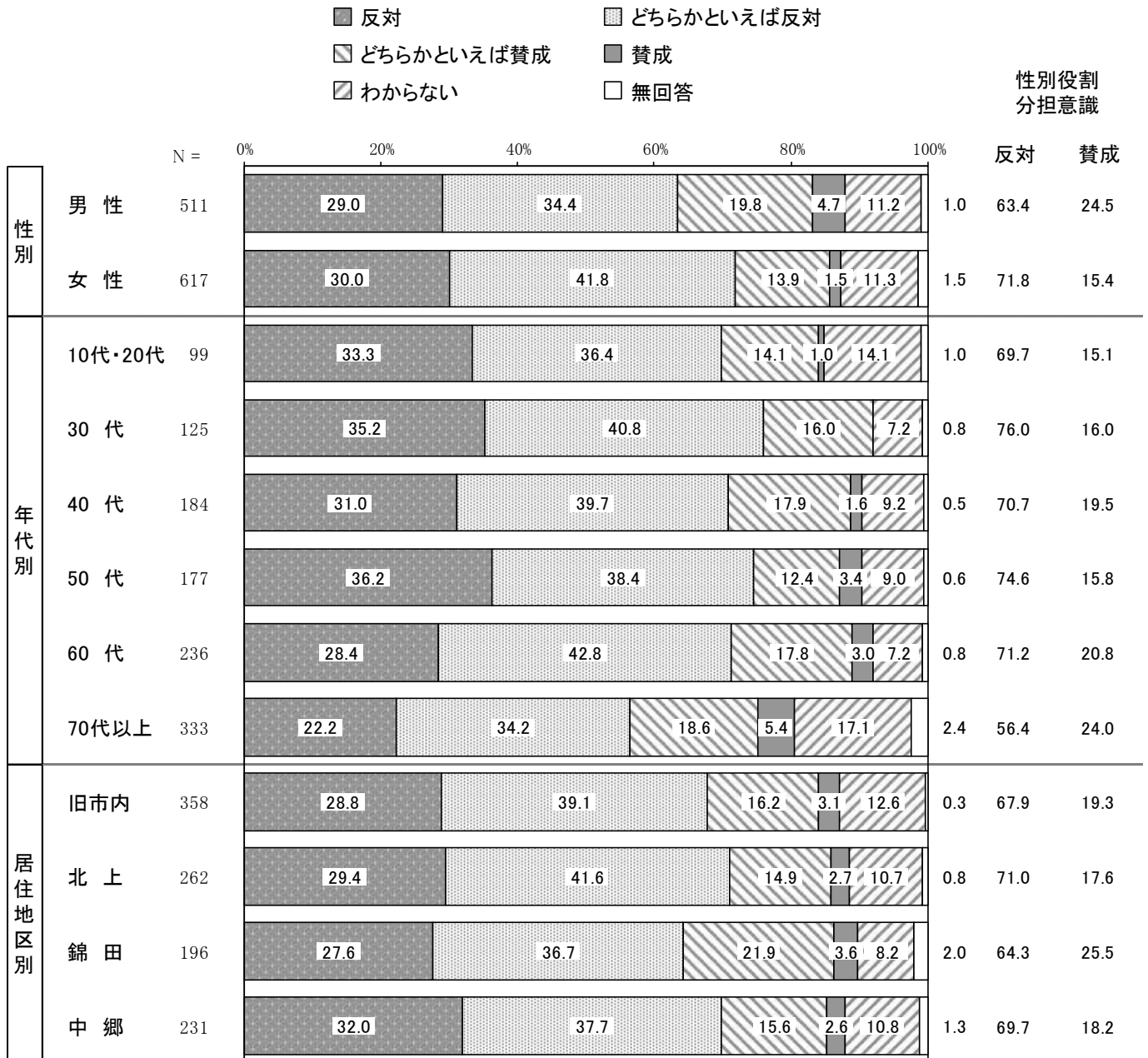


【属性別比較】

性別でみると、“反対”は、男性（63.4%）よりも女性（71.8%）で高く、約7割と高くなっています。一方、“賛成”は男性（24.5%）で高く、2割半ばとなっています。

年代別でみると、“反対”は30代（76.0%）、50代（74.6%）で7割半ばと高くなっています。一方、70代以上（56.4%）では6割未満と低くなっています。

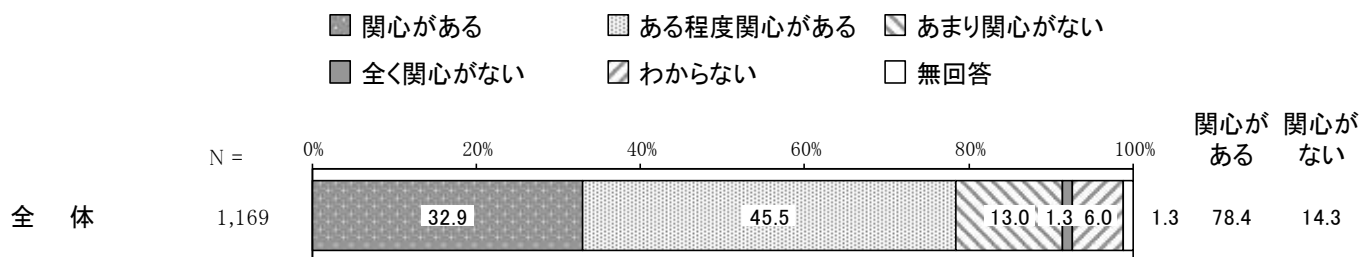
居住地区別でみると、“反対”は、旧市内（67.9%）、北上（71.0%）、中郷（69.7%）では約7割となっている一方、錦田（64.3%）では6割半ばと低くなっています。



問 10 食育に関心がありますか。(〇は一つ)

—食育に“関心がある”のは78.4%—

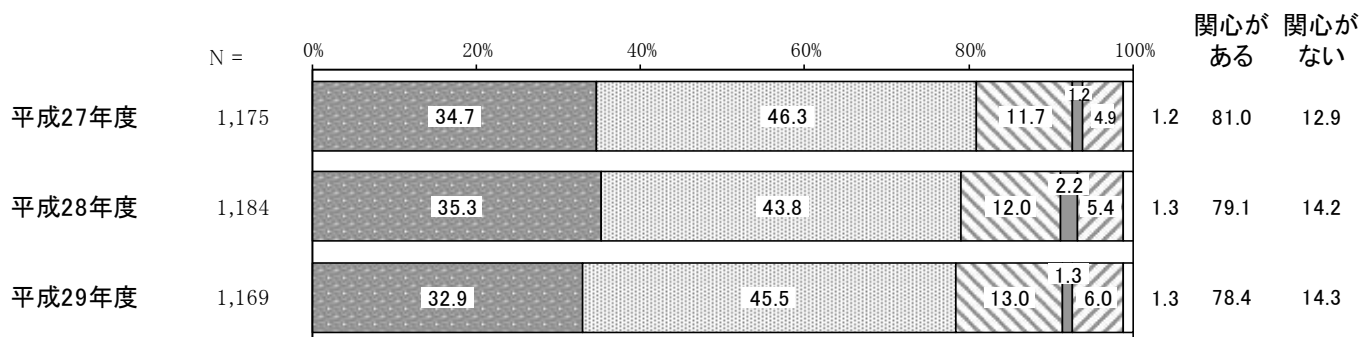
「関心がある」(32.9%)と「ある程度関心がある」(45.5%)を合わせた“関心がある”は78.4%となっています。一方「あまり関心がない」(13.0%)と「全く関心がない」(1.3%)を合わせた“関心がない”は14.3%となっています。



関心がある = 「関心がある」 + 「ある程度関心がある」
 関心がない = 「あまり関心がない」 + 「全く関心がない」

【時系列比較】

時系列でみると、“関心がある”の割合はゆるやかに減少しており、平成29年度には8割を下回っています。

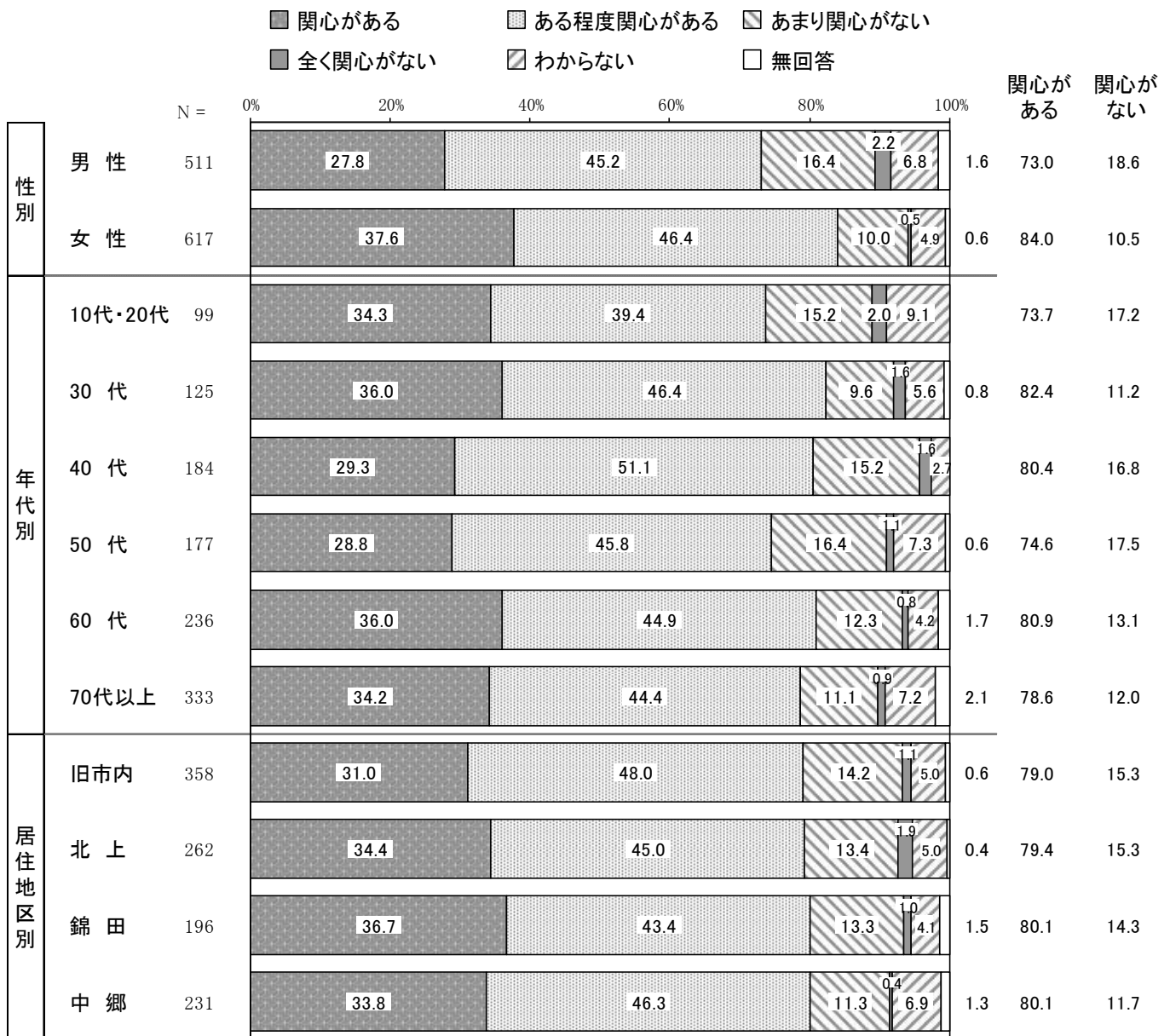


【属性別比較】

性別でみると、食育に“関心がある”は、女性（84.0%）が、男性（73.0%）より高くなっています。「関心がある」でも同様の傾向を示し、女性（37.6%）が、男性（27.8%）より高くなっています。

年代別でみると、食育に“関心がある”は、10代・20代（73.7%）、50代（74.6%）を除く年代では約8割と高くなっています。

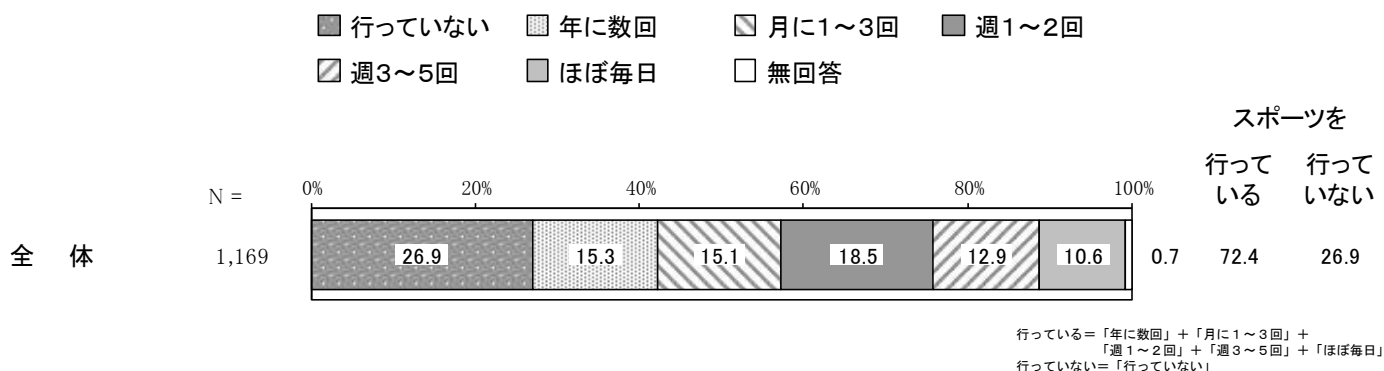
居住地区別でみると、食育に“関心がある”は、地区による大きな差はみられず、約8割となっています。



問11 あなたは、この1年に運動・スポーツを平均してどのくらい行いましたか。
 (1回30分以上 ジョギングやウォーキングも含まれます。)(○は一つ)

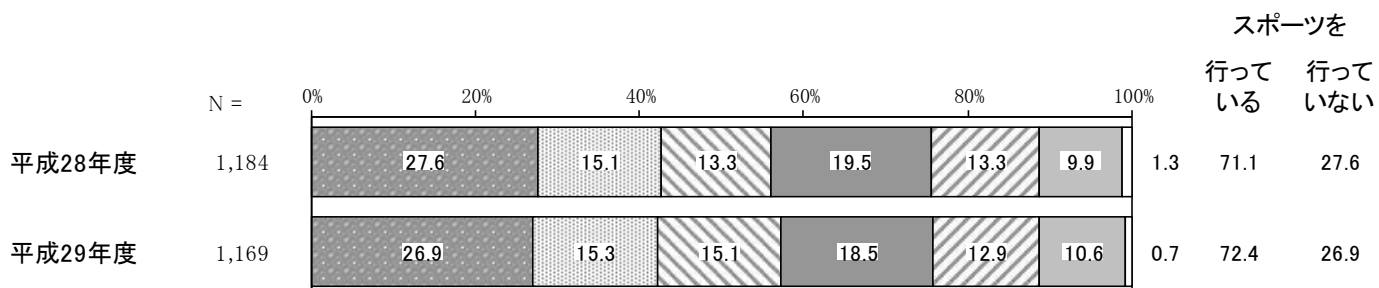
—スポーツを“行っている”人は72.4%—

「年に数回」(15.3%)、「月に1～3回」(15.1%)、「週1～2回」(18.5%)、「週3～5回」(12.9%)、「ほぼ毎日」(10.6%)をあわせた“スポーツを行っている”は72.4%、「行っていない」の割合が26.9%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はなく、“行っている”は7割を超えています。

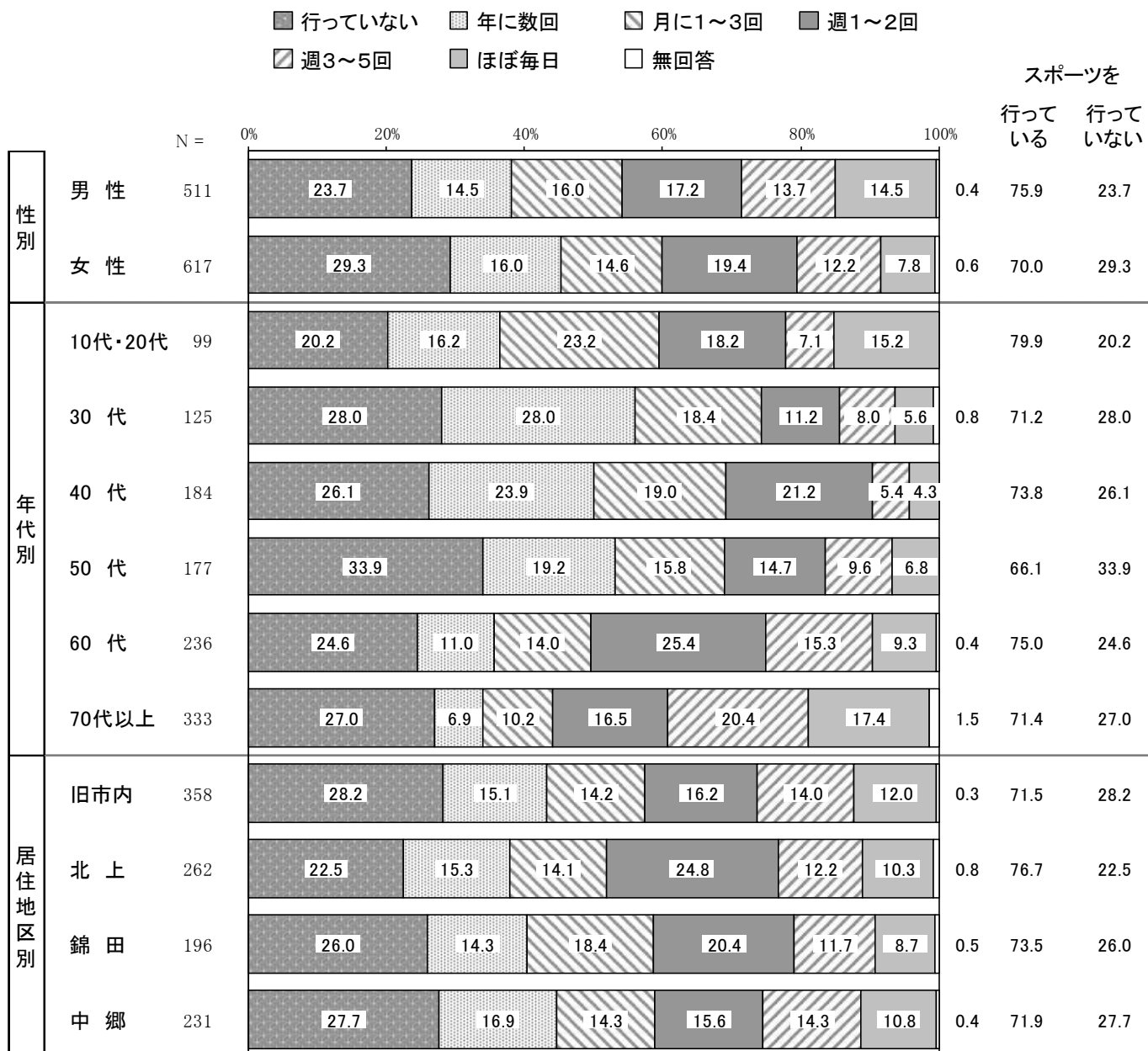


【属性別比較】

性別でみると、スポーツを“行っている”は、男性（75.9%）が女性（70.0%）より高くなっています。

年代別でみると、スポーツを“行っている”は10代・20代（79.9%）が最も高く、次いで60代（75.0%）となっており、7割半ばとなっています。一方、「行っていない」は50代（33.9%）で高くなっています。

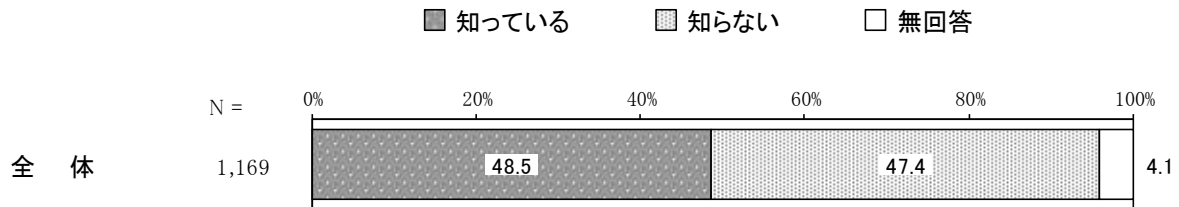
居住地区別でみると、スポーツを“行っている”は北上（76.7%）が最も高くなっています。



問 12 三島市役所に消費生活相談窓口があることを知っていますか。(〇は一つ)

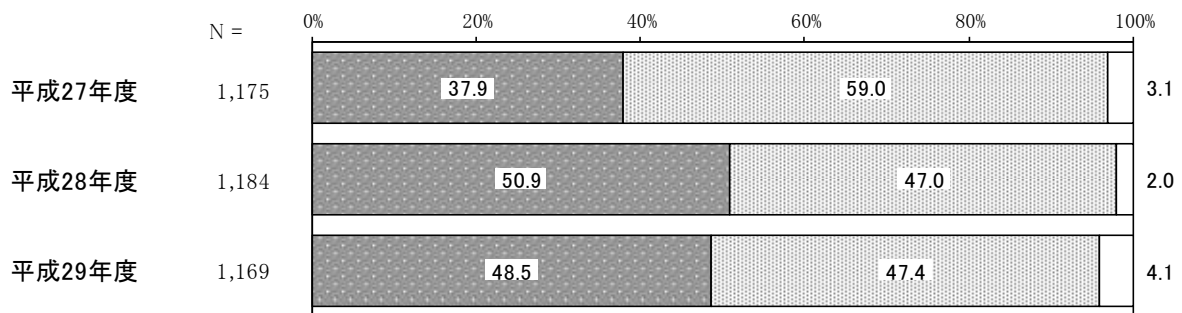
—消費生活相談窓口を「知っている」人は48.5%—

「知っている」の割合が48.5%、「知らない」の割合が47.4%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、平成28年度同様、平成29年度では「知っている」(48.5%)の割合が「知らない」(47.4%)の割合より高くなっています。

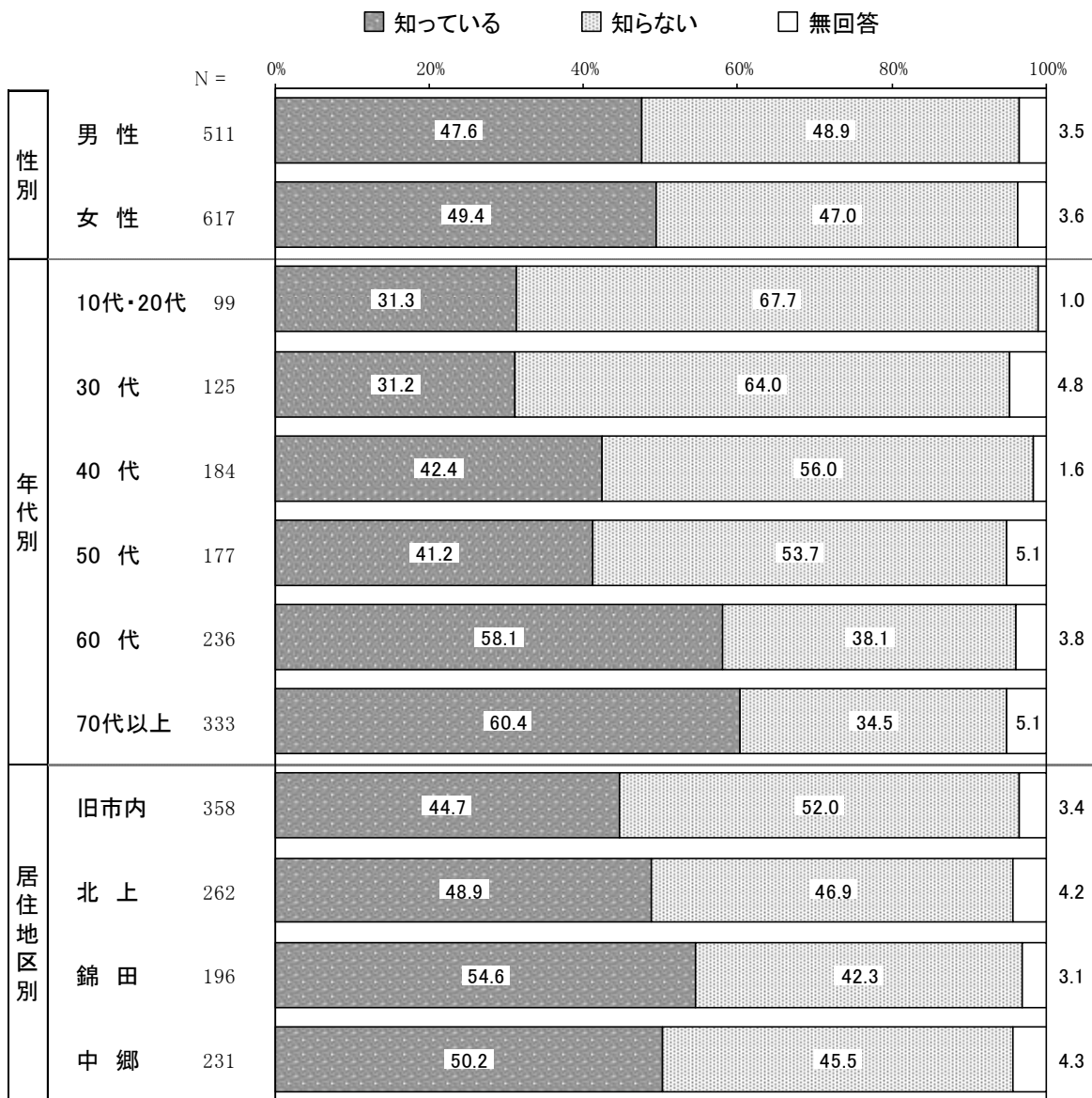


【属性別比較】

性別でみると、「知っている」（男性 47.6%、女性 49.4%）は、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも約5割となっています。

年代別でみると、「知っている」は、70代以上（60.4%）で最も高く、次いで60代（58.1%）となっており、約6割となっています。一方、10代・20代（31.3%）、30代（31.2%）は、約3割にとどまっています。

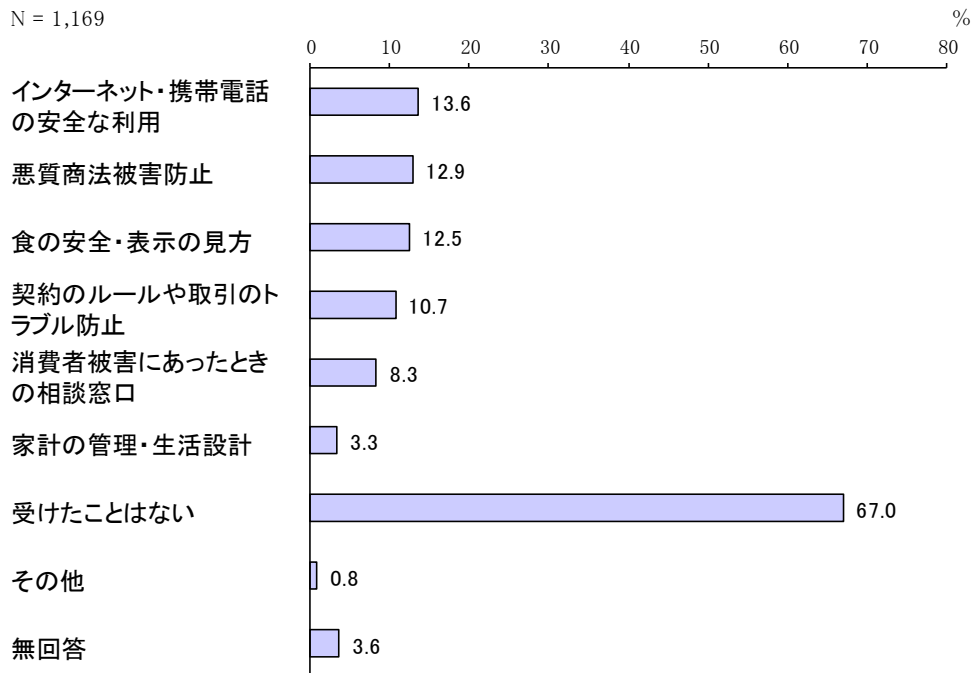
居住地区別でみると、「知っている」は、錦田（54.6%）で最も高く、5割半ばとなっています。また、旧市内のみ「知らない」（52.0%）が「知っている」（44.7%）よりも高くなっています。



問13 学校の授業や地域や職場などにおいて、次のような消費者教育を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

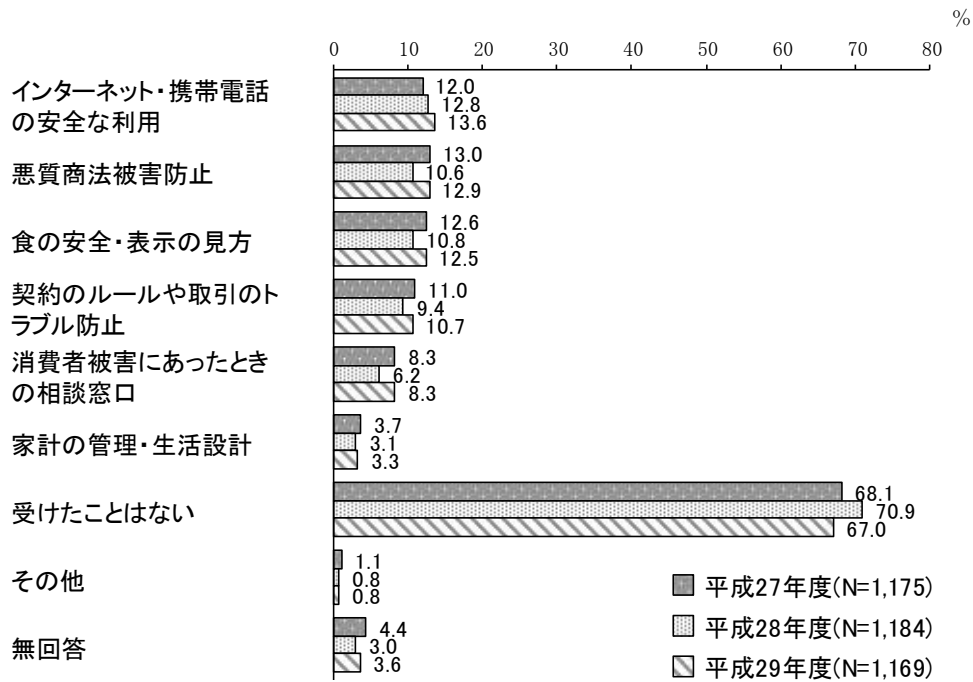
—消費者教育を“受けたことがある”人は29.4%—

「受けたことはない」の割合が67.0%であり、“受けたことがある”なかでは、「インターネット・携帯電話の安全な利用」の割合が13.6%と最も高く、次いで「悪質商法被害防止」の割合が12.9%となっています。「受けたことはない」(67.0%)と「無回答」(3.6%)を除く消費者教育を“受けたことがある”人は29.4%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、「インターネット・携帯電話の安全な利用」の割合がわずかに増加しています。



【属性別比較】

性別でみると、“受けたことがある”内容では、「インターネット・携帯電話の安全な利用」が男性（15.1%）で最も高く、「食の安全・表示の見方」が女性（14.7%）で最も高くなっています。

年代別でみると、“受けたことがある”のは、10代・20代（64.6%）で最も高くなっています。また、「インターネット・携帯電話の安全な利用」は10代・20代が49.5%で高く、約5割となっています。

居住地区別でみると、いずれの居住地区でも「受けたことはない」が最も高く、特に中郷（72.3%）で7割を超えています。

単位：%

区分		有効回答数 (件)	契約のルールや取引 のトラブル防止	悪質商法被害防止	消費者被害にあった ときの相談窓口	食の安全・表示の見方	インターネット・携帯 電話の安全な利用	家計の管理・生活設計	受けたことはない	その他	無回答
性別	男性	511	12.1	14.1	8.2	10.6	15.1	2.5	69.1	0.4	2.2
	女性	617	10.0	12.3	8.8	14.7	13.1	3.9	65.3	1.0	3.7
年代別	10代・20代	99	21.2	31.3	23.2	30.3	49.5	6.1	35.4	2.0	—
	30代	125	23.2	16.8	15.2	19.2	20.0	5.6	50.4	0.8	3.2
	40代	184	12.5	10.3	9.8	10.3	20.1	3.8	62.5	0.5	1.6
	50代	177	9.0	7.3	4.0	11.3	13.0	3.4	73.4	—	2.3
	60代	236	8.5	11.0	6.4	7.2	8.9	3.0	76.7	—	3.0
	70代以上	333	4.8	12.0	4.5	10.8	1.2	1.5	74.5	1.5	6.6
居住地区別	旧市内	358	10.1	11.7	7.3	13.4	15.4	2.8	66.8	—	3.4
	北上	262	12.2	14.1	10.3	14.1	14.5	3.8	65.3	1.5	2.7
	錦田	196	10.7	12.8	8.2	12.2	10.7	3.1	65.8	0.5	5.1
	中郷	231	10.0	13.0	8.2	10.0	13.0	3.0	72.3	1.3	1.7

1位

2位

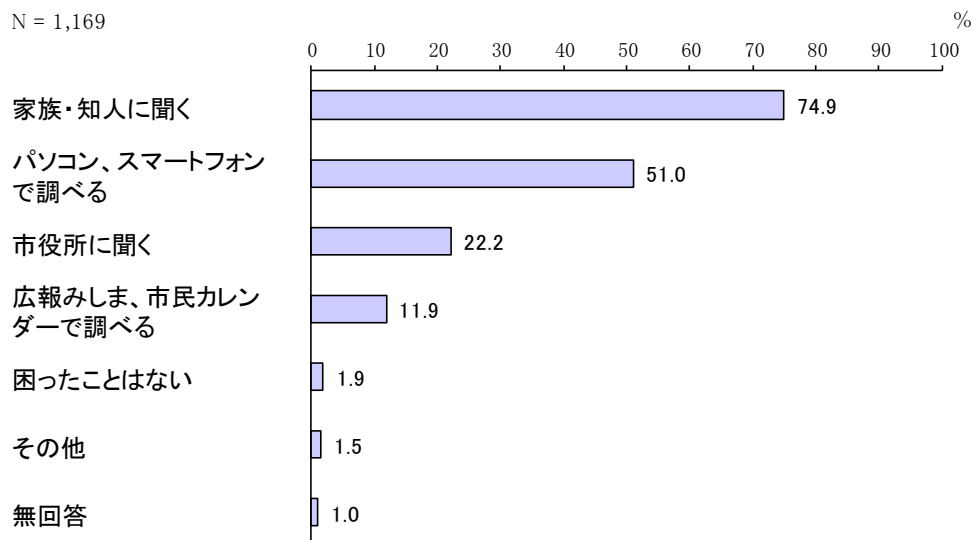
3位

5 『困りごとの解決方法』について

問 14 あなたは困りごとができたときどのような行動をとりますか。
(〇はいくつでも)

—家族・知人に聞くのは 74.9%—

「家族・知人に聞く」の割合が 74.9%と最も高く、次いで「パソコン、スマートフォンで調べる」の割合が 51.0%、「市役所に聞く」の割合が 22.2%となっています。



【属性別比較】

性別でみると、「家族・知人に聞く」（男性 65.9%、女性 83.0%）が男性・女性ともに最も高く、特に女性で約8割と高くなっています。「パソコン、スマートフォンで調べる」は男性（56.0%）が女性（49.1%）よりも高くなっています。

年代別でみると、30代を除くすべての年代で「家族・知人に聞く」が最も高くなっています。また、70代以上を除き、「パソコン、スマートフォンで調べる」が高くなっています。また、「広報みしま、市民カレンダーで調べる」が70代以上（21.0%）で高くなっています。

居住地区別でみると、「家族・知人に聞く」がいずれの地区でも最も高く、特に錦田（80.1%）、中郷（77.1%）で約8割となっています。

単位：%

区分		有効回答数 (件)	市役所に聞く	広報みしま、市民 カレンダーで調べる	家族・知人に聞く	パソコン、スマート フォンで調べる	困ったことはない	その他	無回答
性別	男性	511	20.9	9.4	65.9	56.0	1.6	2.0	1.0
	女性	617	22.5	14.3	83.0	49.1	1.8	0.6	0.6
年代別	10代・20代	99	7.1	4.0	82.8	72.7	1.0	1.0	—
	30代	125	15.2	8.8	75.2	77.6	0.8	—	1.6
	40代	184	17.4	5.4	79.9	75.5	1.1	1.6	—
	50代	177	10.7	7.9	70.6	69.5	1.1	—	—
	60代	236	27.5	11.9	70.8	46.2	1.7	2.1	0.4
	70代以上	333	33.6	21.0	76.6	15.6	3.3	2.1	2.1
居住地区別	旧市内	358	19.3	10.9	74.0	56.7	1.4	1.4	0.6
	北上	262	24.8	11.5	72.9	53.8	2.3	0.8	0.8
	錦田	196	24.5	16.3	80.1	48.5	2.0	2.0	1.0
	中郷	231	23.4	13.4	77.1	44.6	2.2	1.7	0.4

1位

2位

3位

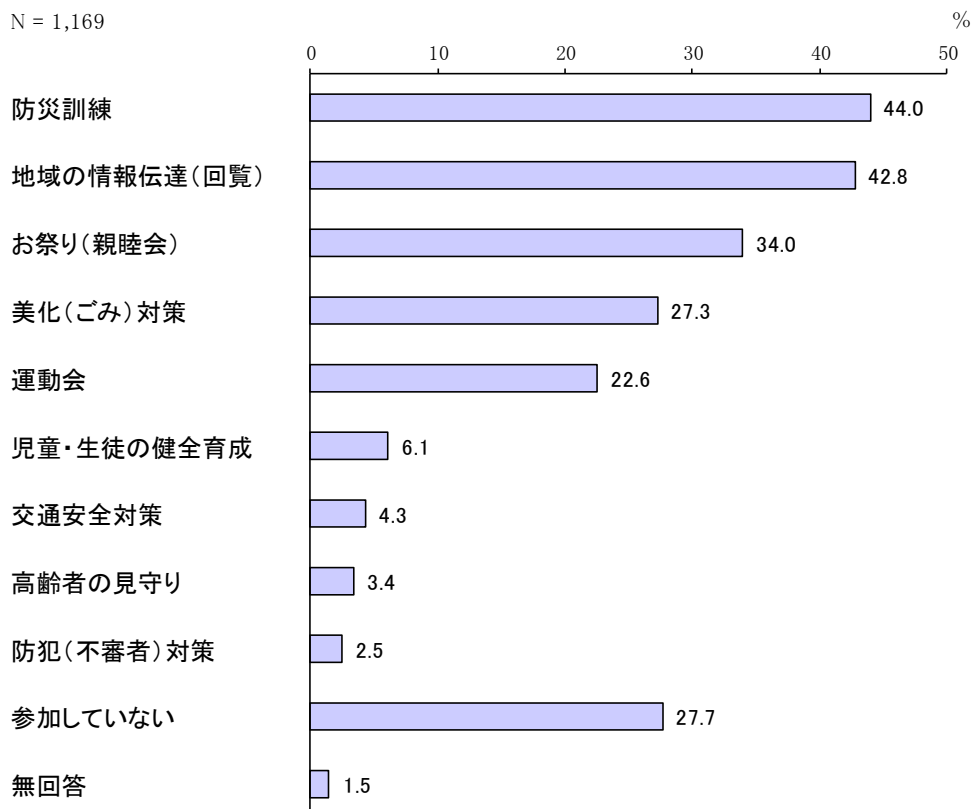
6 『自治会・町内会』について

問 15 あなたは自治会・町内会のどのような活動に参加されていますか。
(〇はいくつでも)

—自治会・町内会の活動に“参加している”のは70.8%—

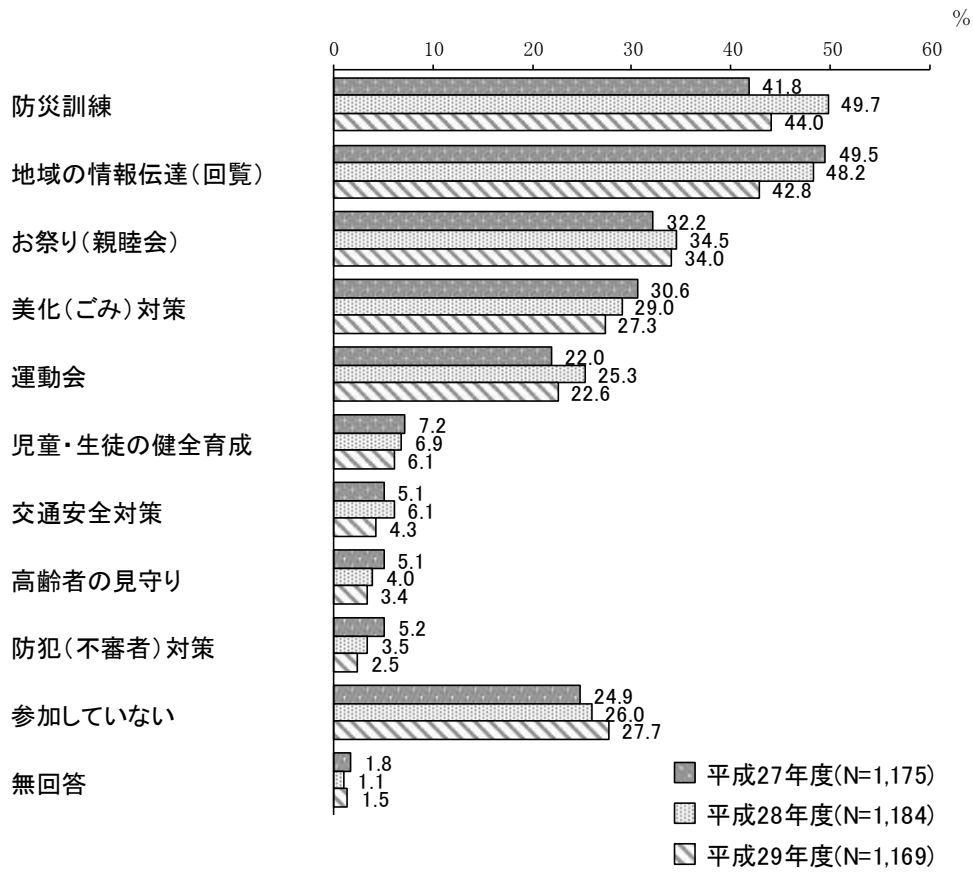
「防災訓練」の割合が44.0%と最も高く、次いで「地域の情報伝達(回覧)」の割合が42.8%、「お祭り(親睦会)」の割合が34.0%となっています。また、「参加していない」(27.7%)と無回答(1.5%)を除いた自治会・町内会の活動に“参加している”は70.8%となっています。

N = 1,169



【時系列比較】

時系列でみると、平成 29 年度では、平成 28 年度に比べ、「防災訓練」「地域の情報伝達（回覧）」の割合が減少しています。また、「参加していない」の割合は増加傾向にあります。



【属性別比較】

性別でみると、男性では「防災訓練」(47.7%)、女性では「地域の情報伝達(回覧)」(47.2%)が最も高くなっています。また、男性では「地域の情報伝達(回覧)」(38.6%)が2位であるのに対し、女性は「防災訓練」(41.8%)が2位となっています。

年代別でみると、「参加していない」は30代(47.2%)で最も高く、次いで10代・20代(46.5%)で高くなっています。「防災訓練」が60代(53.0%)で高く、約5割となっています。

居住地区別でみると、「防災訓練」が錦田(52.6%)、中郷(45.9%)で最も高く、「地域の情報伝達(回覧)」が旧市内(43.6%)、北上(45.0%)で最も高くなっています。

単位：%

区分		有効回答数(件)	防災訓練	高齢者の見守り	防犯(不審者)対策	児童・生徒の健全育成	お祭り(親睦会)	運動会	美化(ごみ)対策	交通安全対策	地域の情報伝達(回覧)	参加していない	無回答
性別	男性	511	47.7	2.5	3.7	7.4	34.4	23.3	27.6	5.7	38.6	27.4	0.8
	女性	617	41.8	4.4	1.6	5.2	35.0	22.9	27.7	3.2	47.2	27.2	1.5
年代別	10代・20代	99	22.2	—	1.0	1.0	27.3	13.1	14.1	—	26.3	46.5	1.0
	30代	125	24.8	0.8	0.8	5.6	25.6	17.6	21.6	2.4	30.4	47.2	0.8
	40代	184	50.0	2.2	2.2	17.4	37.5	33.2	28.8	7.1	51.6	22.8	—
	50代	177	49.2	4.5	2.3	3.4	32.8	23.7	31.6	2.8	53.7	18.6	0.6
	60代	236	53.0	2.1	2.1	5.1	40.3	25.4	30.9	2.5	49.2	21.6	0.8
	70代以上	333	45.3	6.6	4.2	3.6	33.6	18.9	28.2	6.9	37.5	26.4	3.3
居住地区別	旧市内	358	39.7	2.8	3.1	6.7	31.6	20.7	24.0	5.9	43.6	30.4	0.6
	北上	262	44.3	3.8	4.2	7.3	37.4	21.8	32.1	4.2	45.0	22.9	1.5
	錦田	196	52.6	4.1	1.5	5.1	29.1	15.8	27.6	1.0	45.9	27.6	2.0
	中郷	231	45.9	3.9	1.3	5.6	39.0	36.4	29.0	6.1	40.3	27.7	0.4

1位

2位

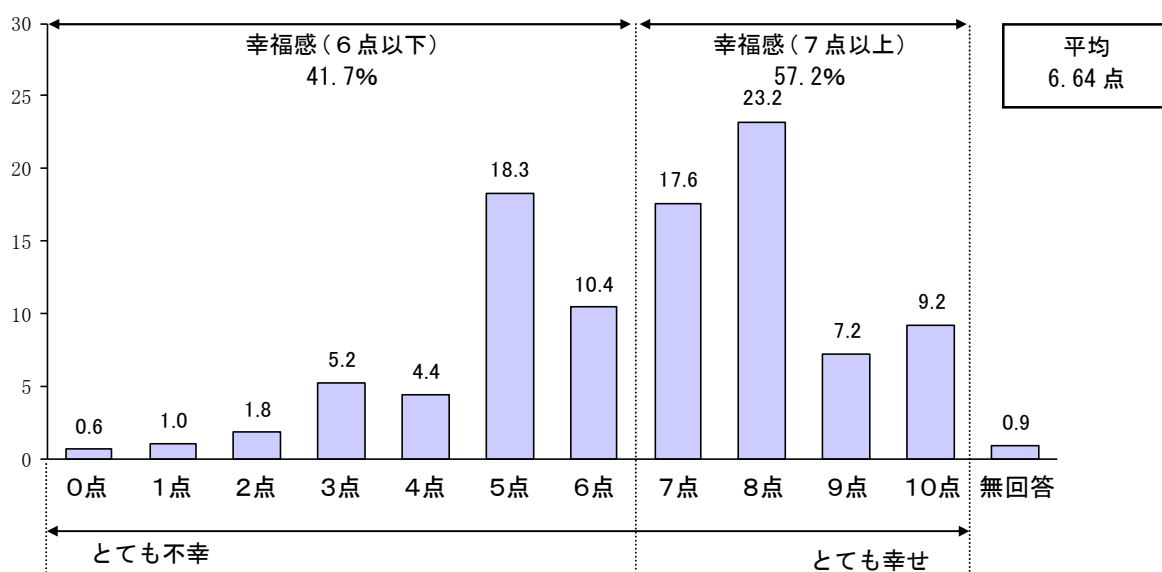
3位

7 『幸福感』について

問 16 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの点数を1つだけ○で囲んでください。

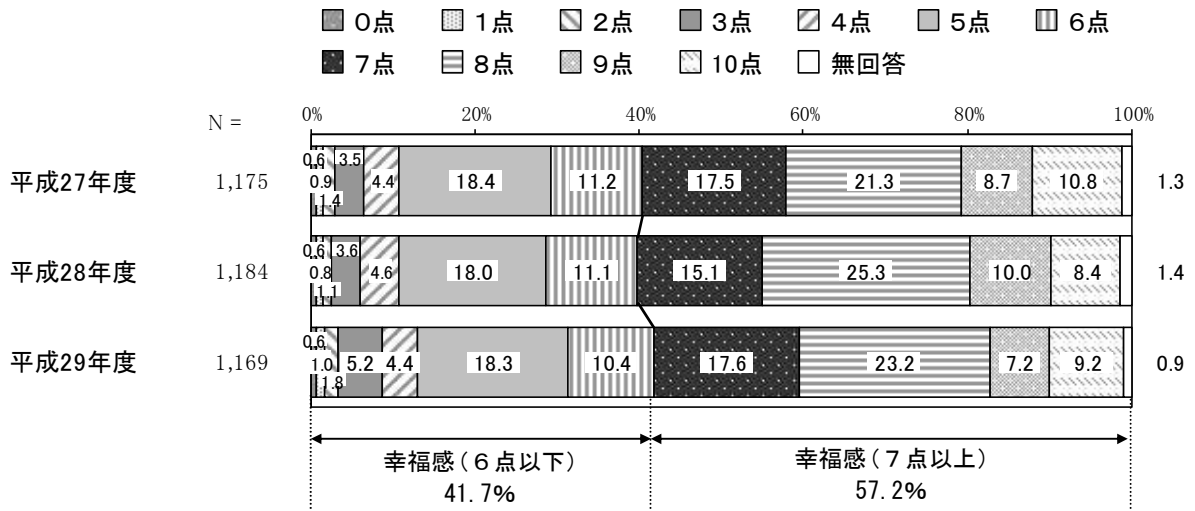
—現在の幸福感の平均は6.64点、平均以上は57.2%—

「8点」の割合が23.2%と最も高く、次いで「5点」の割合が18.3%、「7点」の割合が17.6%となっています。平均は6.64点で、平均以上の“幸福感（7点以上）”（57.2%）は約6割となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。



単位：%

区分	有効回答数(件)	幸福感		無回答	平均(点)
		6点以下	7点以上		
平成 27 年度	1,175	40.4	58.3	1.3	6.79
平成 28 年度	1,184	39.8	58.8	1.4	6.80
平成 29 年度	1,169	41.7	57.2	0.9	6.64

【属性別比較】

性別でみると、“幸福感（7点以上）”は、女性（61.5%）が、男性（53.1%）より高くなっています。

年代別でみると、“幸福感（7点以上）”は、30代（67.2%）で最も高くなっています。一方、“幸福感（7点以上）”は70代以上（54.6%）で低く、5割半ばとなっています。

居住地区別でみると、“幸福感（7点以上）”は、地区による大きな差はみられません。

単位：%

区分		有効回答数 (件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
性別	男性	511	0.6	1.0	2.2	7.0	4.3	19.8	11.4	19.2	20.2	4.1	9.6	0.8
	女性	617	0.6	1.0	1.5	3.6	4.7	16.5	9.7	17.0	25.9	9.7	8.9	0.8
年代別	10代・20代	99	2.0	1.0	2.0	1.0	6.1	14.1	15.2	17.2	21.2	11.1	9.1	0.0
	30代	125	1.6	2.4	0.0	5.6	4.0	13.6	5.6	20.8	28.0	8.0	10.4	0.0
	40代	184	0.0	0.5	3.3	4.9	6.0	13.6	14.7	15.2	23.9	7.6	10.3	0.0
	50代	177	0.6	0.6	1.1	8.5	5.1	19.2	6.2	20.9	22.6	4.5	9.6	1.1
	60代	236	0.4	0.4	1.7	3.8	3.0	23.7	9.3	20.8	25.8	4.7	5.5	0.8
	70代以上	333	0.3	1.2	2.1	6.0	4.2	18.3	11.4	14.7	20.7	8.7	10.5	1.8
居住地区別	旧市内	358	0.6	0.6	2.0	5.3	5.3	19.0	10.1	17.9	23.2	6.4	8.9	0.8
	北上	262	0.8	1.1	1.9	4.6	5.3	18.7	9.9	19.8	22.1	7.3	8.0	0.4
	錦田	196	0.5	0.5	2.0	4.6	1.0	19.9	10.2	18.9	24.0	6.1	11.2	1.0
	中郷	231	0.9	0.9	0.4	7.8	4.8	15.6	11.7	15.6	26.4	7.8	7.4	0.9

1位

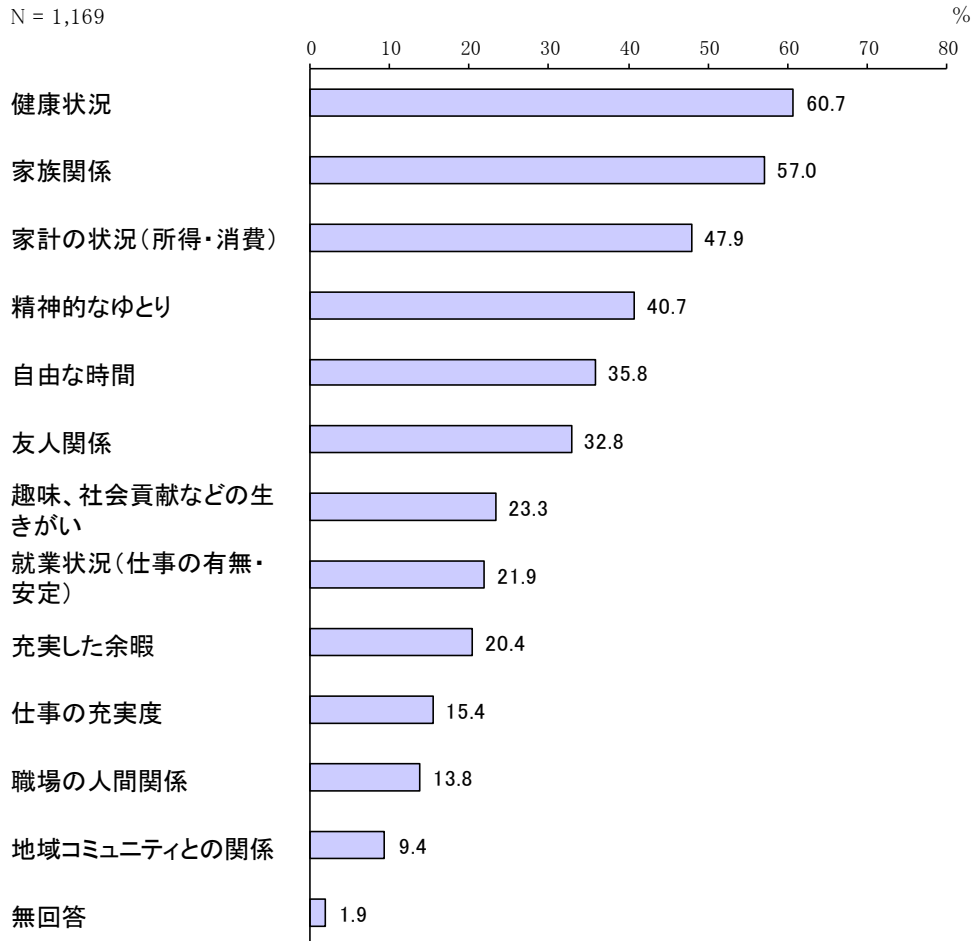
2位

3位

問17 問16で、幸福感を判断する際に重視した事項は何ですか。(〇はいくつでも)

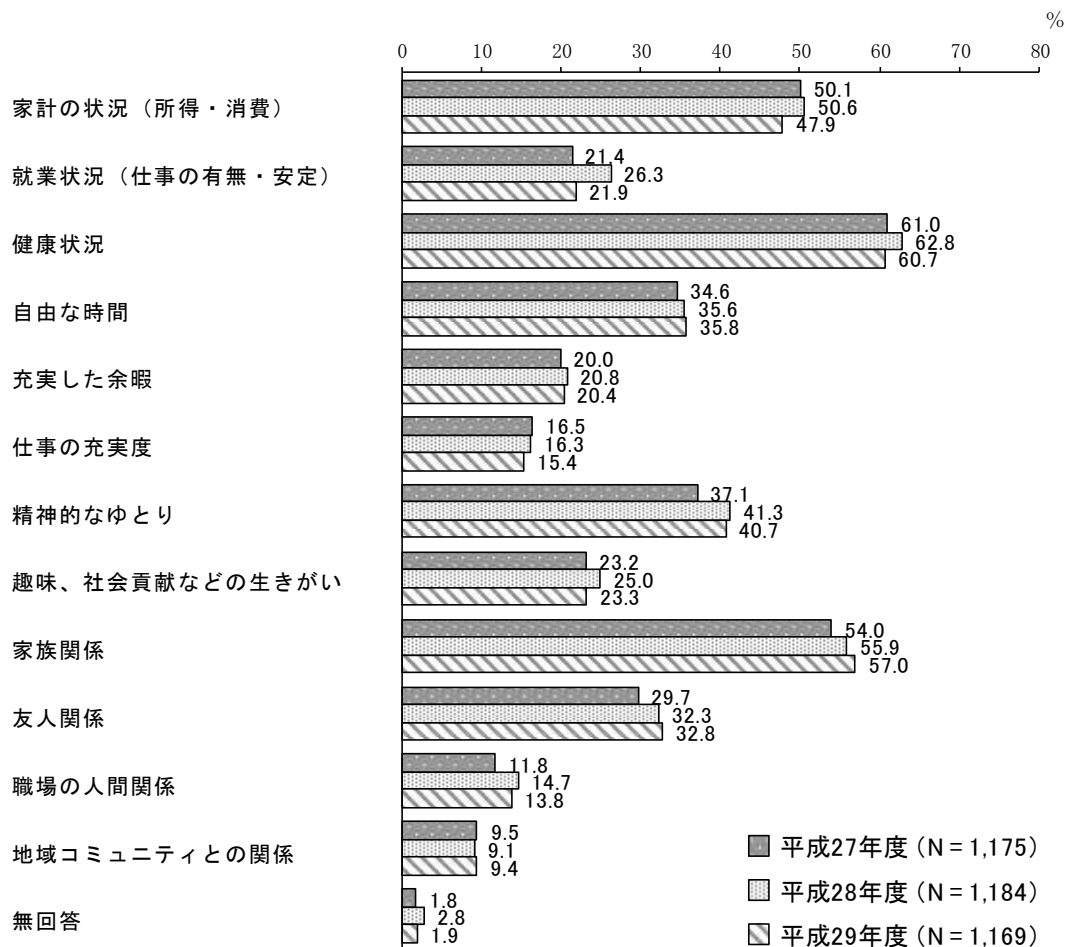
—幸福感を判断する際に重視するのは「健康状況」「家族関係」—

「健康状況」の割合が60.7%と最も高く、次いで「家族関係」の割合が57.0%、「家計の状況(所得・消費)」の割合が47.9%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、平成29年度では、平成27年度以降、「自由な時間」「家族関係」「友人関係」で割合が増加しています。一方、「仕事の充実度」では割合が減少しています。



【属性別比較】

性別でみると、「健康状況」が男性（60.5%）で最も高く、「家族関係」が女性（61.9%）で最も高くなっています。「家族関係」が男性（52.4%）で2位となっているのに対し、「健康状況」は女性（61.3%）で2位となっています。

年代別でみると、「健康状況」は、50代以上で6割を超え、最も高くなっています。40代以下では「家族関係」が最も高くなっており、特に30代（68.8%）、40代（69.6%）で約7割となっています。

居住地区別でみると、すべての居住地区で「健康状況」が最も高く、「家族関係」が2位となっています。また、「家計の状況（所得・消費）」が北上（50.4%）、中郷（49.8%）で約5割となっています。

単位：%

区分		有効回答数(件)	家計の状況(所得・消費)	就業状況(仕事の有無・安定)	健康状況	自由な時間	充実した余暇	仕事の充実度	精神的なゆとり	趣味、社会貢献などの生きがい	家族関係	友人関係	職場の人間関係	地域コミュニティとの関係	無回答
性別	男性	511	51.3	24.5	60.5	30.9	22.7	19.2	38.4	23.1	52.4	24.5	14.5	9.2	1.6
	女性	617	45.9	19.6	61.3	39.4	18.5	12.8	42.9	23.8	61.9	40.7	13.6	9.6	1.9
年代別	10代・20代	99	43.4	35.4	47.5	53.5	35.4	27.3	52.5	37.4	55.6	53.5	36.4	7.1	1.0
	30代	125	48.0	36.0	50.4	28.8	18.4	24.0	42.4	20.8	68.8	33.6	26.4	9.6	0.8
	40代	184	58.7	27.7	58.2	29.9	19.0	21.2	46.2	18.5	69.6	31.0	19.6	7.1	1.6
	50代	177	59.9	34.5	67.2	29.4	18.6	19.8	45.2	16.9	58.2	23.2	13.6	5.6	1.1
	60代	236	46.6	17.8	64.8	36.0	17.8	11.9	39.8	28.4	54.2	29.2	10.6	8.9	0.4
	70代以上	333	38.1	6.3	64.0	39.6	19.2	5.7	32.1	22.2	48.6	35.7	1.8	13.5	3.6
居住地区別	旧市内	358	47.2	24.3	60.3	34.6	19.0	17.3	40.5	24.6	56.4	36.6	14.8	10.9	2.0
	北上	262	50.4	19.8	60.3	35.9	20.6	15.3	42.7	22.9	56.9	29.8	13.4	9.2	0.8
	錦田	196	46.4	20.9	63.3	35.7	23.5	15.3	37.8	23.5	61.7	35.2	12.2	8.2	2.0
	中郷	231	49.8	22.5	64.1	39.8	20.3	16.0	42.0	22.1	58.4	32.0	14.3	8.7	0.4

1位

2位

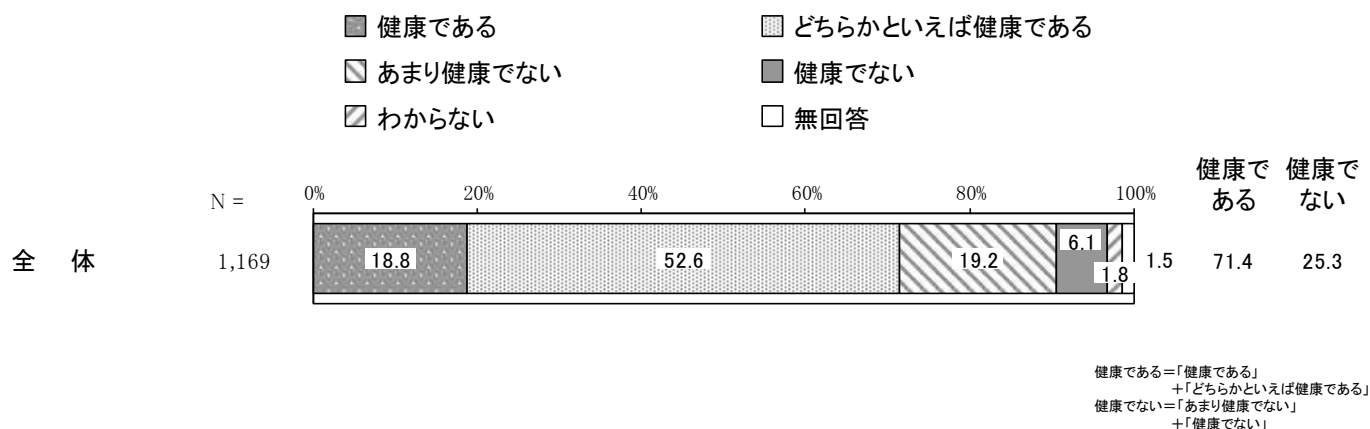
3位

8 『健康づくり』について

問 18 あなたは現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。(〇は一つ)

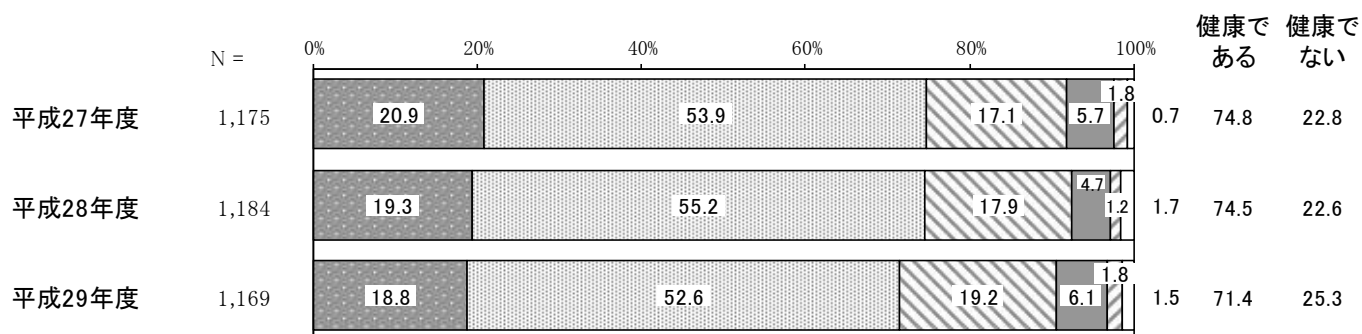
—現在健康であると感じている人は71.4%—

「健康である」(18.8%)と「どちらかといえば健康である」(52.6%)を合わせた“健康である”は71.4%となっています。一方「あまり健康でない」(19.2%)と「健康でない」(6.1%)を合わせた“健康でない”は25.3%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、“健康である”の割合が減少しており、平成29年度では約7割となっています。

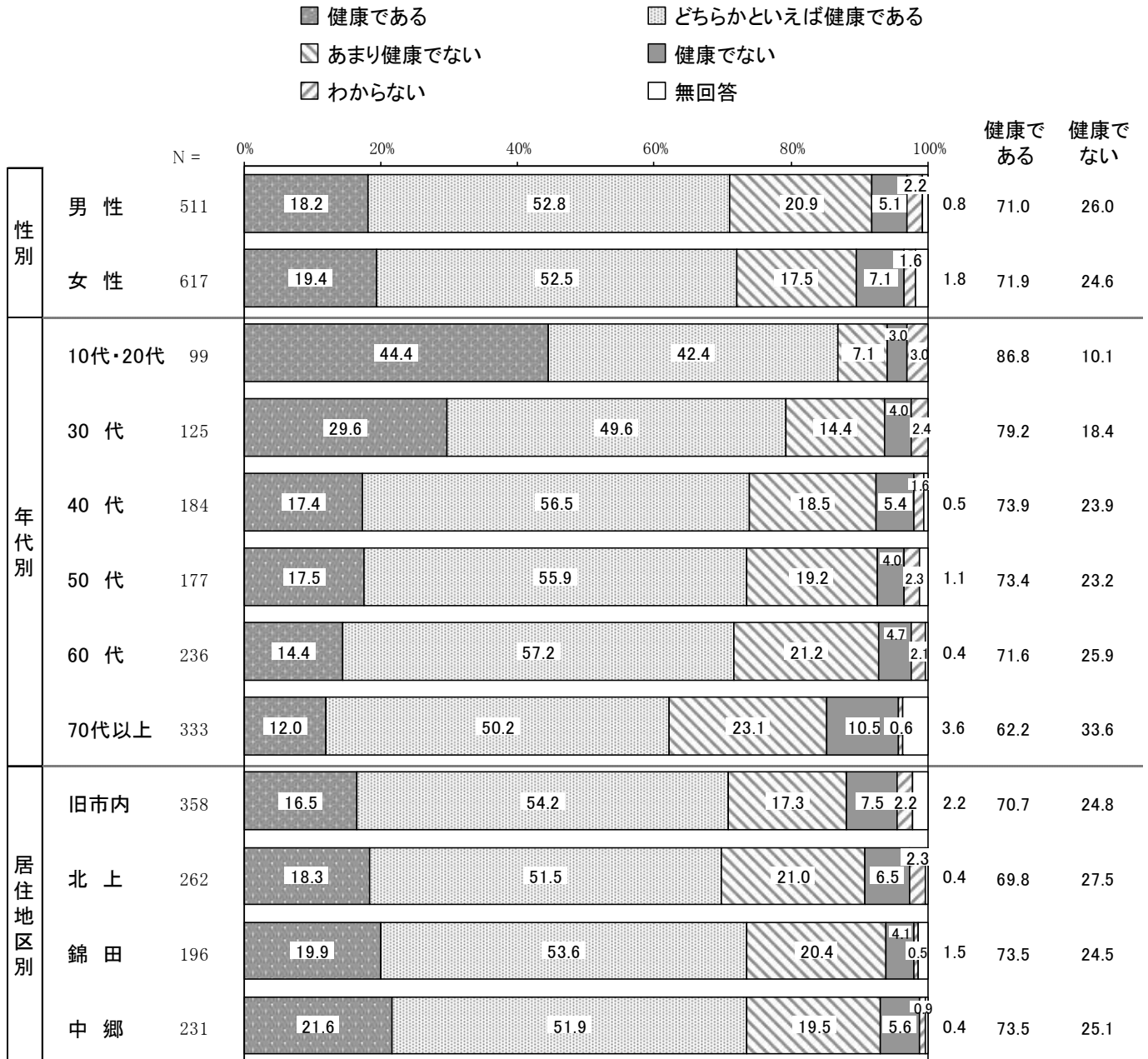


【属性別比較】

性別でみると、“健康である”（男性 71.0%、女性 71.9%）で、性別による大きな差はみられず、男性・女性とも約7割となっています。

年代別でみると、「健康である」は、年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。「健康である」は70代以上で12.0%となっています。

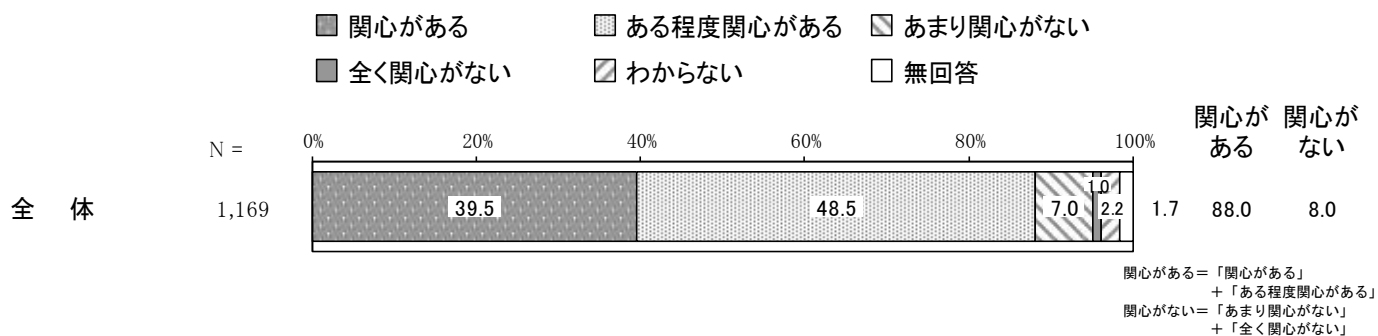
居住地区別でみると、“健康である”は、錦田（73.5%）、中郷（73.5%）が最も高くなっています。



問 19 あなたは健康づくりに関心がありますか。(〇は一つ)

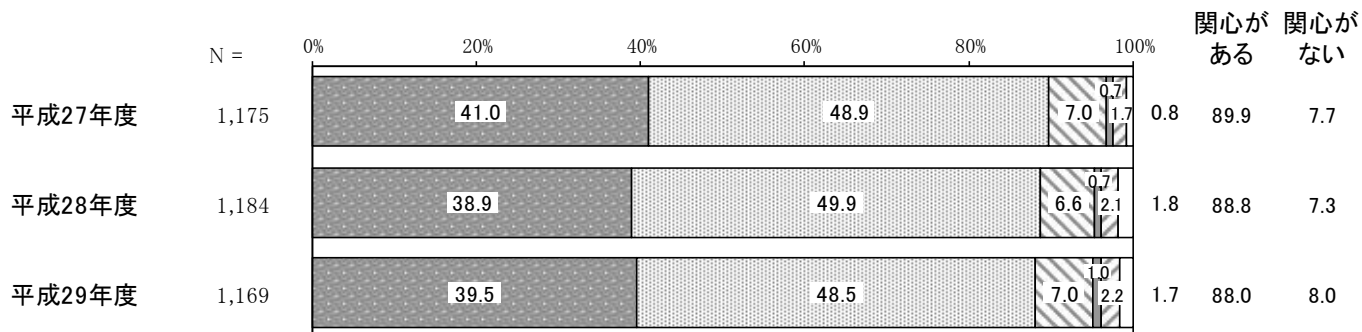
—健康づくりに“関心がある”のは88.0%—

「ある程度関心がある」(48.5%)が最も高く、「関心がある」(39.5%)を合わせた“関心がある”は88.0%となっています。一方「あまり関心がない」(7.0%)と「全く関心がない」(1.0%)を合わせた“関心がない”は8.0%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられず、“関心がある”の割合は9割近くとなっています。

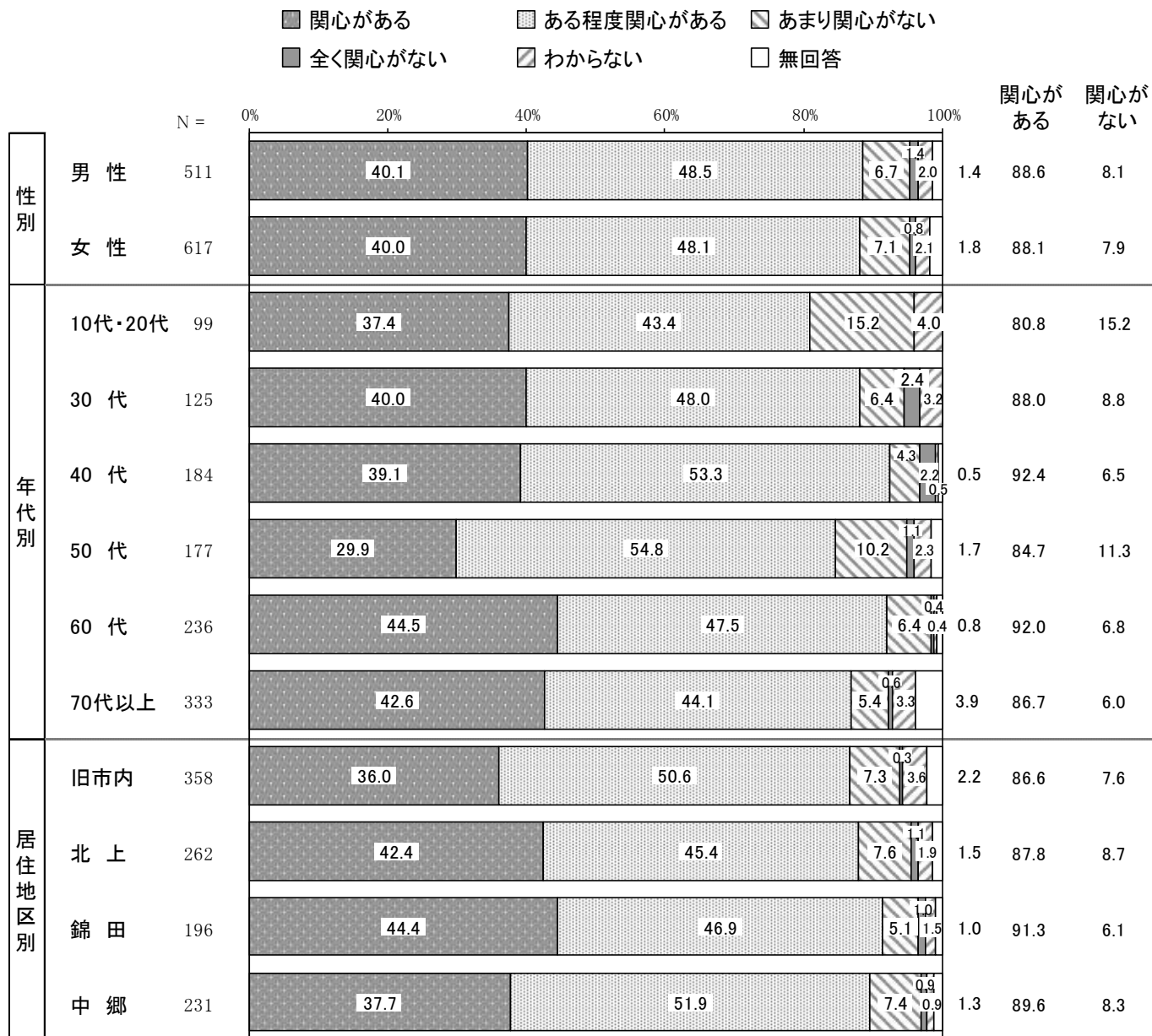


【属性別比較】

性別でみると、“関心がある”（男性 88.6%、女性 88.1%）は、性別による大きな違いはみられません。

年代別でみると、「関心がある」は、60代（44.5%）で4割台半ばと高くなっています。一方、“関心がない”は10代・20代（15.2%）で高くなっています。

居住地区別でみると、“関心がある”は、居住地区による大きな差はみられません。



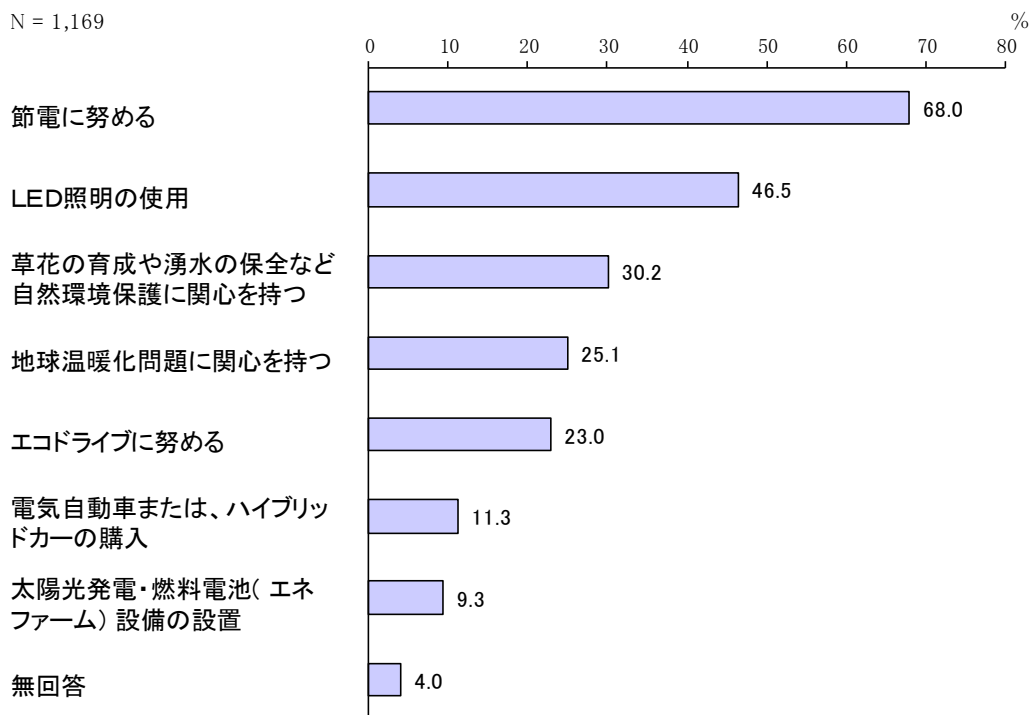
9 『環境への取り組み』について

問 20 あなたは環境に配慮するためどのような取り組みをしていますか。
(〇はいくつでも)

——「節電に努める」が 68.0%——

「節電に努める」の割合が 68.0%と最も高く、次いで「LED照明の使用」の割合が 46.5%、「草花の育成や湧水の保全など自然環境保護に関心を持つ」の割合が 30.2%となっています。

N = 1,169



【属性別比較】

性別でみると、「節電に努める」（男性 62.2%、女性 73.3%）が男性・女性ともに最も高くなっています。また、「LED照明の使用」（男性 47.2%、女性 46.8%）が男性・女性ともに2位となっています。

年代別でみると、「節電に努める」がすべての年代で最も高く、特に40代以上で約7割となっています。また、60代以下では「LED照明の使用」の割合が2位であるのに対し、70代以上では「草花の育成や湧水の保全など自然環境保護に関心を持つ」が2位となっています。

居住地区別でみると、いずれの地区でも「節電に努める」が最も高く、次いで「LED照明の使用」、「草花の育成や湧水の保全など自然環境保護に関心を持つ」となっています。

単位：%

区分		有効回答数 (件)	LED照明の使用	電気自動車または、ハイブリッドカーの購入	節電に努める	太陽光発電・燃料電池 (エネファーム)設備の設置	エコドライブに努める	地球温暖化問題に関心を持つ	草花の育成や湧水の保全など自然環境保護に関心を持つ	無回答
性別	男性	511	47.2	13.7	62.2	8.6	26.4	24.5	27.6	4.1
	女性	617	46.8	9.4	73.3	9.7	20.7	26.3	32.6	3.4
年代別	10代・20代	99	32.3	7.1	59.6	4.0	20.2	26.3	20.2	7.1
	30代	125	44.0	6.4	64.0	15.2	29.6	12.8	16.0	4.8
	40代	184	48.4	17.4	71.7	13.6	29.3	22.3	19.0	—
	50代	177	52.0	14.7	67.2	12.4	24.9	24.3	23.2	4.0
	60代	236	57.2	14.0	71.2	7.2	28.0	30.1	39.0	1.7
	70代以上	333	41.1	7.8	68.8	6.3	14.1	28.2	41.7	6.0
居住地区別	旧市内	358	43.6	8.9	67.3	7.0	22.9	20.1	27.4	5.0
	北上	262	48.9	14.9	67.6	12.2	25.6	27.5	30.2	1.5
	錦田	196	52.0	9.7	73.0	8.2	19.9	29.1	35.2	6.1
	中郷	231	49.4	13.4	69.7	11.3	22.5	29.9	31.6	2.2

1位

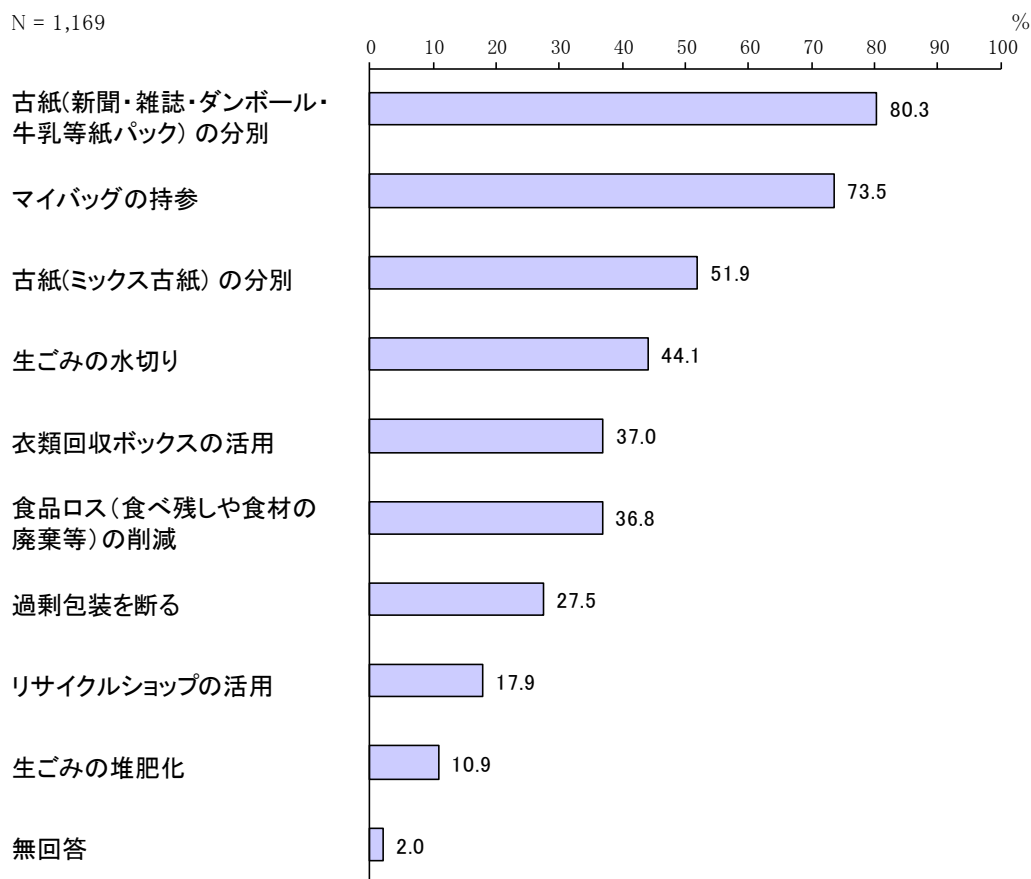
2位

3位

問 21 ゴミの減量やリサイクルについて、どのような取り組みをしていますか。
(〇はいくつでも)

—「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」の割合が80.3%—

「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」の割合が80.3%と最も高く、次いで「マイバッグの持参」の割合が73.5%、「古紙(ミックス古紙)の分別」の割合が51.9%となっています。



【属性別比較】

性別でみると、「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」が男性(79.8%)で最も高く、「マイバッグの持参」が女性(84.9%)で最も高くなっています。また、男性に比べて女性で10ポイント以上高いものは、「生ごみの水切り」、「過剰包装を断る」、「マイバッグの持参」、「衣類回収ボックスの活用」となっています。

年代別でみると、40代以上で「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」が最も高く、「マイバッグの持参」が2位となっています。

居住地区別でみると、いずれの地区でも「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」最も高く、次いで「マイバッグの持参」、「古紙(ミックス古紙)の分別」となっています。また、「生ごみの水切り」が錦田(52.0%)で高くなっています。

単位：%

区分		有効回答数(件)	生ごみの堆肥化	生ごみの水切り	古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別	古紙(ミックス古紙)の分別	過剰包装を断る	リサイクルショップの活用	食品ロス(食べ残しや食材の廃棄等)の削減	マイバッグの持参	衣類回収ボックスの活用	無回答
性別	男性	511	10.4	28.2	79.8	47.9	19.8	16.2	33.3	60.3	26.8	2.3
	女性	617	10.4	56.7	81.0	55.3	34.0	19.4	40.0	84.9	44.9	1.5
年代別	10代・20代	99	5.1	21.2	64.6	29.3	25.3	17.2	33.3	64.6	17.2	2.0
	30代	125	2.4	32.8	63.2	36.8	21.6	23.2	38.4	74.4	27.2	0.8
	40代	184	5.4	44.0	84.2	57.6	33.7	25.0	40.2	82.1	44.6	—
	50代	177	6.8	44.6	85.3	52.5	30.5	16.4	34.5	80.2	41.8	2.3
	60代	236	11.0	50.0	83.1	58.5	25.8	14.4	38.1	75.4	41.1	1.3
	70代以上	333	20.1	50.5	85.0	56.2	26.4	15.3	36.0	66.7	36.9	3.3
居住地区別	旧市内	358	9.2	39.1	74.9	49.2	27.1	15.4	39.9	72.1	34.6	2.5
	北上	262	12.2	41.2	85.9	54.6	28.2	16.0	35.9	71.8	37.0	0.8
	錦田	196	10.7	52.0	83.2	57.7	28.1	15.8	38.8	78.1	40.3	1.5
	中郷	231	12.6	47.2	83.1	51.1	29.9	26.0	35.5	73.6	39.8	1.7

1位

2位

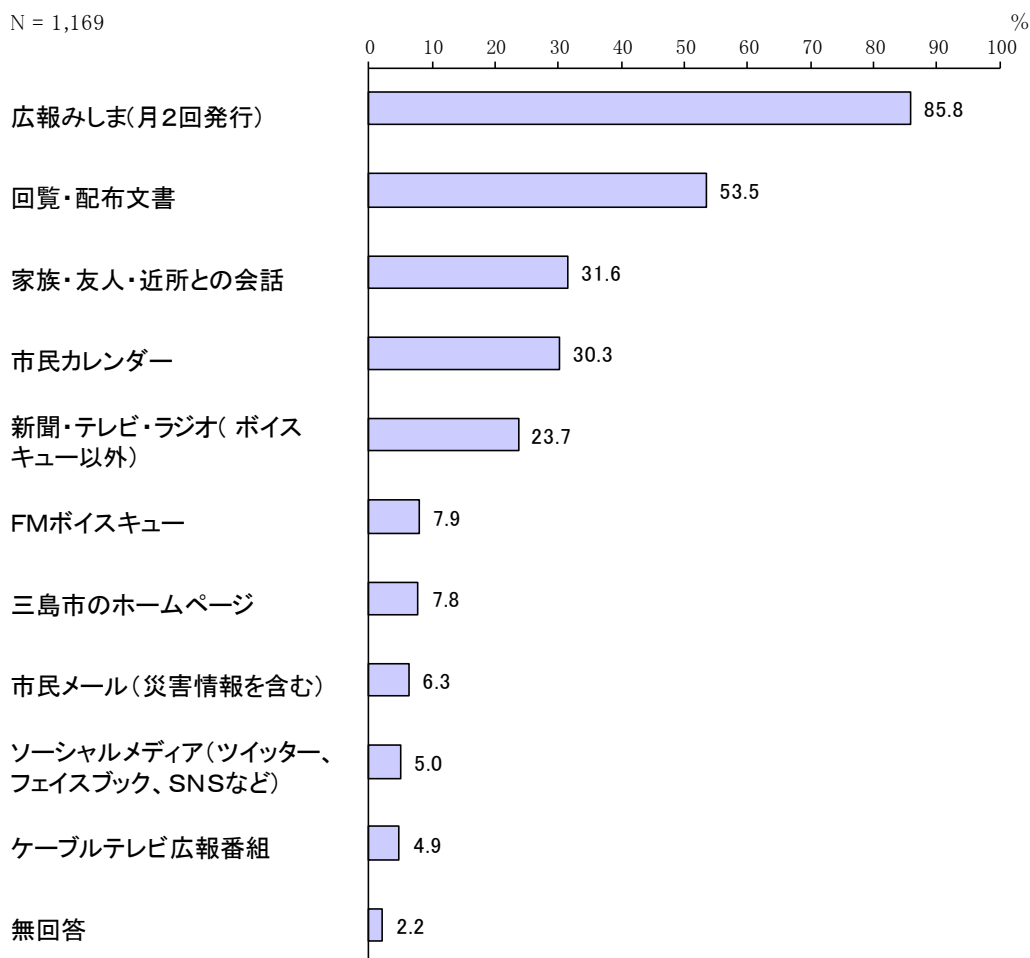
3位

10 『三島市広報活動』について

問 22 市政の動きや行事・イベントなどを何によって知りますか。(〇はいくつでも)

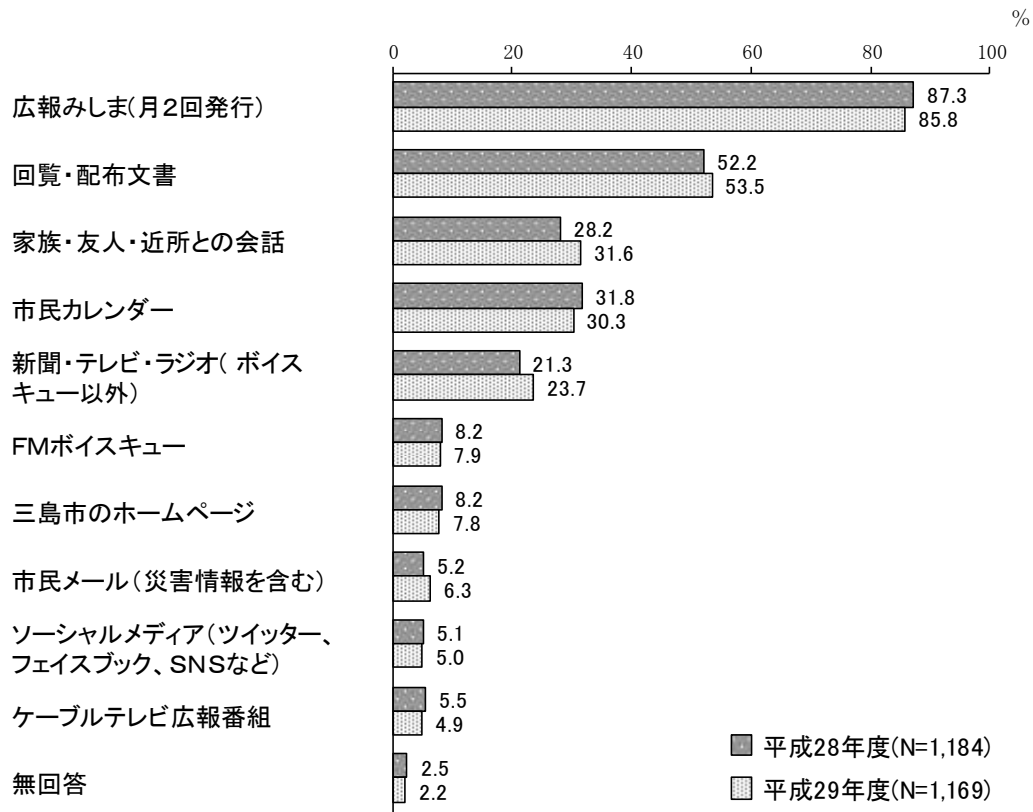
—「広報みしま(月2回発行)」の割合が85.8%—

「広報みしま(月2回発行)」の割合が85.8%と最も高く、次いで「回覧・配布文書」の割合が53.5%、「家族・友人・近所との会話」の割合が31.6%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。



【属性別比較】

性別でみると、「広報みしま(月2回発行)」(男性84.3%、女性87.5%)が男性・女性とも最も多く、8割を超えています。また、「回覧・配布文書」(男性50.1%、女性56.2%)は男性・女性いずれでも2位で、約5割を占めています。

年代別でみると、「広報みしま(月2回発行)」がいずれの年代でも最も多く、「回覧・配布文書」が30代以上で第2位となっています。「家族・友人・近所との会話」が10代・20代(48.5%)で約5割となっています。

居住地区別でみると、いずれの居住地区でも「広報みしま(月2回発行)」が最も多く、次いで「回覧・配布文書」となっています。「市民カレンダー」が錦田(34.7%)、中郷(32.9%)で高く、3割を超えています。

単位：%

区分		有効回答数(件)	広報みしま(月2回発行)	市民カレンダー	回覧・配布文書	F Mボイスキュー	ケーブルテレビ広報番組	新聞・テレビ・ラジオ(ボイスキュー以外)	家族・友人・近所との会話	三島市のホームページ	ソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブック、SNSなど)	市民メール(災害情報を含む)	無回答
性別	男性	511	84.3	29.0	50.1	8.4	5.3	24.3	27.6	9.8	4.5	4.7	2.3
	女性	617	87.5	31.0	56.2	7.5	4.7	23.8	35.3	6.6	5.7	7.6	1.9
年代別	10代・20代	99	62.6	10.1	18.2	6.1	2.0	23.2	48.5	9.1	18.2	3.0	1.0
	30代	125	82.4	8.8	38.4	8.8	2.4	14.4	32.0	8.8	14.4	5.6	0.8
	40代	184	89.1	20.7	49.5	9.2	6.0	15.8	34.8	10.3	4.9	11.4	1.1
	50代	177	87.0	27.7	60.5	12.4	6.2	18.1	27.1	9.0	4.5	6.8	2.3
	60代	236	90.3	36.0	59.7	9.7	5.1	28.4	25.8	8.5	—	8.9	2.1
	70代以上	333	88.9	47.1	63.7	3.9	5.4	32.4	31.2	4.8	1.5	2.7	3.6
居住地区別	旧市内	358	83.8	27.7	51.7	5.9	3.6	25.1	34.9	10.6	5.9	6.7	2.5
	北上	262	87.4	28.2	54.2	9.5	6.1	21.4	29.4	9.2	5.0	6.9	1.1
	錦田	196	88.3	34.7	50.0	7.1	4.1	25.5	31.1	4.1	1.5	7.1	2.0
	中郷	231	85.7	32.9	59.7	9.5	5.6	28.1	30.7	6.5	6.5	6.5	1.7

1位

2位

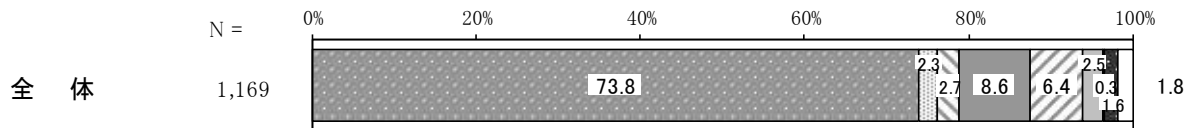
3位

問 23 広報みしまの発行回数について。(〇は一つ)

— 「現状どおり継続」の割合が 73.8% —

「現状どおり継続」の割合が 73.8%と最も高く、次いで「月 1 回の発行でページ数等は現状どおり」の割合が 8.6%、「月 1 回の発行でページ数、内容の増加」の割合が 6.4%となっています。

- 現状どおり継続
- ▨ 月2回の発行でページ数を減らす
- ▧ 月2回発行でページ数、内容の増加
- 月1回の発行でページ数等は現状どおり
- ▨ 月1回の発行でページ数、内容の増加
- ▧ 月1回の発行でページ数、内容の減少
- ▨ 月2回以上発行したほうがよい
- 発行の必要がない
- 無回答



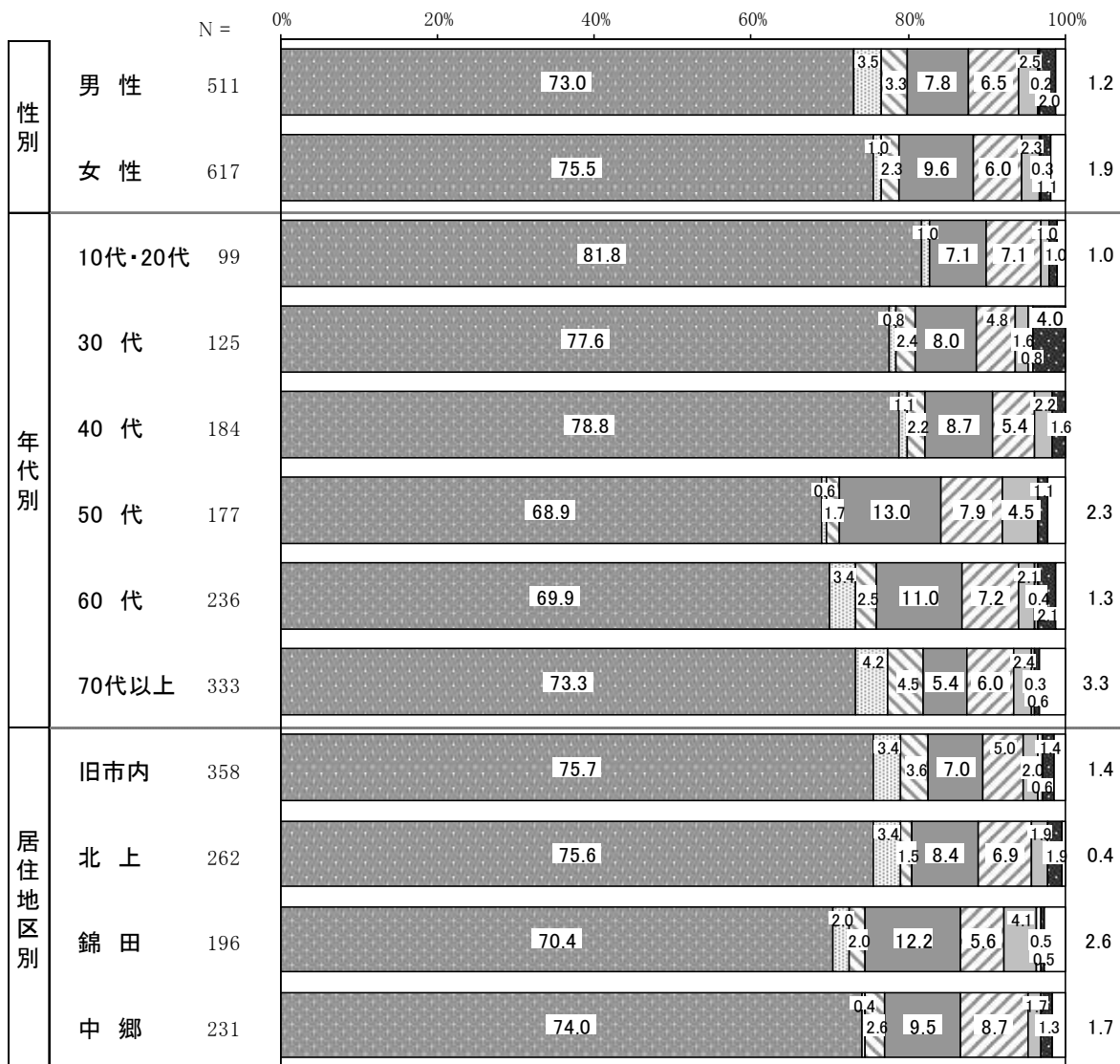
【属性別比較】

性別でみると、男性と女性で大きな差はみられず、「現状どおり継続」(男性73.0%、女性75.5%)が男性・女性とも7割を超えています。

年代別でみると、「現状どおり継続」がいずれの年代においても最も多く、特に10代・20代から40代で約8割と高くなっています。

居住地区別でみると、「現状どおり継続」がいずれの居住地区においても最も多く、「月1回の発行でページ数等は現状どおり」が第2位、「月1回の発行でページ数、内容の増加」が第3位となっています。

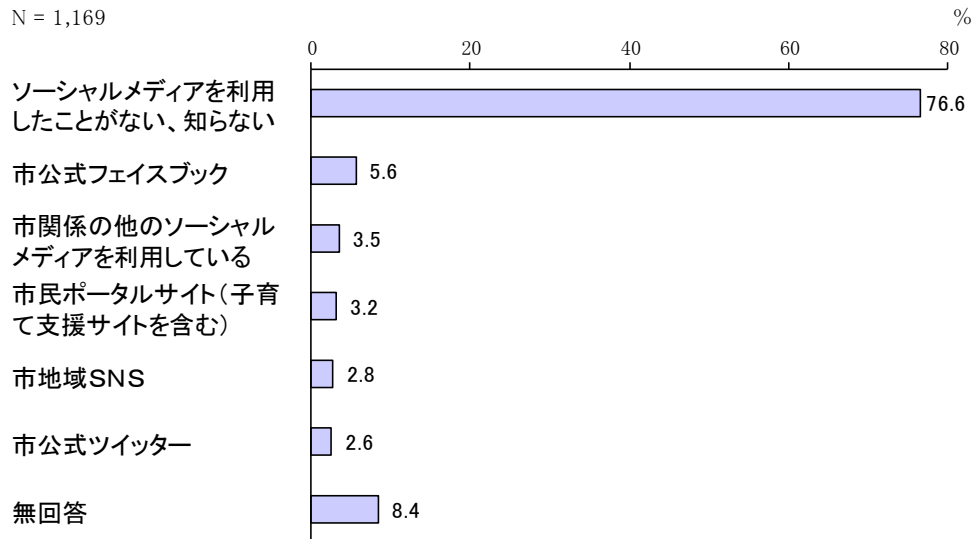
- 現状どおり継続
- ▨ 月2回の発行でページ数を減らす
- ▧ 月2回発行でページ数、内容の増加
- 月1回の発行でページ数等は現状どおり
- ▨ 月1回の発行でページ数、内容の増加
- ▧ 月1回の発行でページ数、内容の減少
- ▨ 月2回以上発行したほうがよい
- 発行の必要がない
- 無回答



問 24 三島市の情報を発信しているインターネットを活用したフェイスブック、ツイッター、SNSなどのソーシャルメディアを利用したことはありますか。
(〇はいくつでも)

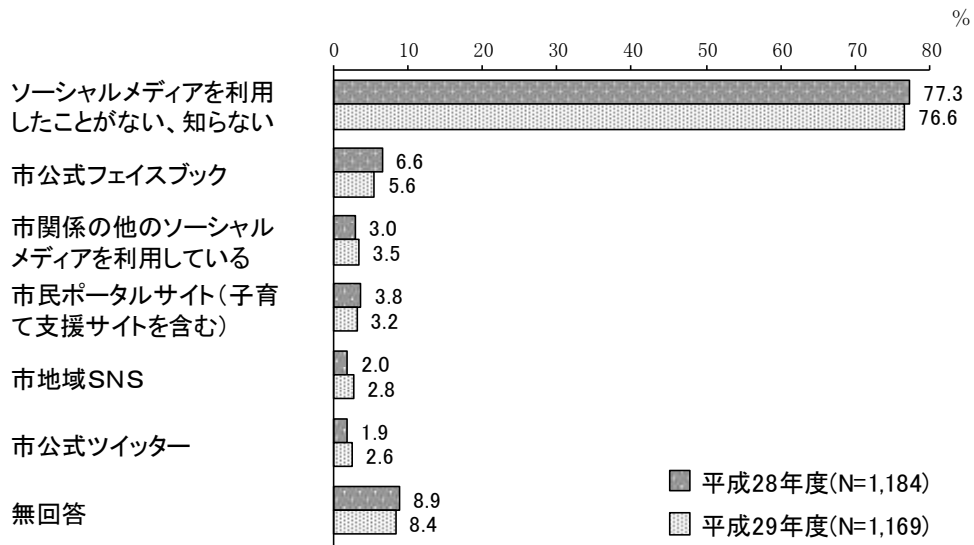
— “ソーシャルメディアを利用したことがある” の割合が 15.0%—

「ソーシャルメディアを利用したことがない、知らない」(76.6%)と「無回答」(8.4%)を除く“ソーシャルメディアを利用したことがある”の割合が15.0%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。



【属性別比較】

性別でみると、「ソーシャルメディアを利用したことがない、知らない」（男性 79.5%、女性 75.2%）が男性・女性ともに最も多く、7割を超えています。

年代別でみると、「ソーシャルメディアを利用したことがない、知らない」がいずれの年代でも最も多くなっています。また、「市公式ツイッター」は10代・20代（14.1%）で1割半ばと高くなっています。

居住地区別でみると、「ソーシャルメディアを利用したことがない、知らない」はいずれの居住地区でも最も多くなっています。

単位：%

区分		有効回答数 (件)	市公式フェイスブック	市公式ツイッター	市民ポータルサイト (子育て支援サイトを含む)	市地域SNS	市関係の他のソーシャルメディアを利用している	ソーシャルメディアを利用したことがない、知らない	無回答
性別	男性	511	6.1	2.0	2.0	2.5	3.9	79.5	5.5
	女性	617	5.5	3.2	4.4	3.2	3.2	75.2	9.1
年代別	10代・20代	99	9.1	14.1	2.0	3.0	8.1	66.7	4.0
	30代	125	12.8	4.8	12.0	4.0	4.0	67.2	1.6
	40代	184	8.7	1.6	6.5	3.8	5.4	76.6	2.2
	50代	177	4.0	1.7	2.8	5.1	4.0	81.4	3.4
	60代	236	2.5	0.4	0.8	3.0	1.7	85.6	7.2
	70代以上	333	3.3	0.9	0.3	0.6	1.8	75.1	18.0
居住地区別	旧市内	358	5.9	2.0	4.2	2.8	4.5	76.8	7.0
	北上	262	4.6	1.9	2.3	1.9	3.1	80.9	6.9
	錦田	196	5.1	3.1	3.1	3.1	2.0	78.6	7.1
	中郷	231	7.8	3.9	2.6	3.9	3.5	74.0	9.5

1位

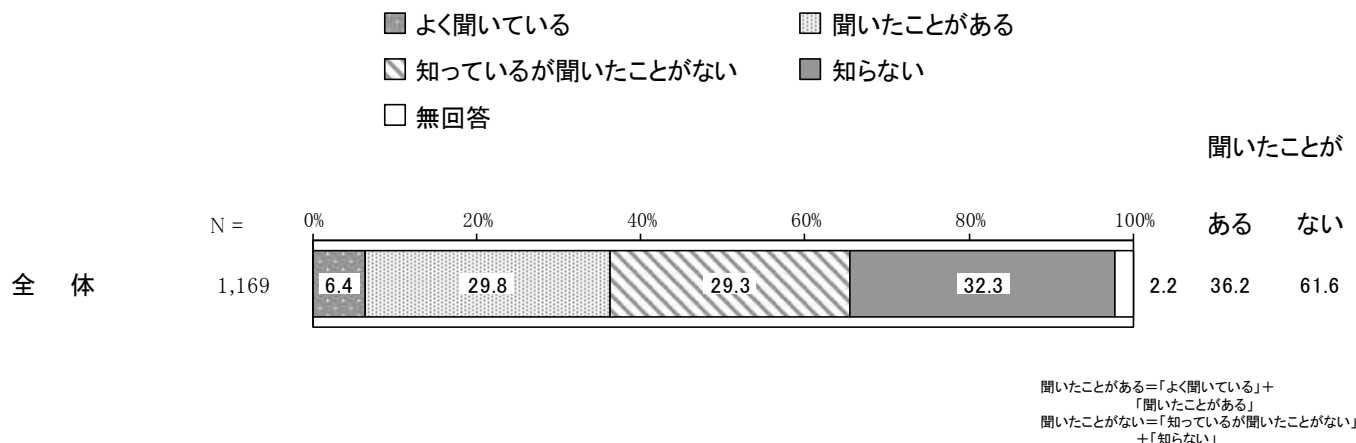
2位

3位

問 25 FMボイスキュー(コミュニティーFM)で三島市からの広報番組や緊急情報を放送しています。あなたはこの放送を聞いていますか。(○は一つ)

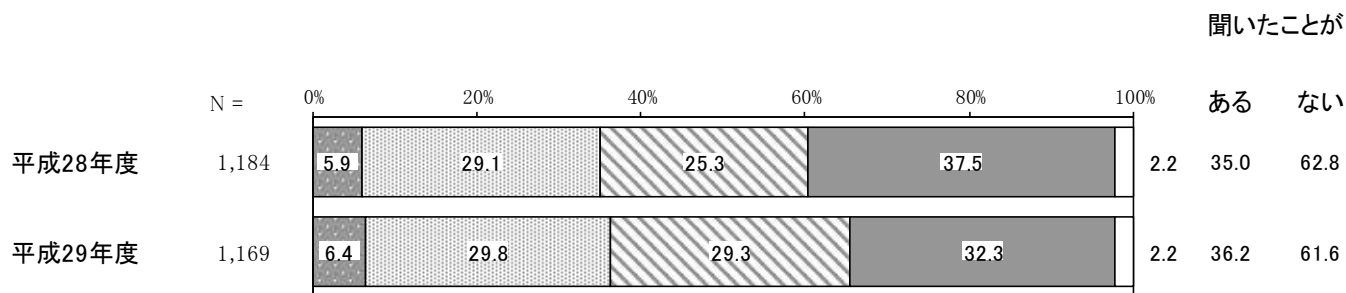
—FMボイスキュー(コミュニティーFM)を“聞いたことがある”人が36.2%—

「知らない」の割合が32.3%と最も高く、次いで「聞いたことがある」の割合が29.8%、「知っているが聞いたことがない」の割合が29.3%となっています。「聞いたことがある」人の割合は36.2%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。

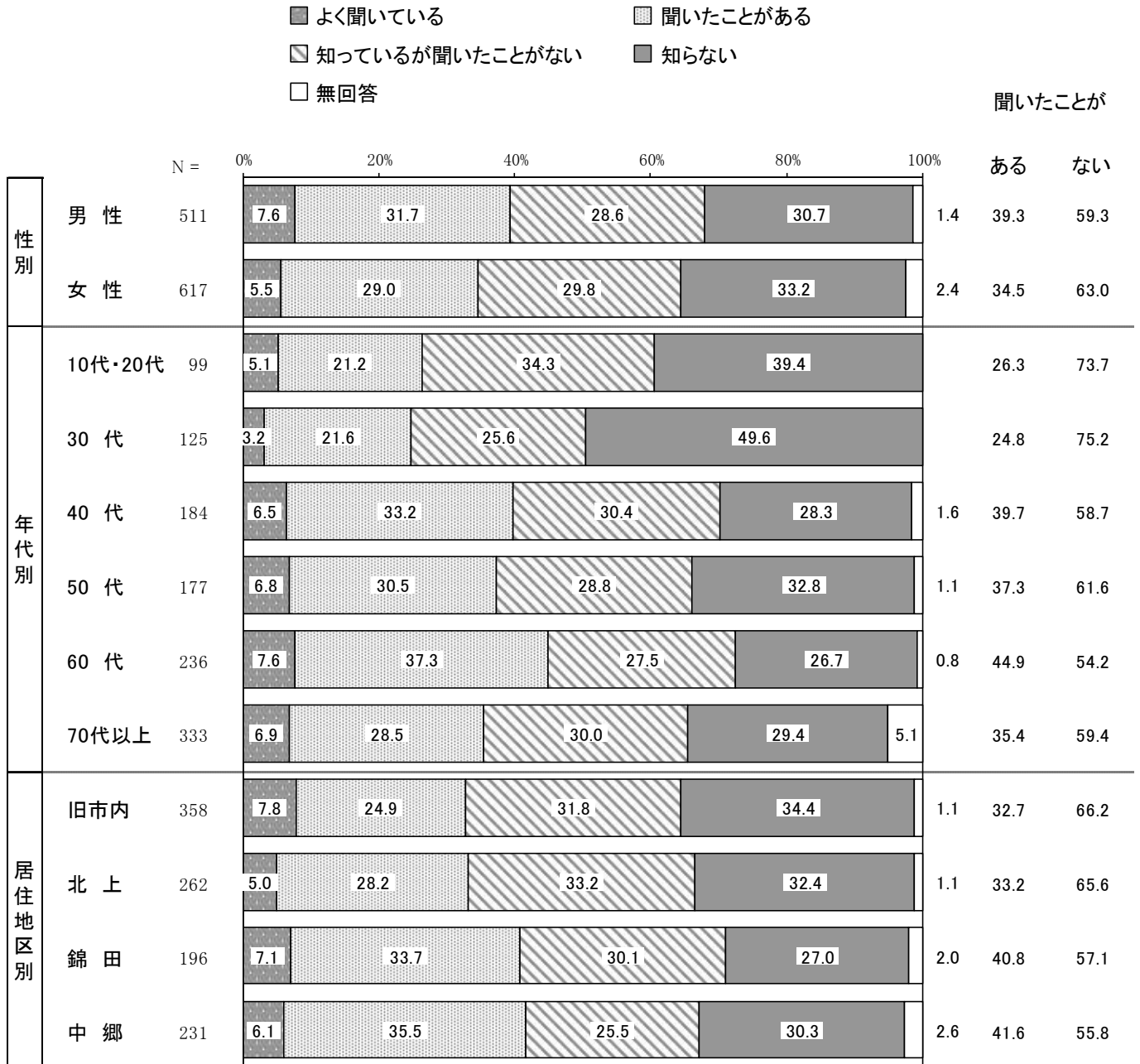


【属性別比較】

性別でみると、「聞いたことがある」（男性 31.7%、女性 29.0%）、「知らない」（男性 30.7%、女性 33.2%）が約3割となっています。

年代別でみると、「知らない」は30代（49.6%）で高く、約5割を占めています。また、「聞いたことがある」は60代（37.3%）で約4割となっています。

居住地区別でみると、「聞いたことがある」は、錦田（40.8%）、中郷（41.6%）で約4割となっています。

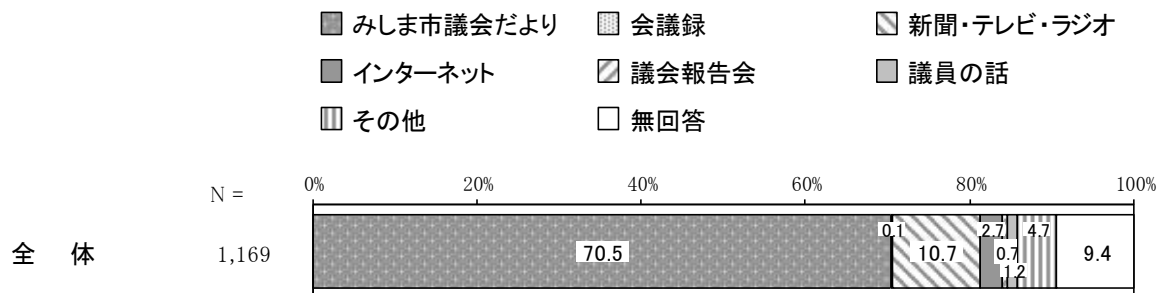


11 『市議会広報活動』について

問 26 あなたは市議会の動きを何によって知りますか。(〇は一つ)

—みしま市議会だよりの割合は 70.5%—

「みしま市議会だより」の割合が 70.5%と最も高く、次いで「新聞・テレビ・ラジオ」の割合が 10.7%、「その他」の割合が 4.7%となっています。

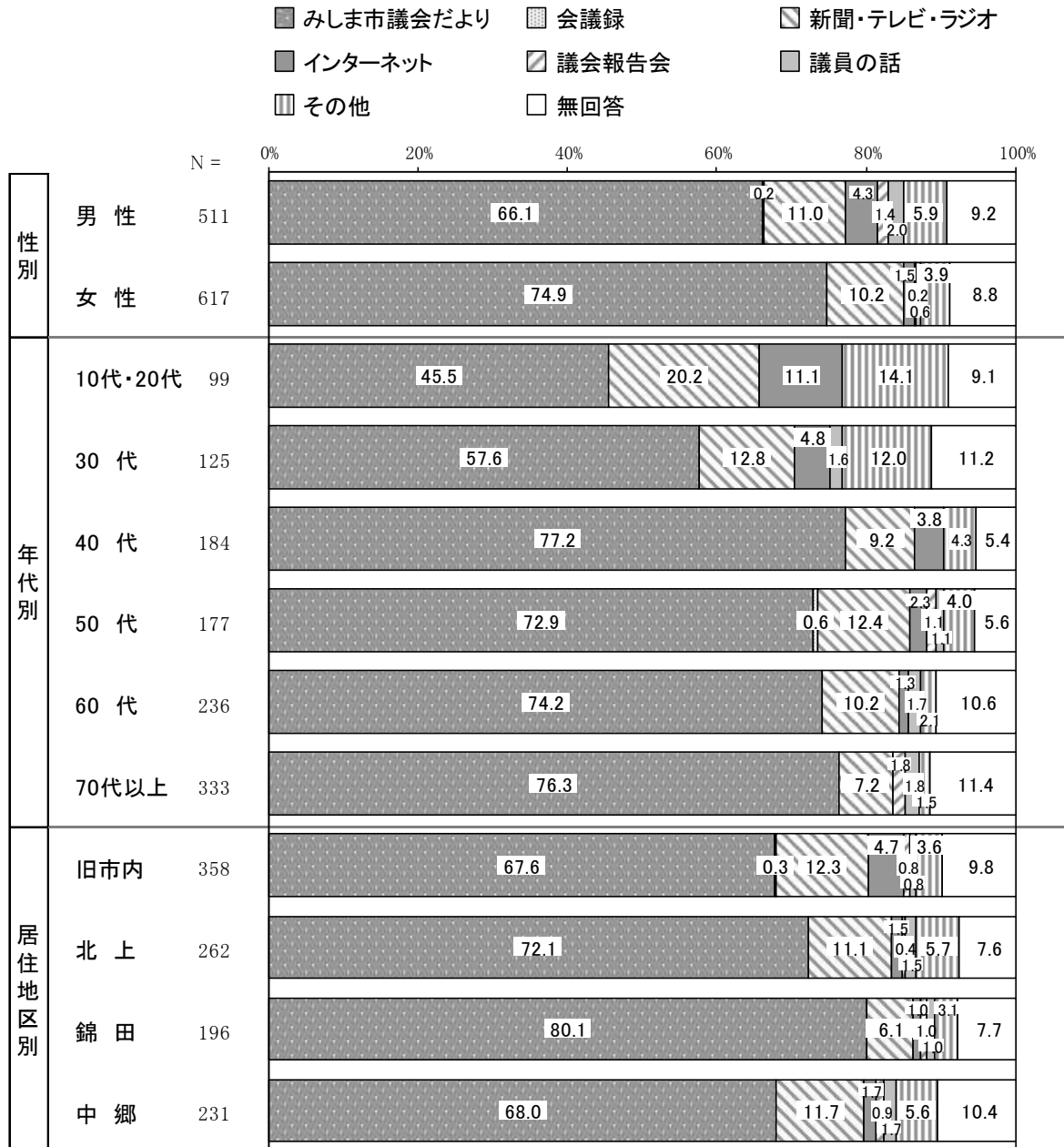


【属性別比較】

性別でみると、「みしま市議会だより」（男性 66.1%、女性 74.9%）が男性・女性ともに最も高くなっていますが、その割合は男性よりも女性で高くなっています。

年代別でみると、「みしま市議会だより」がすべての年代で最も高く、特に40代以上で7割を超えています。また、「新聞・テレビ・ラジオ」がすべての年代で2位となっています。

居住地区別でみると、「みしま市議会だより」がいずれの地区でも最も高く、特に錦田（80.1%）で約8割となっています。



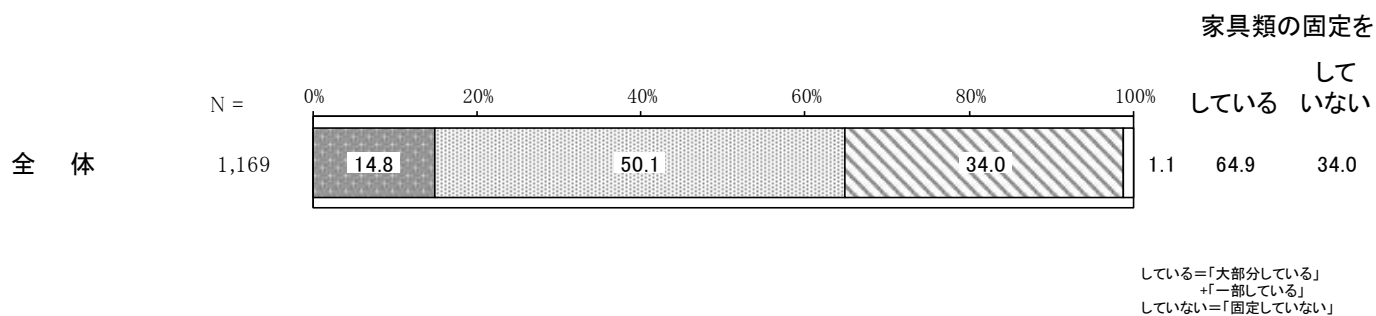
12 『災害対策』について

問 27 あなたは地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は一つ)

—家具の固定状況を“している”人は64.9%—

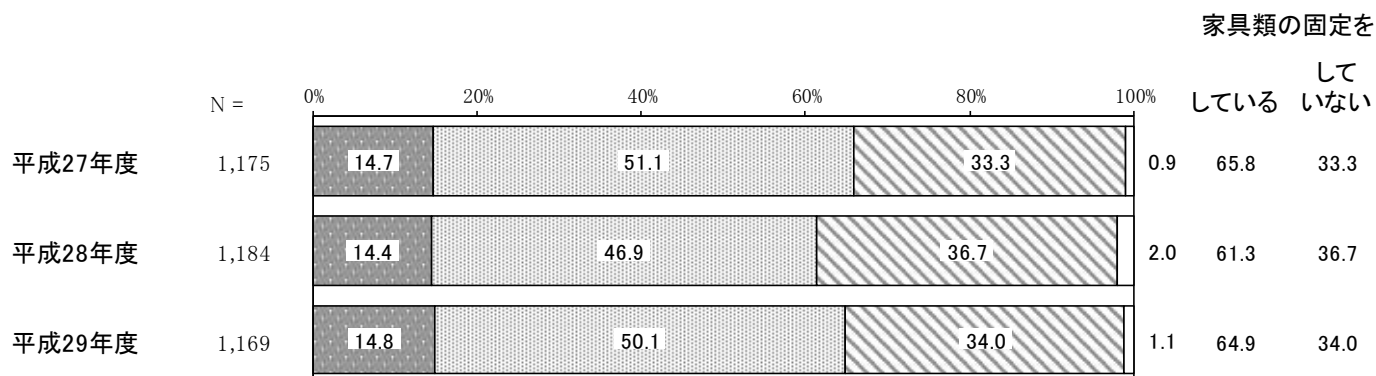
「一部している」の割合が50.1%と最も高く、次いで「固定していない」の割合が34.0%、「大部分している」の割合が14.8%となっています。「一部している」(50.1%)と「大部分している」(14.8%)を合わせた“している”割合は64.9%となります。

■ 大部分している □ 一部している ▨ 固定していない □ 無回答



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。

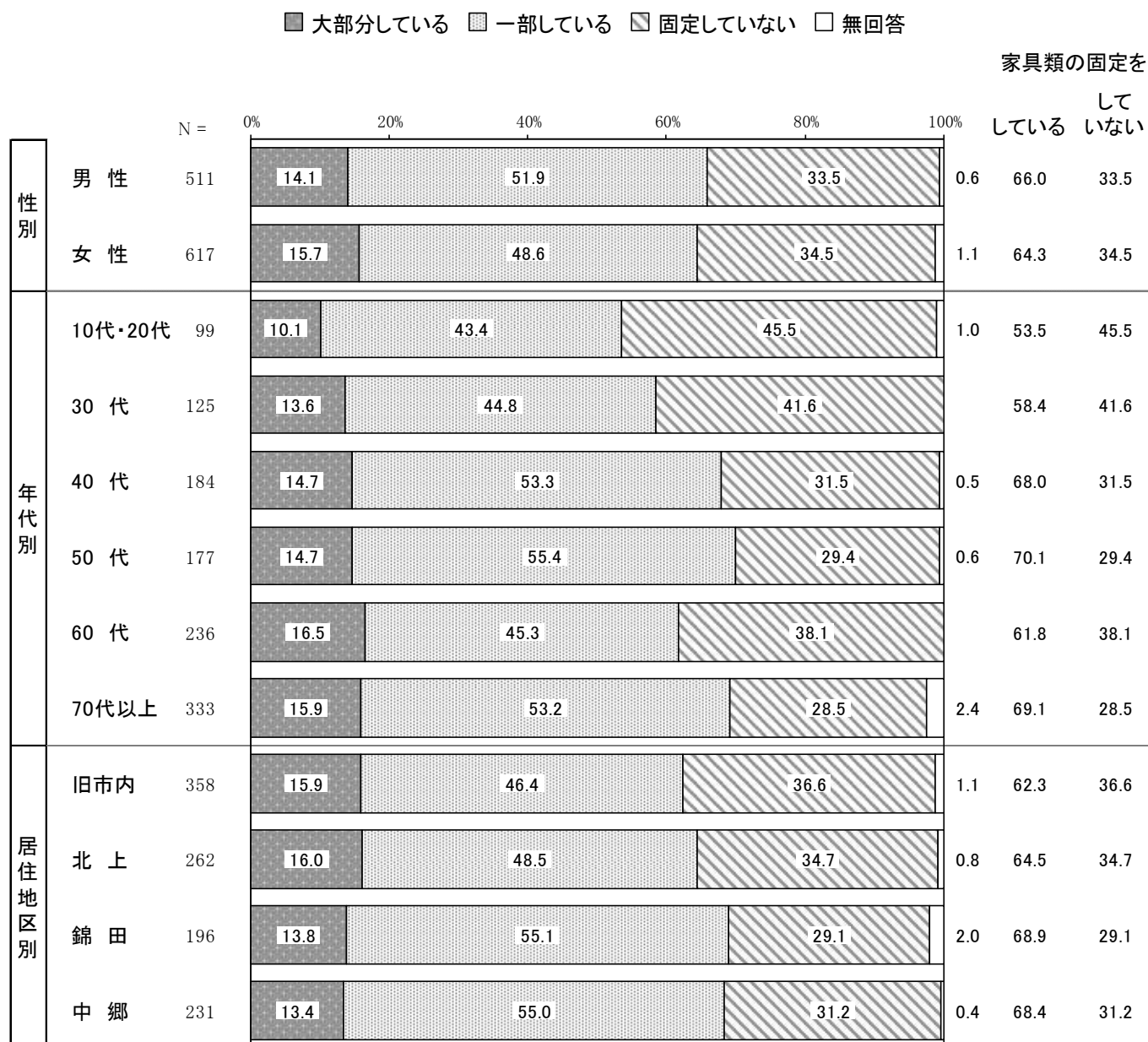


【属性別比較】

性別でみると、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、“している”は、40代（68.0%）、50代（70.1%）、70代以上（69.1%）で約7割と高くなっています。一方、10代・20代（53.5%）では約5割にとどまっています。

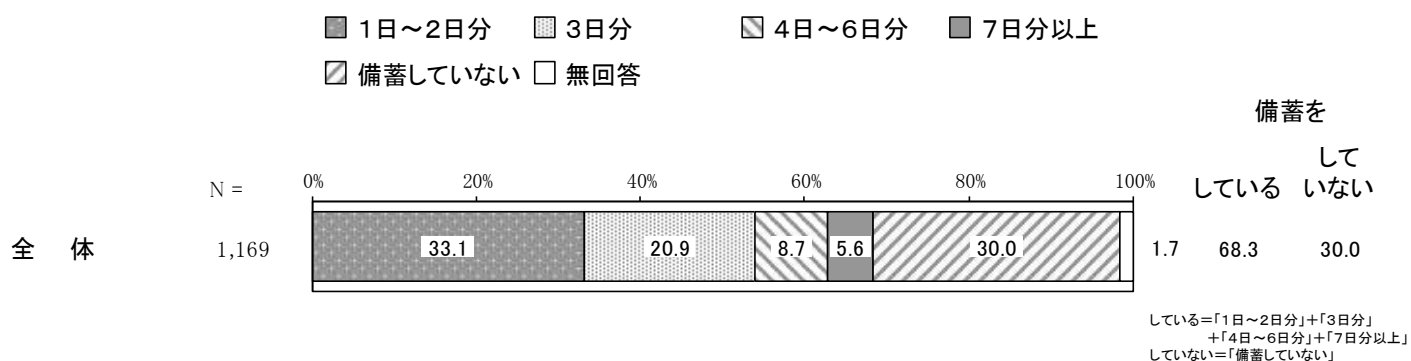
居住地区別でみると、「固定していない」は、旧市内（36.6%）、北上（34.7%）で3割半ばとなっています。



問 28 あなたは災害時に何日分の飲料水の備蓄をしていますか。ひとり1日あたり3リットルで計算し、お答えください。(〇は一つ)

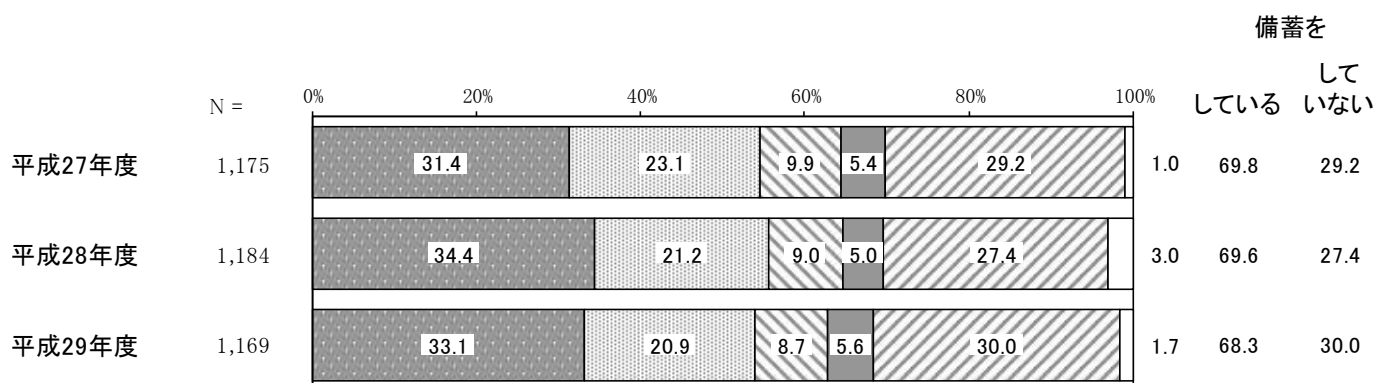
—飲料水の備蓄を“している”割合は68.3%—

「1日～2日分」の割合が33.1%と最も高く、次いで「備蓄していない」の割合が30.0%、「3日分」の割合が20.9%となっています。1日分以上の飲料水を備蓄している割合は68.3%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられず、“している”の割合は約7割となっています。

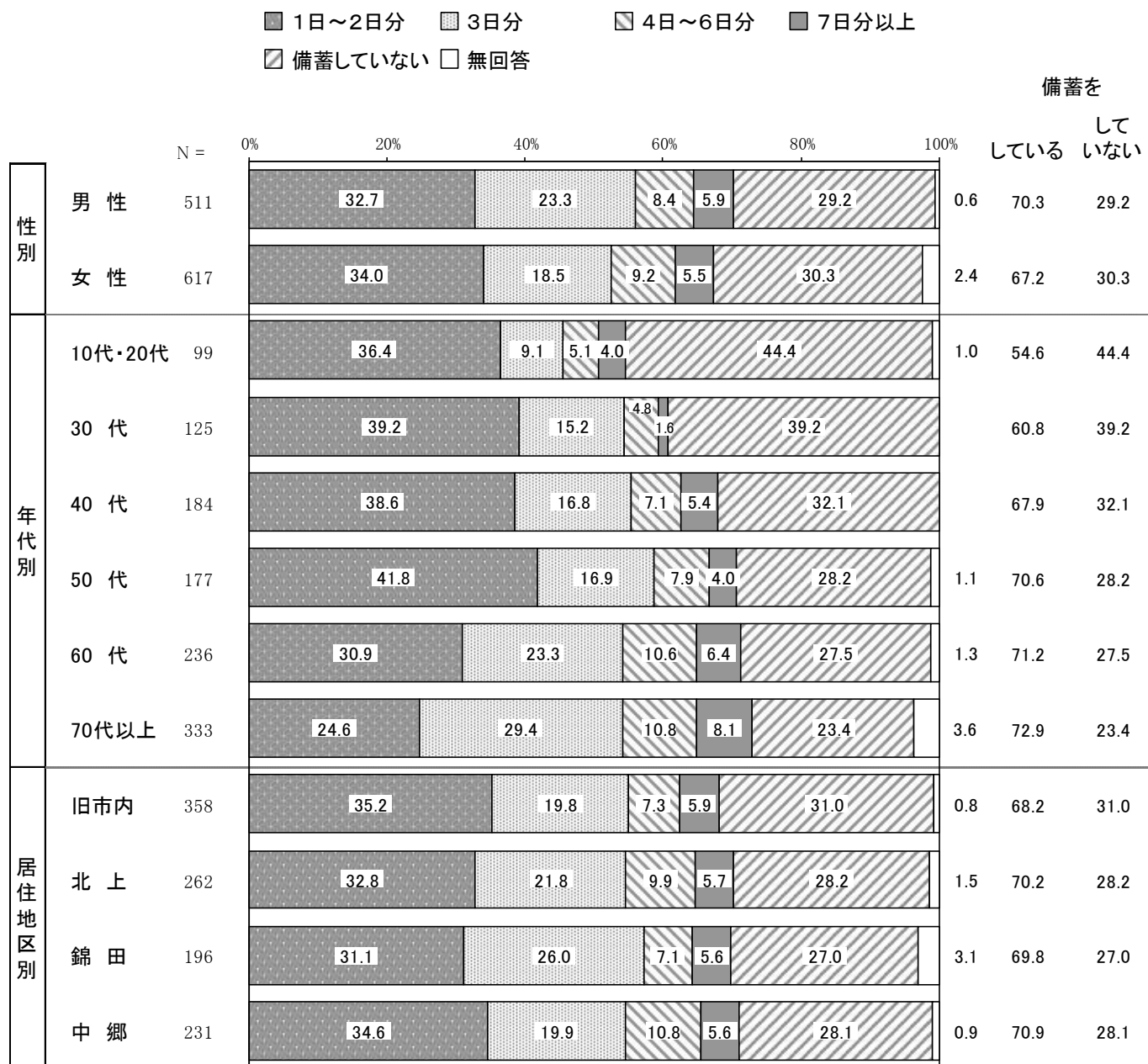


【属性別比較】

性別でみると、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、備蓄を“していない”割合は10代・20代（44.4%）が最も高くなっています。

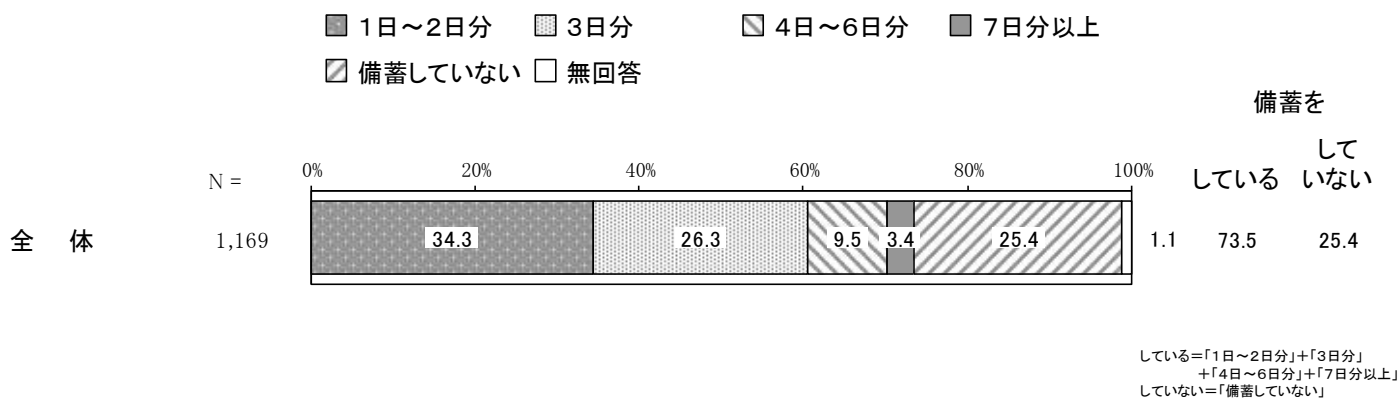
居住地区別でみると、備蓄を“している”割合は地区による大きな差はみられず、約7割となっています。



問 29 あなたは災害時に何日分の食料（レトルト食品、ラーメン、缶詰などを含む。）の備蓄をしていますか。（○は一つ）

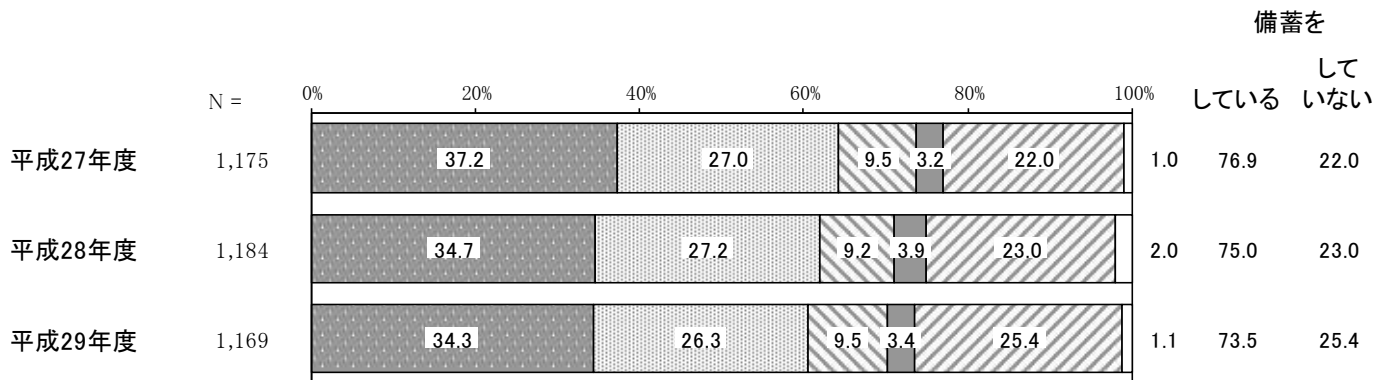
—食料の備蓄を“している”割合は73.5%—

「1日～2日分」の割合が34.3%と最も高く、次いで「3日分」の割合が26.3%、「備蓄していない」の割合が25.4%となっています。1日分以上の食料を備蓄している割合は73.5%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、“していない”の割合は年々増加しており、平成29年度では2割半ばとなっています。

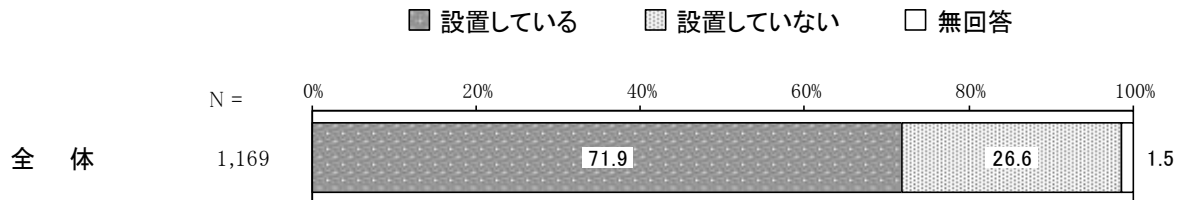


13 『住宅の火災対策』 について

問 30 住宅用火災警報器を設置していますか。(○は一つ)

— 「設置している」の割合は 71.9%—

「設置している」の割合が 71.9%、「設置していない」の割合が 26.6%となっています。

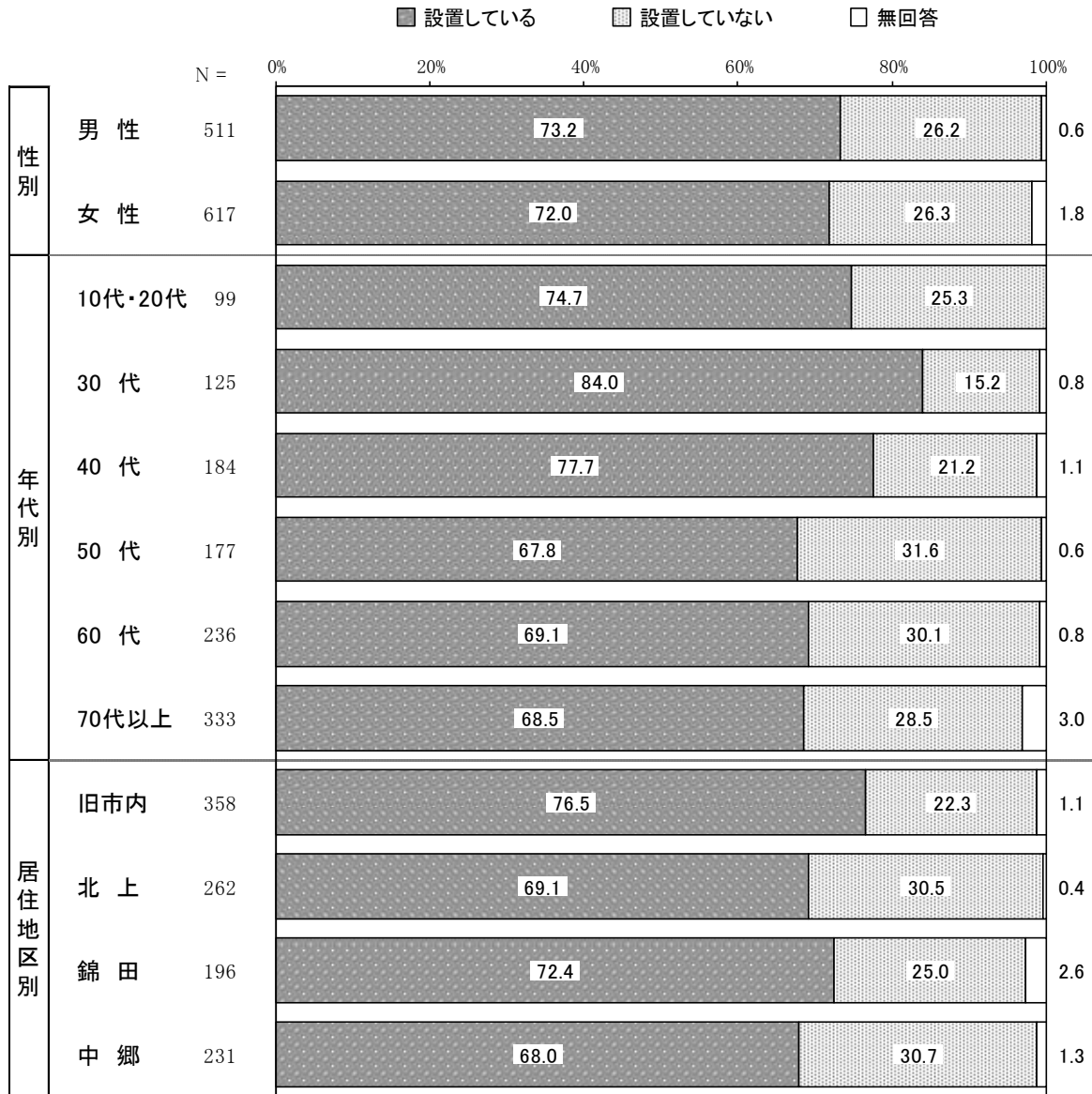


【属性別比較】

性別でみると、「設置している」（男性 73.2%、女性 72.0%）は性別による大きな差はなく、約7割となっています。

年代別でみると、「設置している」は、30代（84.0%）で最も高くなっています。また、「設置していない」が50代以上で約3割となっています。

居住地区別でみると、「設置している」は、旧市内（76.5%）で最も高くなっています。

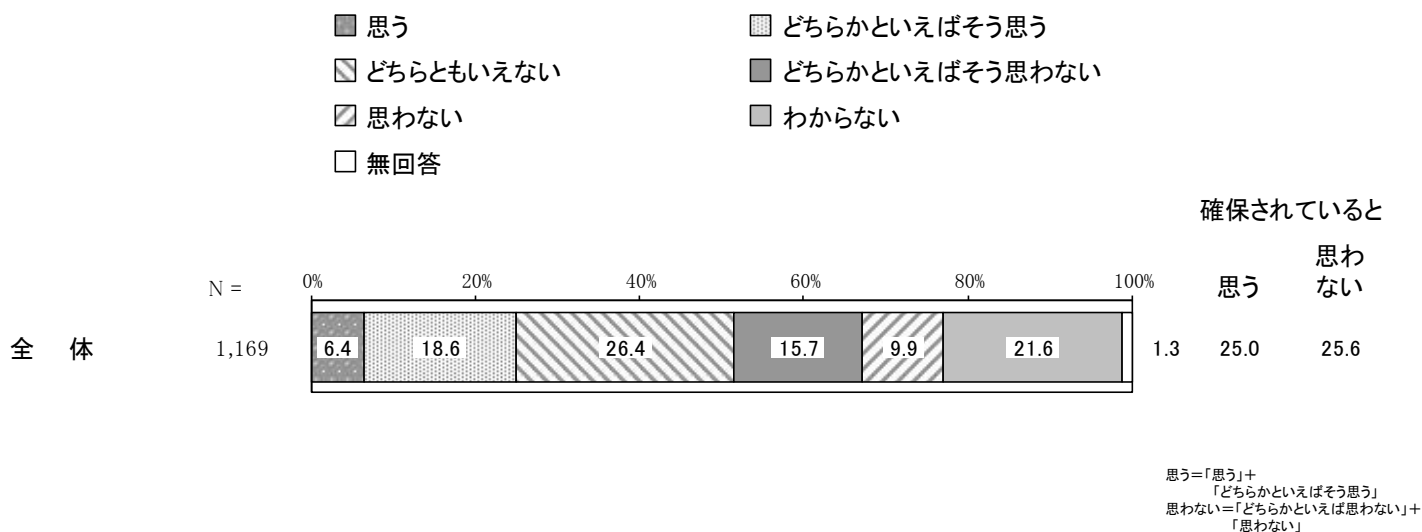


14 『男女共同参画』について

問 31 男女が性別に関わりなく、個性と能力を十分に発揮する機会が確保されていると思いますか。(〇は一つ)

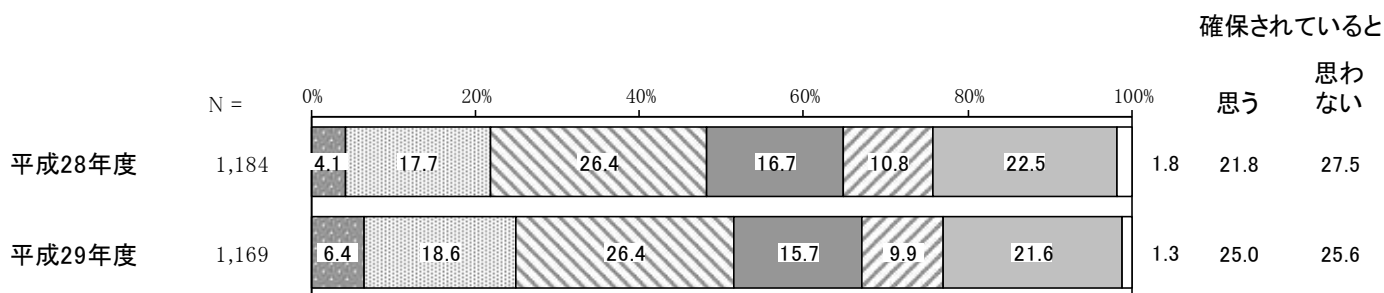
—個性と能力を十分に発揮する機会が“確保されている”は25.0%—

「思う」(6.4%)と「どちらかといえばそう思う」(18.6%)をあわせた“思う”の割合は25.0%、「どちらかといえばそう思わない」(15.7%)と「思わない」(9.9%)をあわせた“思わない”の割合は25.6%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、“思う”の割合が増加しています。

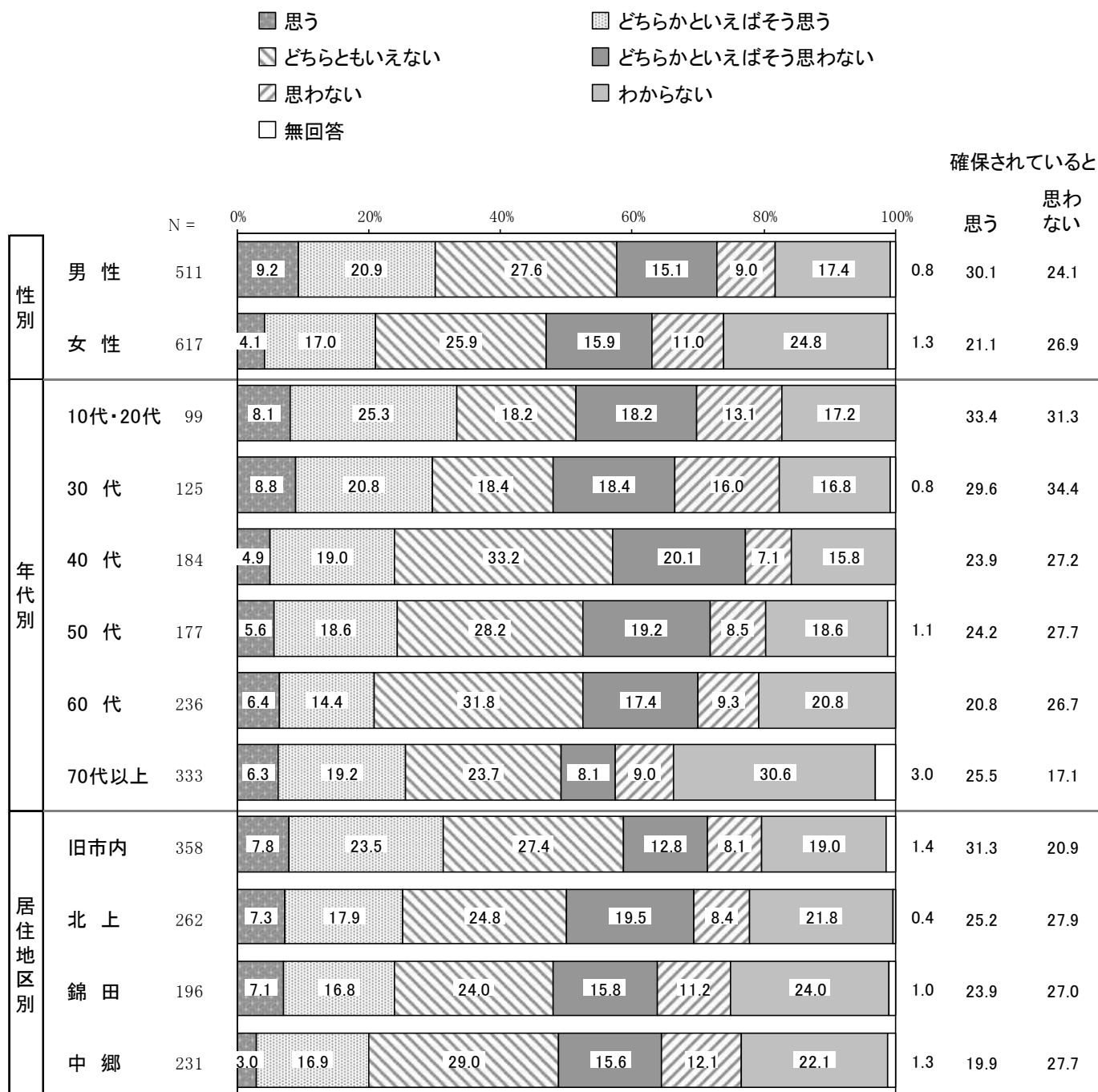


【属性別比較】

性別でみると、確保されていると“思う”の割合は、男性（30.1%）が女性（21.1%）よりも高くなっています。

年代別でみると、確保されていると“思わない”の割合は、30代（34.4%）で最も高く、3割半ばとなっています。

居住地区別でみると、確保されていると“思う”の割合は旧市内（31.3%）で最も高くなっています。

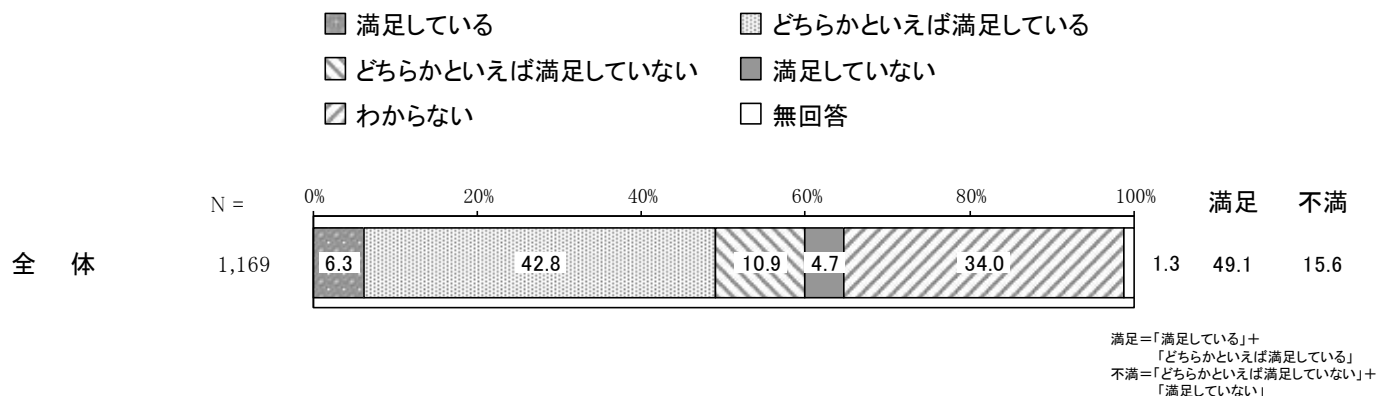


15 『三島市の文化的環境』について

問 32 あなたは、三島市の文化的環境(鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的街並みの保存・整備など)に満足していますか。(〇は一つ)

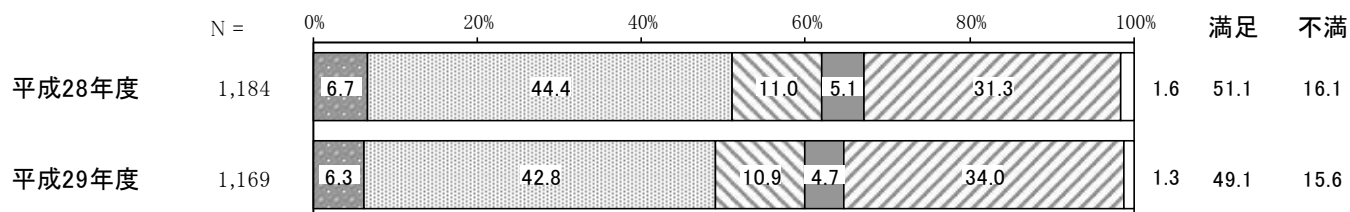
—文化的環境に“満足している”は49.1%—

「満足している」(6.3%)と「どちらかといえば満足している」(42.8%)をあわせた“満足している”人の割合は49.1%、「どちらかといえば満足していない」(10.9%)と「満足していない」(4.7%)をあわせた“満足していない”の割合は15.6%となっています。



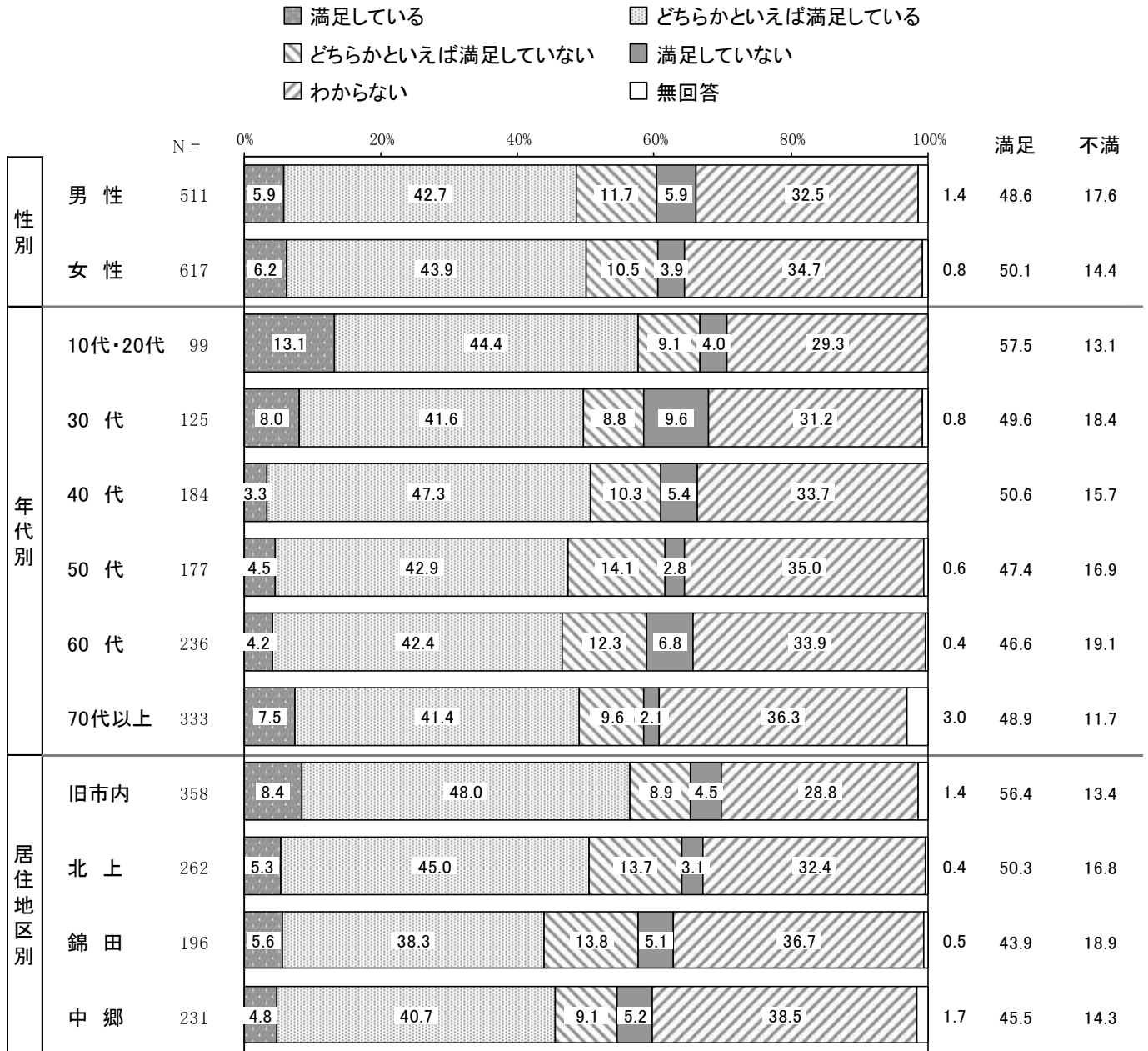
【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。



【属性別比較】

性別でみると、“満足”（男性 48.6%、女性 50.1%）は、性別による大きな差はみられません。
 年代別でみると、“満足”は10代・20代（57.5%）で約6割と高くなっています。
 居住地区別でみると、“満足”は旧市内（56.4%）で最も高く、5割半ばとなっています。

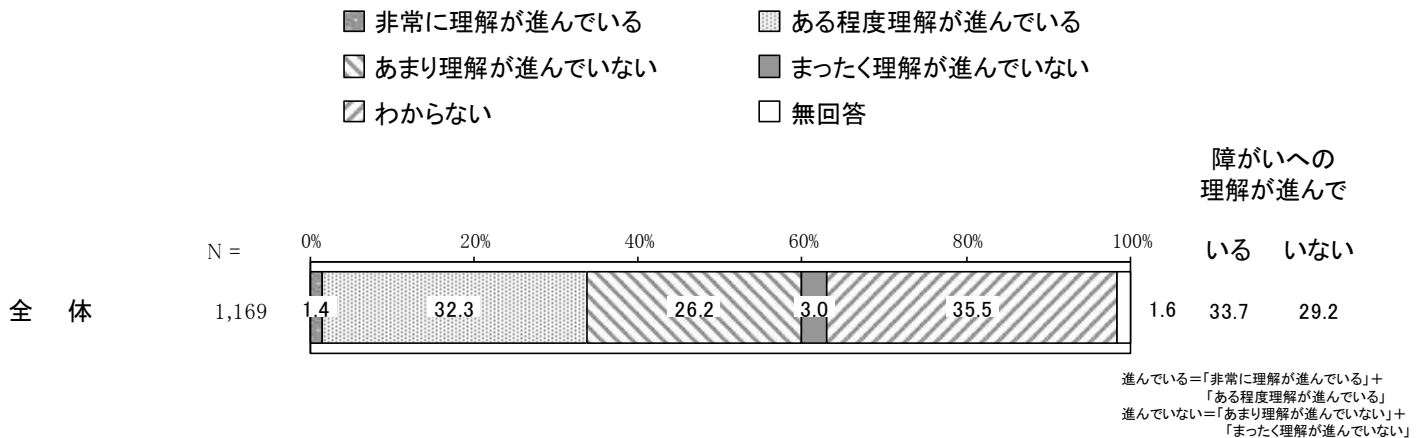


16 『障がいのある人への理解』について

問 33 市民の間に障がいのある人に対する理解が進んでいると感じますか。
(○は一つ)

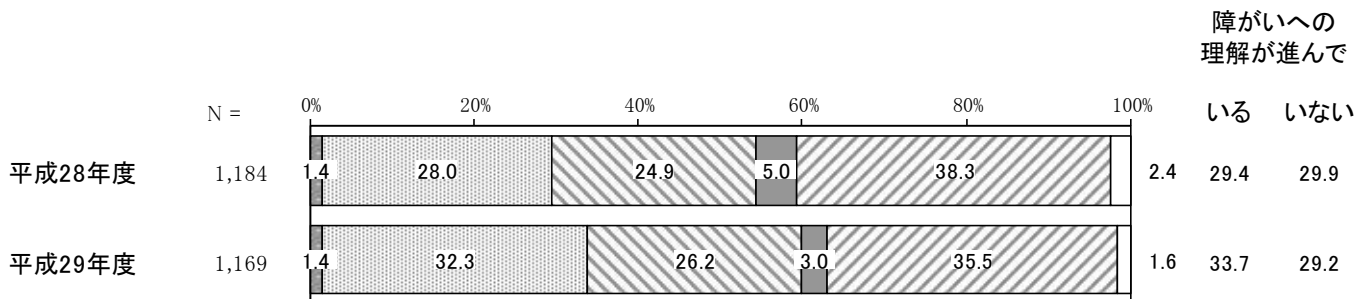
—障がいのある人に対する“理解が進んでいる”は33.7%—

「非常に理解が進んでいる」(1.4%)と「ある程度理解が進んでいる」(32.3%)をあわせた“理解が進んでいる”の割合は33.7%、「あまり理解が進んでいない」(26.2%)と「まったく理解が進んでいない」(3.0%)をあわせた“理解が進んでいない”の割合は29.2%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、“理解が進んでいる”の割合が増加しています。



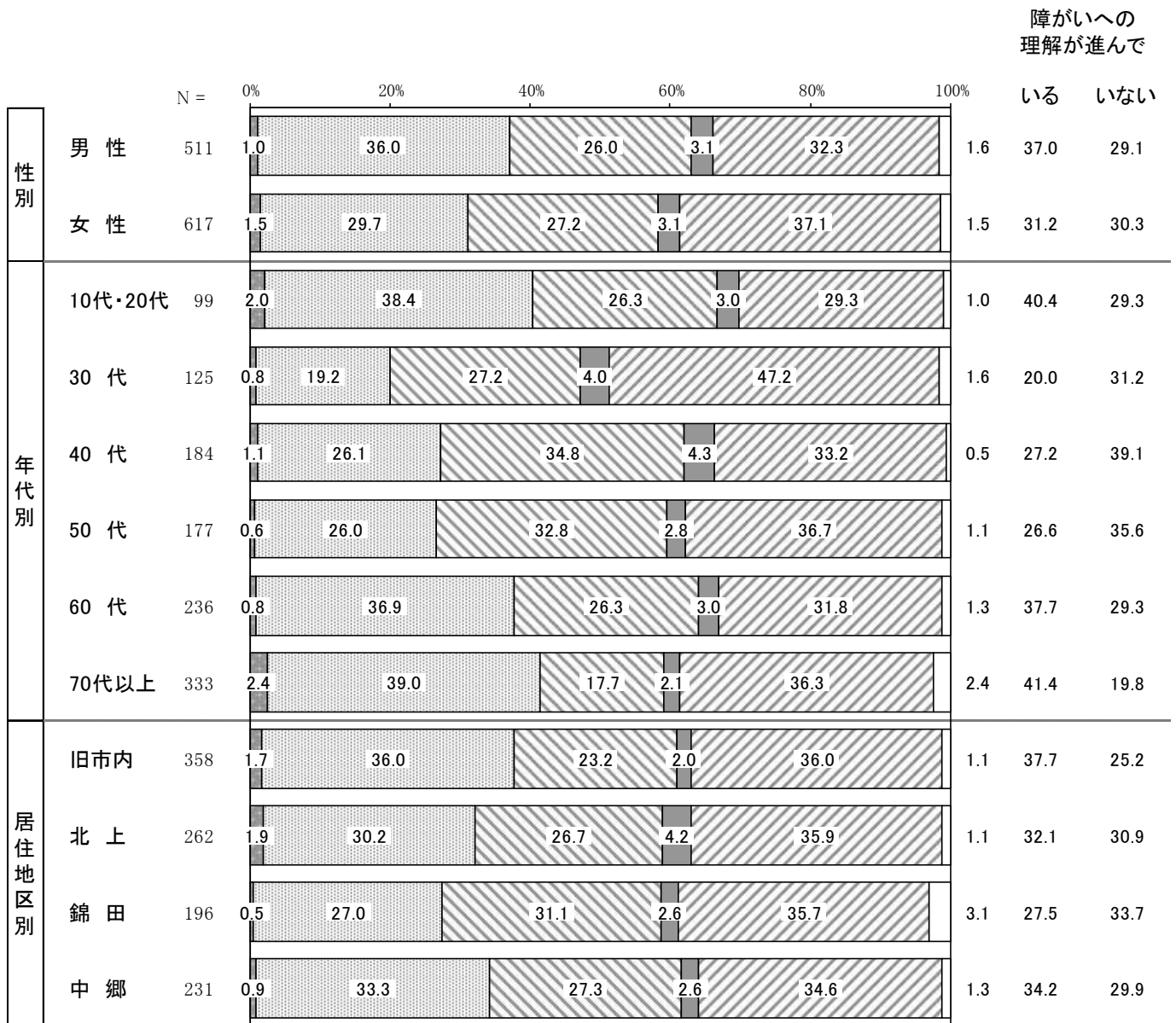
【属性別比較】

性別でみると、“理解が進んでいる”（男性 37.0%、女性 31.2%）は、女性よりも男性で高くなっています。

年代別でみると、“理解が進んでいる”の割合は70代以上（41.4%）、10代・20代（40.4%）で高く、4割を超えています。一方、“理解が進んでいない”は40代（39.1%）で最も高く、約4割となっています。

居住地区別でみると、“理解が進んでいる”の割合は旧市内（37.7%）で最も高く、約4割となっています。

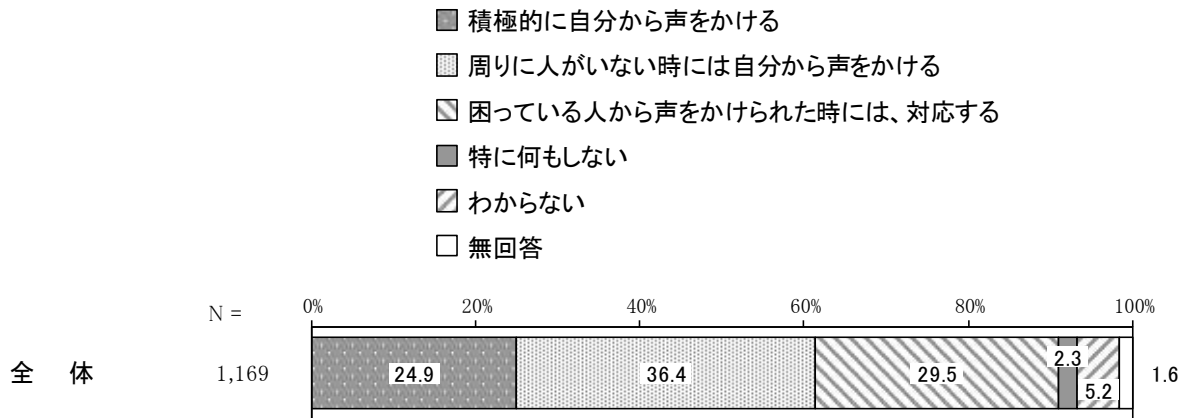
- 非常に理解が進んでいる
- ある程度理解が進んでいる
- あまり理解が進んでいない
- まったく理解が進んでいない
- わからない
- 無回答



問 34 障がいのある人、高齢者等が、街中で困っている様子を見かけた時、どのような対応をしますか。(対応をしたいと思いますか) (〇は一つ)

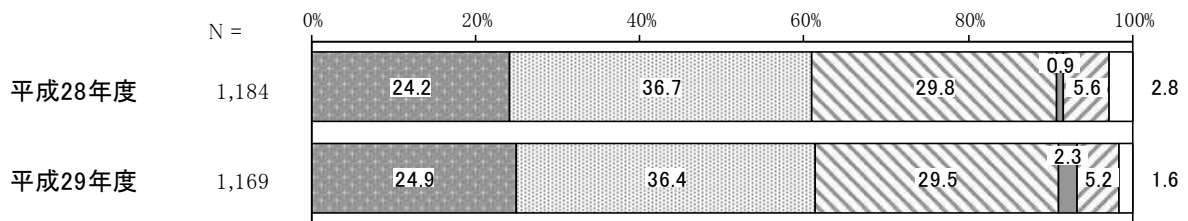
—「積極的に自分から声をかける」は 24.9%—

「周りに人がいない時には自分から声をかける」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「困っている人から声をかけられた時には、対応する」の割合が 29.5%、「積極的に自分から声をかける」の割合が 24.9%となっています。



【時系列比較】

時系列でみると、大きな変化はみられません。

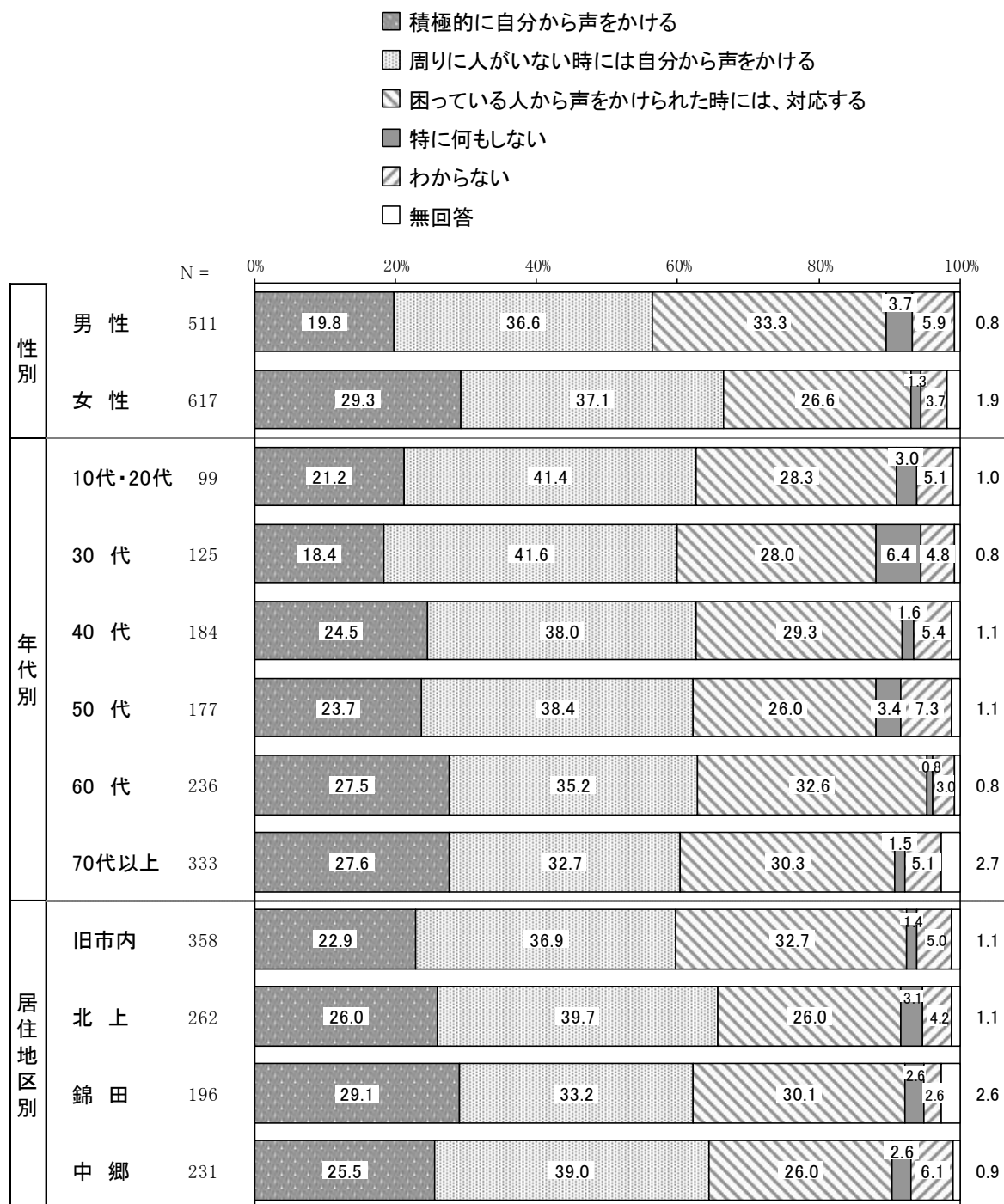


【属性別比較】

性別でみると、「周りに人がいない時には自分から声をかける」（男性 36.6%、女性 37.1%）が男性・女性ともに最も高くなっています。また、「困っている人から声をかけられた時には、対応する」は男性（33.3%）で女性（26.6%）よりも高く、「積極的に自分から声をかける」は女性（29.3%）で男性（19.8%）よりも高くなっています。

年代別でみると、すべての年代で「周りに人がいない時には自分から声をかける」が最も高く、次いで「困っている人から声をかけられた時には、対応する」が第2位、「積極的に自分から声をかける」が第3位となっています。

居住地区別でみると、いずれの地区でも「周りに人がいない時には自分から声をかける」が最も高く、「困っている人から声をかけられた時には、対応する」が2位となっています。

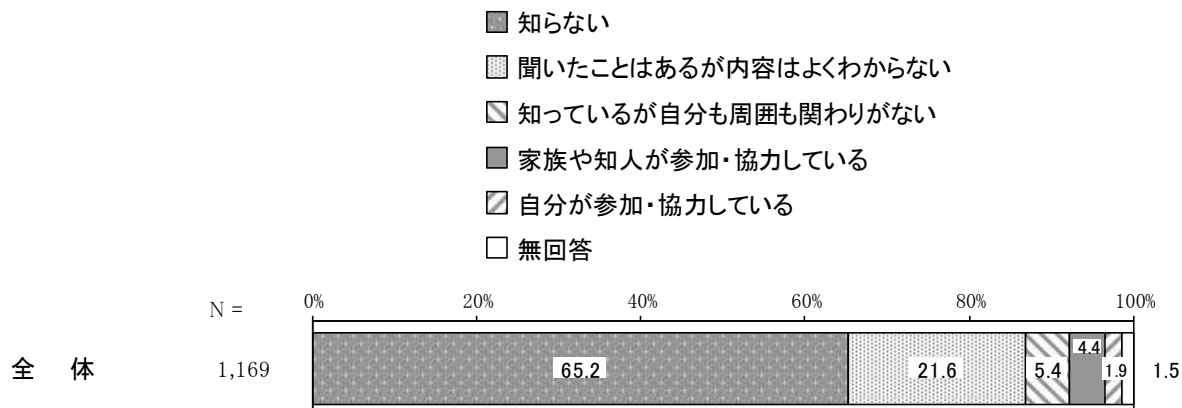


17 『学校・家庭・地域の連携協力』について

問 35 地域ぐるみで子どもを育むため、三島市立小中学校で学校支援地域本部事業を行っています。あなたは、「学校支援地域本部」を知っていますか(関わっていますか)。(〇は一つ)

— 「知らない」の割合は 65.2%—

「知らない」の割合が 65.2%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 21.6%、「知っているが自分も周囲も関わりがない」の割合が 5.4%となっています。



【属性別比較】

性別でみると、「知らない」(男性 67.5%、女性 63.2%) が男性・女性ともに最も高く、6割を超えています。また、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」は男性(18.8%)よりも女性(24.8%)で高くなっています。

年代別でみると、すべての年代で「知らない」が最も高く、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が第2位となっています。特に、「知らない」は30代(79.2%)で高く、約8割となっています。

居住地区別でみると、いずれの地区でも「知らない」が最も高く、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が第2位となっています。また、「知らない」が旧市内(69.3%)、中郷(67.1%)で約7割と高くなっています。

